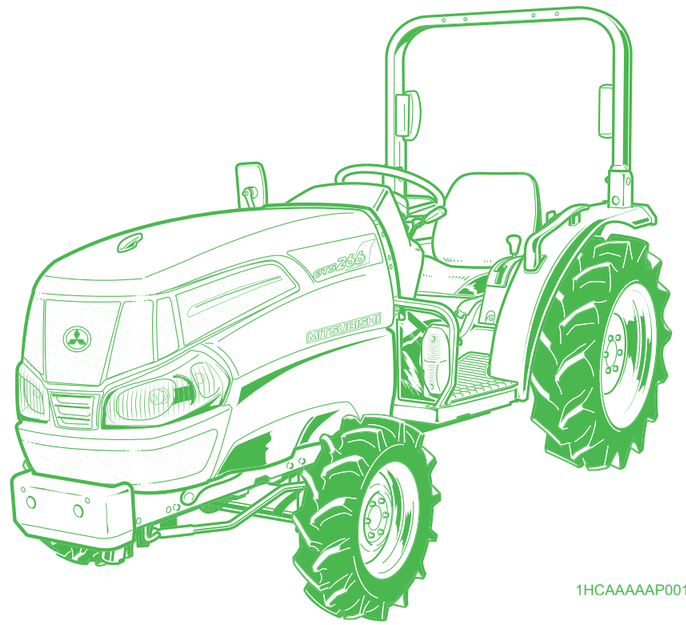
トラクタ

取扱説明書

GTS266・GTS316



1HCAAAAAP0010

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- 注意マーク
- 火気厳禁
- 燃料（残量）
- グロー
- バッテリ充電異常
- エンジン水温
- シートベルト
- メンテナンス
- ホーン
- ハザードランプ
- 方向指示器
- ヘッドライト（下向）
- ヘッドライト（上向）
- シャトル（前後進切換）
- アクセル高
- アクセル低
- 3点リンク（上げ）
- 3点リンク（下げ）
- FS 作業灯（フロントサイド）

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

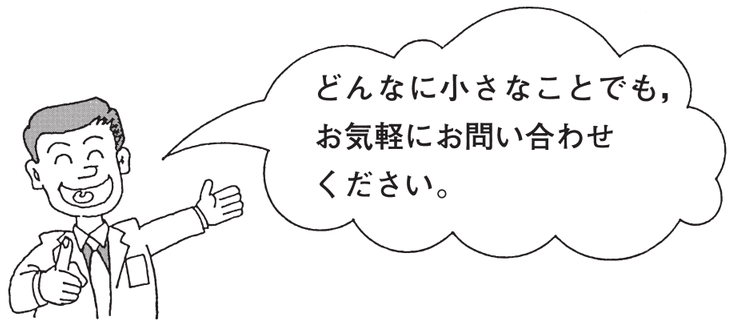
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

_____

TEL　　（　　）

GTS266/316
AO. G. 1-1. 0. K

はじめに

このたびは三菱製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危　険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

- エンジン出力(PS)によって…… GTS266 仕様，GTS316 仕様

- 果樹園・水田兼用…… M 仕様
  （モンロ・オート付き）
- 広幅特殊タイヤ付き…… W 仕様

（例：WM 仕様）

本書の見方

この取扱説明書には，次のようなトラクタを使ってわからないことがあった時や便利な機能が簡単に調べられる「困ったときには」のページを設けています。

1．困ったこと，やりたいことから関連する項目が調べられる目次
2．レバー・スイッチの名称がわからなくてもイラストから関連する項目が調べられるイラスト目次

わからないことがあった時には，本書を有効にご活用いただき，機械の性能を最大限に発揮させてください。

※本文中で使われている電子メッセージは，実際の表示と異なりますが，表示される内容は同じです。

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブ，安全フレームについて..... 1
運転前に..... 2
始動時に..... 3
運転時に..... 3
作業機使用時に..... 6
道路走行時に..... 7
駐車，格納時に..... 8
点検・給油・整備時に..... 8
表示ラベルと貼付け位置..... 11
表示ラベルの手入れ..... 15

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証..... 1
小型特殊自動車としての取扱い..... 2

運転のしかた

運転前の点検..... 3
エンジンの始動と停止..... 4
始動のしかた 4
停止のしかた 7
キースイッチ 7
非常停止スイッチ 8
寒冷時の暖機運転 9
バッテリあがりの処置 9
ならし運転（最初の約 50 時間）..... 10
運転席周りの調節..... 10
シート 10
シートベルトホルダ 11
安全フレームとシートベルトについて 11
チルトステアリングハンドル 12
バックミラー 12
灯火類の操作..... 13
ヘッドライトスイッチ 13
ウインカスイッチ 13
ハザードスイッチ 13
ホーンボタン 13
フロントサイド作業灯 14
外部電源・信号取出端子 14
走行装置の取扱い..... 15
発進・走行 15
停車・駐車 16
ブレーキペダル 17
クラッチペダル 18
各変速レバーの取扱い 18
クリープレバー 19
レバーについて 20
走行モード切換スイッチ 21
アクセルレバーとアクセルペダル 22
駐車ブレーキの解除のしかた..... 22
燃料給油時の便利な機能と装置 22
満タンお知らせブザーの取扱い..... 22
カンタン給油台の使い方..... 23
電子メータパネルの取扱い 24
電子メータ..... 24
表示の切換え..... 25
燃料計..... 29
水温計..... 29
エンジン回転計..... 29
電子メータメッセージのリセット法..... 30
機能選択表示 30
機能選択表示方法..... 31
メンテナンス表示..... 31
作業条件メモ..... 32
時刻合わせ設定と表示・非表示..... 33
燃費表示..... 34
状況に応じた操作 35
デフロックの使い方..... 35
旋回のしかた..... 35
坂道での運転..... 35
ほ場への出入り時の注意..... 36
道路走行中の注意..... 36
トラックへの積み・降ろし..... 37
パワーステアリングの取扱い..... 38
ロータ作業..... 39

作業のしかた

作業機昇降装置 40
油圧（ポジションコントロール）レバー.. 40
三点リンク高さ規制ダイヤル..... 40
ポンパレバー..... 41
オートアップスイッチ..... 43
バックアップスイッチ..... 44
作業機落下速度の調整..... 45
三点リンク 46
ロアーリンク取付け穴の選択..... 47
トップリンク..... 47
チェックチェーン..... 48
作業機を取付けないときの注意..... 48
オートワイヤの収納..... 48
けん引ヒッチ（別売）..... 49
けん引フック..... 49
PTO..... 50
PTO 変速レバー 50
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ..... 50
モンローマチックオートの取扱い 51
各部の名称..... 51
ワンタッチ耕うんモードスイッチ..... 52
3P 切換スイッチ 54
モンロスイッチ..... 54
切換スイッチ..... 57
モンロ角度調節ダイヤル..... 58
オートスイッチ..... 58

目　次

耕深調節ダイヤル 59
モンロ手動スイッチ 59
作業機の取扱い 59
タイヤ・ウエイト 60
タイヤの空気圧 60
輪距の調整 60
ウエイト（オプション） 62

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 63
洗車時の注意 63
定期点検箇所一覧表 65
給油（水）一覧表 66
トラクタの給油（水） 66
推奨オイル・グリース一覧表 67
エンジンオイル・ミッションオイル 67
グリース 67
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 68
ボンネットの開閉 68
サイドカバーの取り外し 68
フロントカバーの取り外し 68
日常点検 69
前日の異常箇所 69
トラクタの周りを歩いて 69
エンジンオイルの量及び汚れ 69
ミッションオイルの量及び汚れ 70
冷却水の量 70
バキュエータバルブの清掃 71
ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換 71
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 72
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 72
防虫網の清掃 73
ブレーキペダルの遊び・点検 73
駐車ブレーキの作動点検 74
クラッチペダルの遊び・点検 74
メータ・ランプ類の作動 74
燃料の補給 75
エンジンの始動確認 75
50 時間ごとの点検・整備 76
グリースの注入 76
エンジン始動システムの点検 76
タイヤ取付けボルトの点検 77
クラッチハウジングの水抜き 77
パワーステアリングホースの点検 77
燃料ホースの点検 78
100 時間ごとの点検・整備 78
エンジンオイルの交換 78
エンジンの排気の状態 79
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 79
バッテリ電解液の点検 79
エアクリーナエレメントの清掃 81
ファンベルトの点検・調整 82
クラッチペダルの点検・調整 82
ブレーキペダルの点検・調整 83
200 時間ごとの点検・整備 83
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 83
ラジエータホースの点検 84
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 84
ステアリングジョイント部の点検 85
トーイン調整・タイロッドの点検 85
300 時間ごとの点検・整備 86
前車軸ケースオイルの交換 86
400 時間ごとの点検・整備 86
ミッションオイルの交換 86
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 87
600 時間ごとの点検・整備 87
前部デフケース前後遊びの調整 87
800 時間ごとの点検・整備 87
エンジンバルブクリアランスの点検 87
１年ごとの点検・整備 87
エアクリーナエレメントの交換 87
２年ごとの点検・整備 88
冷却水の交換 88
ラジエータの洗浄 89
ラジエータホースの交換 89
パワーステアリングホースの交換 89
燃料ホースの交換 89
メインシリンダホースの交換 89
モンローシリンダホースの交換 89
必要に応じた点検・整備 89
燃料の空気抜きのしかた 89
ヒューズの交換 90
スローブローヒューズの交換 90
ランプ類の交換 90
格納 91
長期格納時の手入れ 91
不調と処置 93
エンジンの不調と処置 93
モンローオート・倍速仕様の故障と処置 94

付表

主要諸元 96
トラクタの主要諸元 96
走行速度表 97
標準付属品 97

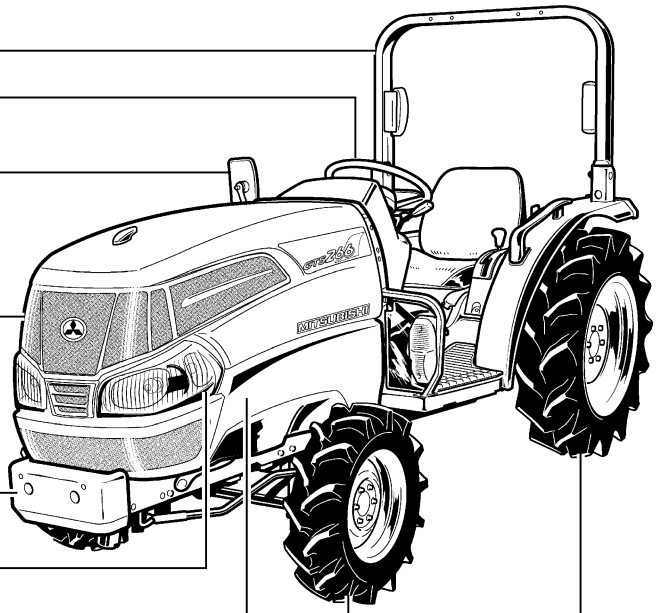
索引

困ったときには

こんな時には…

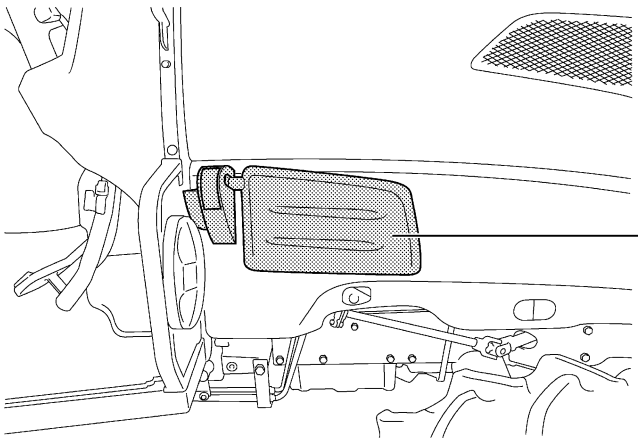
	目的	項目	参照ページ
エンジン始動時に	電子メータにメッセージが表示された時には	表示の切換え	25
	スタータモータが回らない	エンジンの始動と停止	4
	エンジンの調子が悪い	エンジンの不調と処置	93
道路走行時に	高速走行するには	クリープレバー	19
	2WD，4WD，倍速を切換えたい	走行モード切換スイッチ	21
作業時に	作業に適切な速度は	各変速レバーの取扱い	18
	ほ場作業時の設定を簡単に行なうには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	52
	ほ場作業時の設定を変更したい	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	52
	傾斜地でモンローマチックを使用したい	モンロスイッチ	54
	ロータリカバーを上げた状態でオートを使いたい	オートスイッチ	58
	スリップした時には	デフロックの使い方	35
	電子メータにメッセージが表示された時には	電子メータ，不調と処置	24，94
	インプルメントを取付けるには	ロアーリンク取付け穴の選択	47
	前輪の前を照らしたい	フロントサイド作業灯	14
	作業機の上げ高さを規制したい	三点リンク高さ規制ダイヤル	40
	旋回時，自動的にロータリを上げたい	オートアップスイッチ	43
	後進時，自動的にロータリを上げたい	バックアップスイッチ	44
メンテナンス時に	燃料補給時に便利な機能は	満タンお知らせブザーの取扱い	22
	日常点検ですべきことは	日常点検	69
	オイル量を知りたい	給油（水）一覧表	66

■外観



安全フレーム……11頁
ハンドル……12頁
バックミラー……12頁
フロントカバー……68頁
ウエイト（オプション）……62頁
フロントサイド作業灯……14頁
サイドカバー……68頁
前輪タイヤ……60頁
後輪タイヤ……60頁

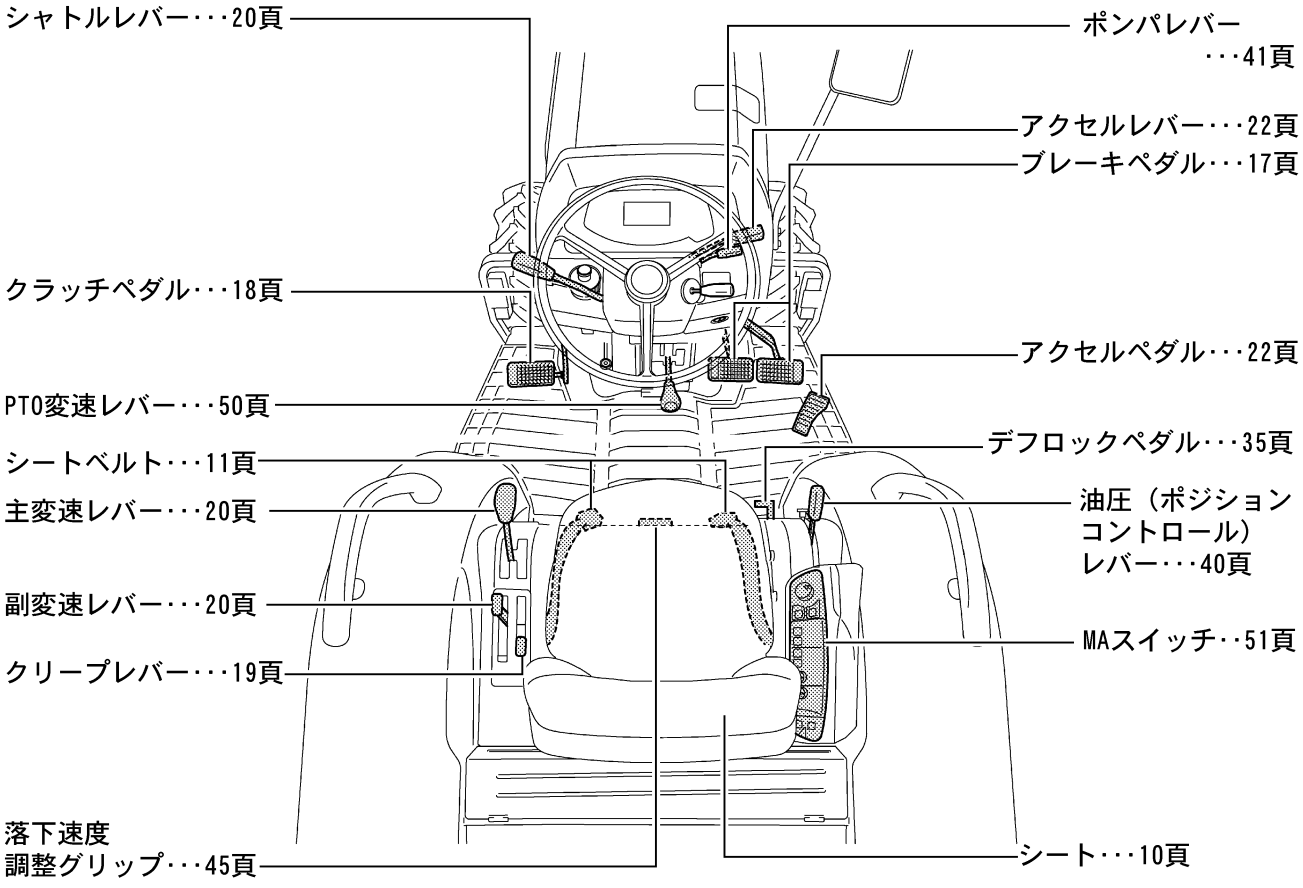
1HCAAAAAP001A



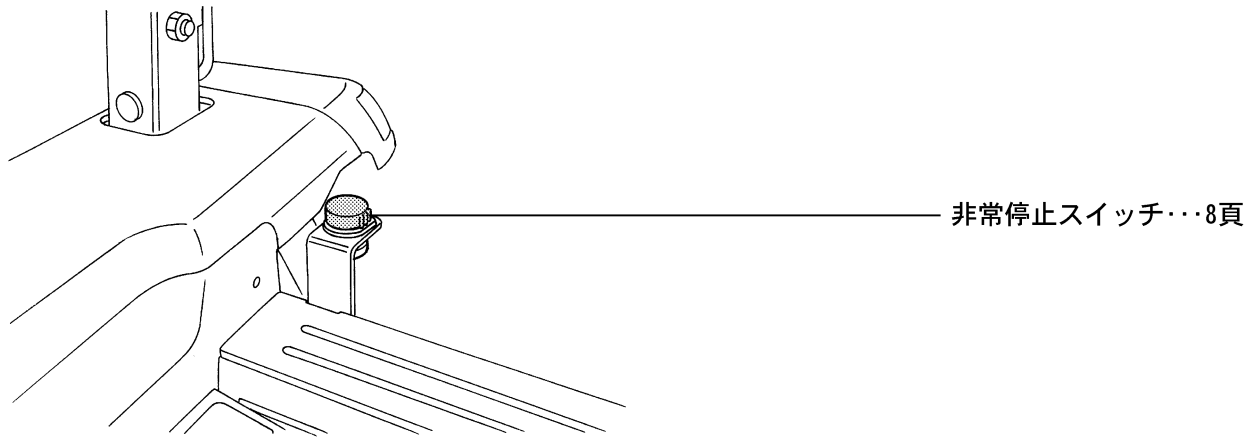
カンタン給油台……23頁

1AGACCOAP106C

■操作レバー・ペダル

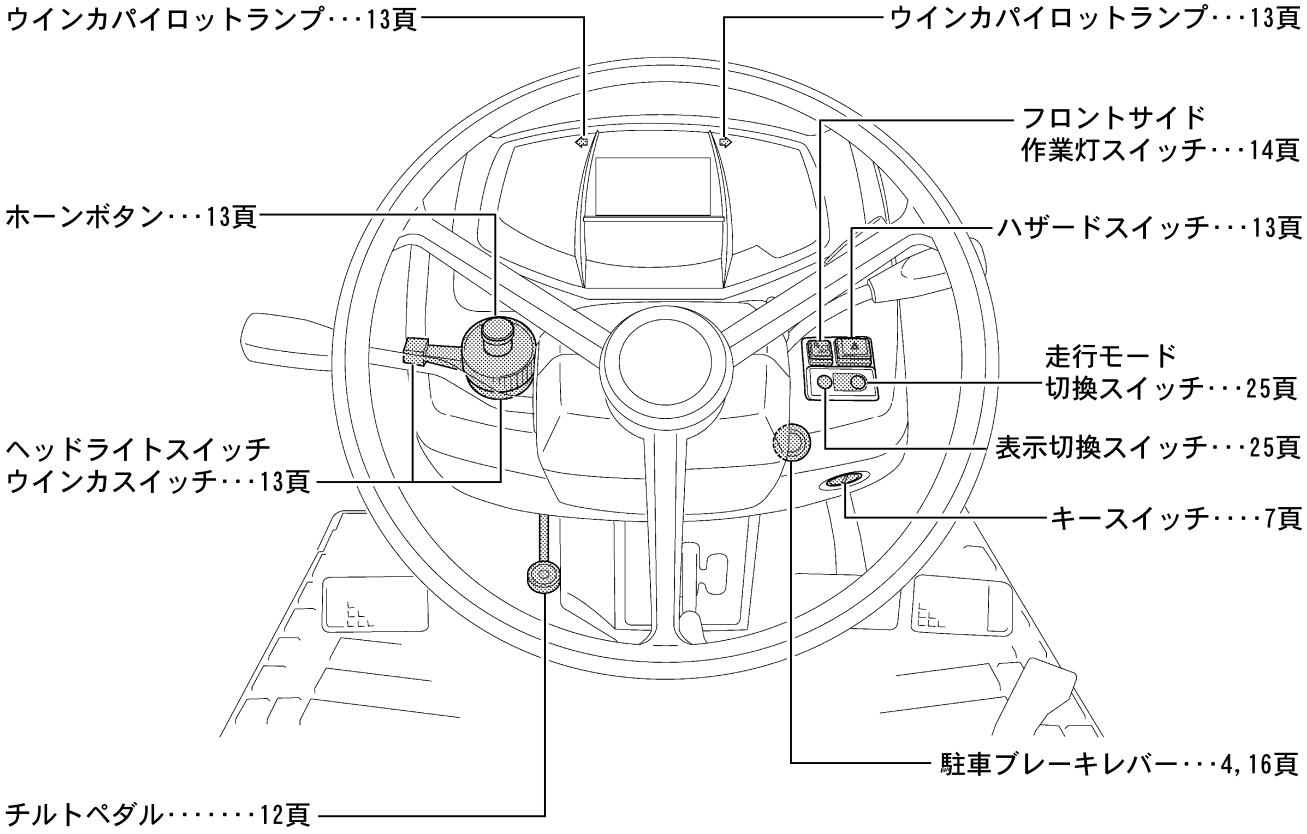


1HCAAABAP007A



1AGACBAAP299D

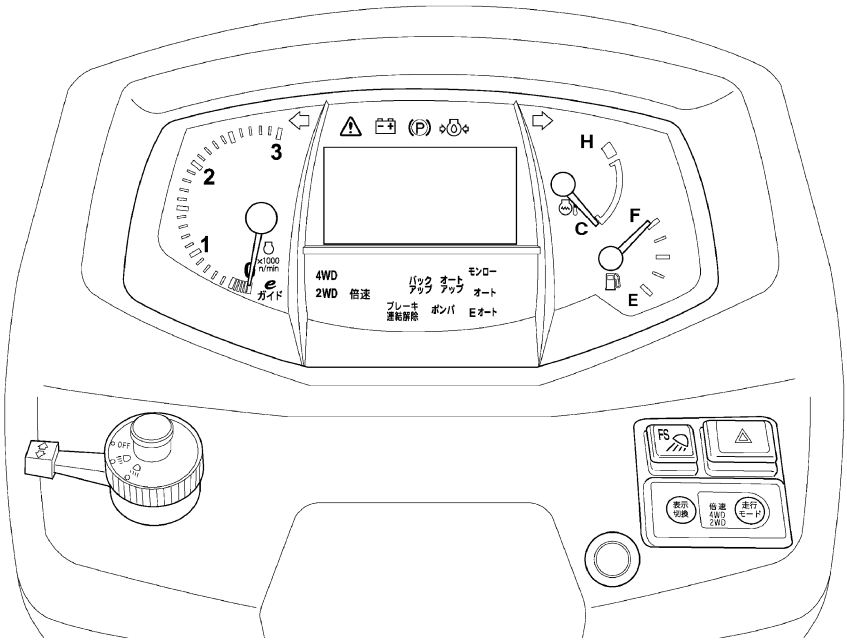
■スイッチ



1HCAAABAP008A

■電子メータ

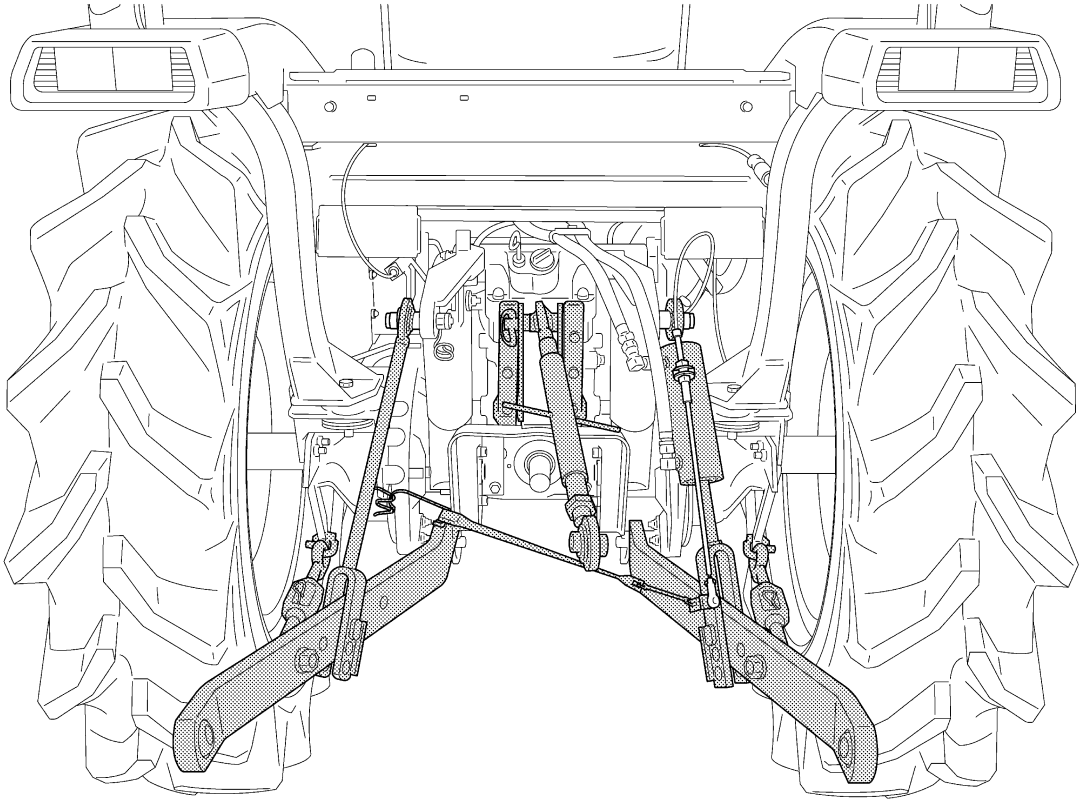
詳細は［電子メータ］の項24頁参照



1HCAAABAP009A

■三点リンク

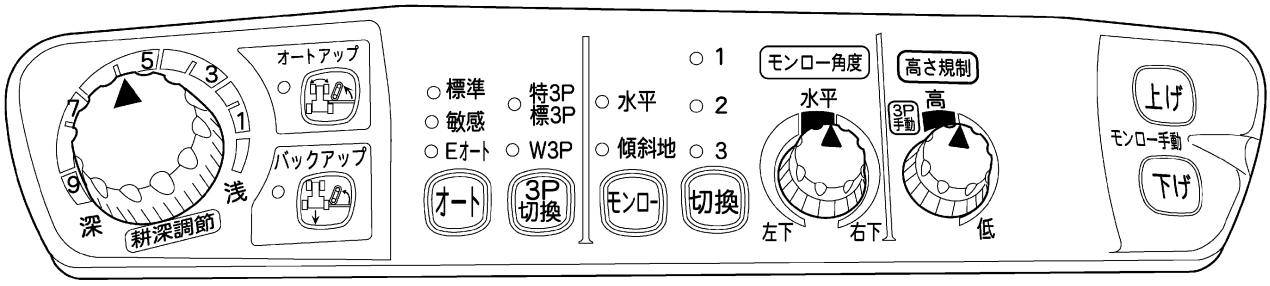
詳細は［三点リンク］の項46頁参照



1AGACBAAP315B

■モンロー操作パネル

詳細は［モンローマチックオートの取扱い］の項51頁参照



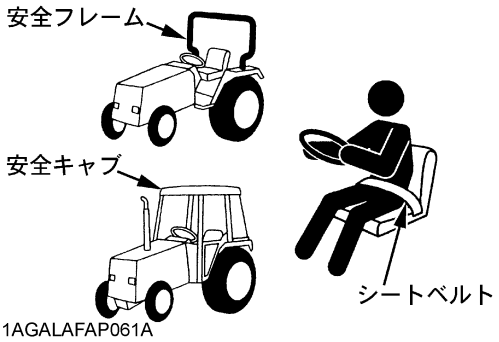
1AGACCOAP029A

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

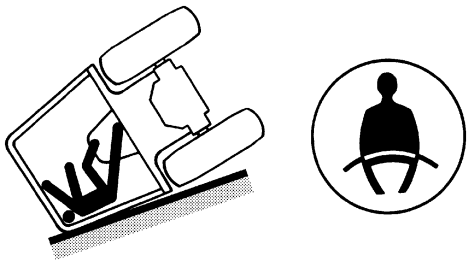
安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

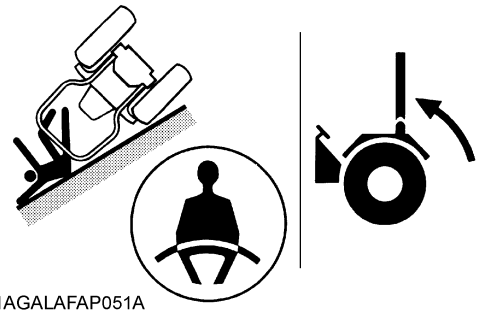


1AGALAFAP061A

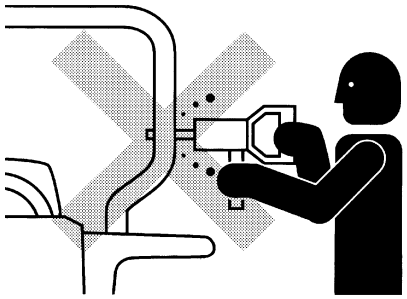
1. 運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP050A

2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋への出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

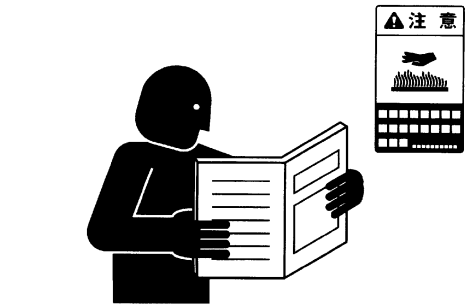

1AGALAFAP051A

6. 安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP034B

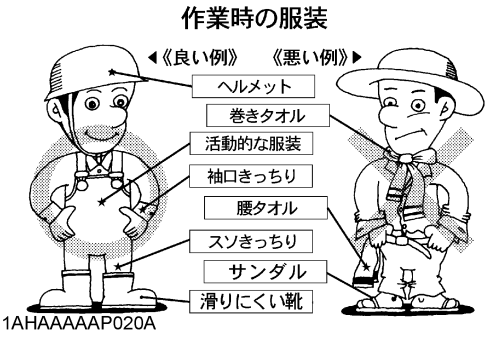
運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP035A

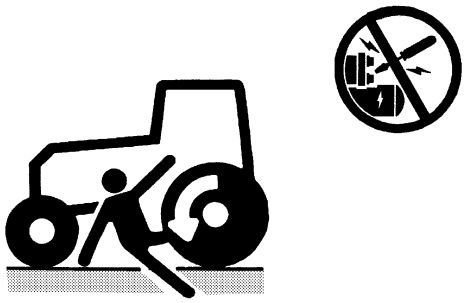
5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。



1AHAAAAAP020A

始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー・PTO 変速レバーが**［中立］**かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出す恐れがあります。



1AGALAFAP058B

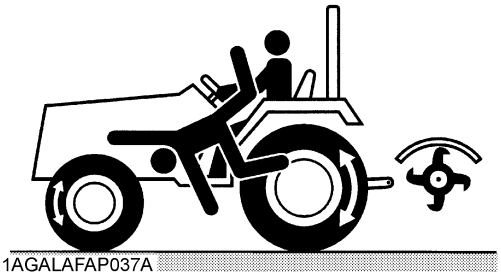
3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。
   又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。



1AGALAFAP036C

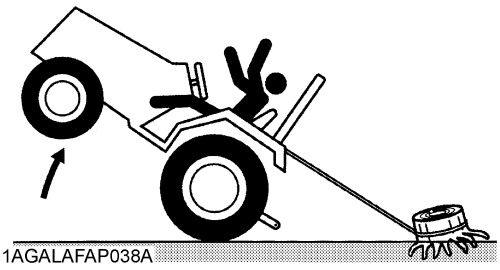
運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。



1AGALAFAP037A

2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。



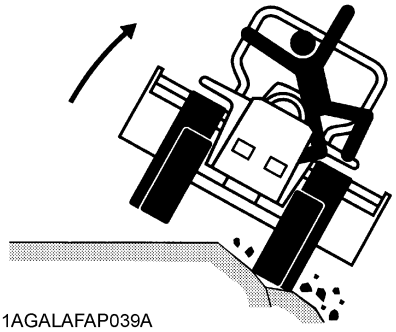
1AGALAFAP038A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。



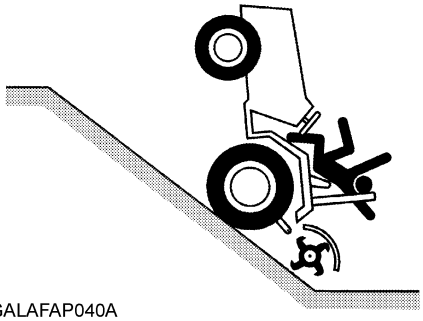
1AGALAFAP052A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



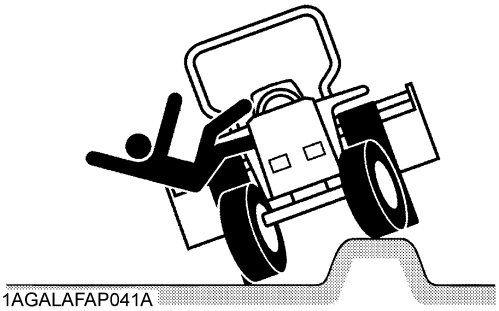
1AGALAFAP039A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



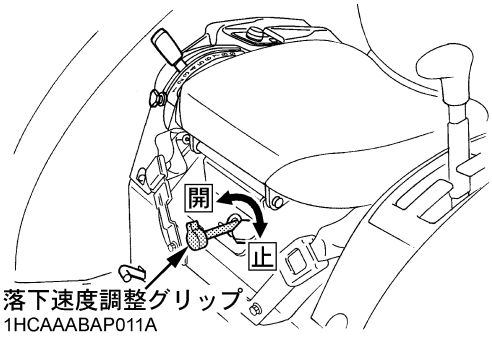
1AGALAFAP040A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。



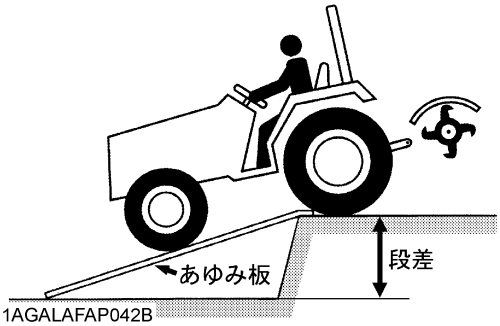
1AGALAFAP041A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
遅い方向に締めきるとロック（停止）します。



1HCAAABAP011A

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



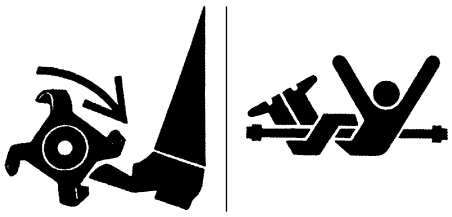
1AGALAFAP042B

11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こす恐れがあります。
必ず走行モード切換スイッチを【2WD】又は【4WD】に切換えてください。


1AGALAFAP059A

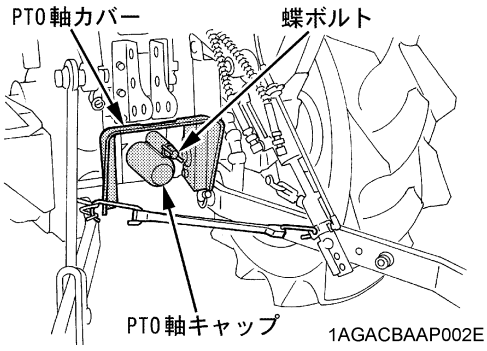
作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。



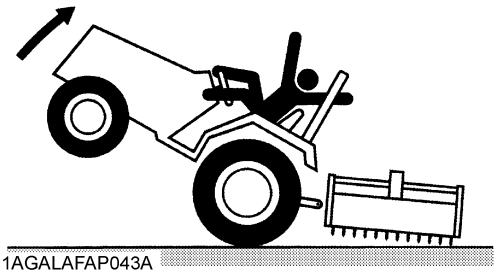
1AGALAFAP054A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
   機械の破損や人身事故の恐れがあります。



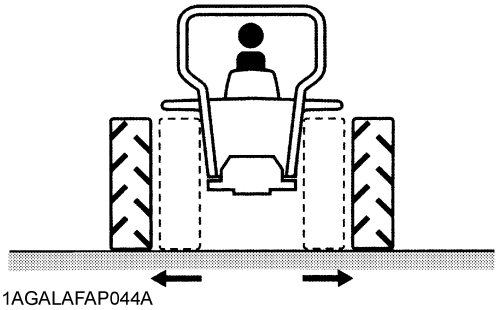
1AGACBAAP002E

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
   前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
   大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
   詳細は購入先にご相談ください。



1AGALAFAP043A

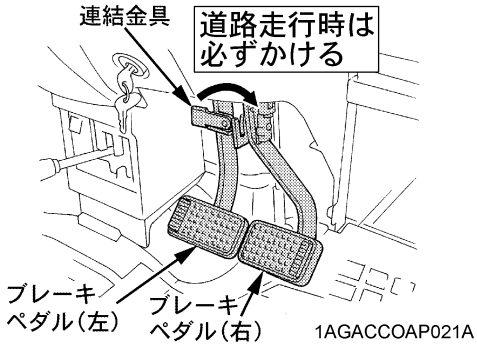
8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。



1AGALAFAP044A

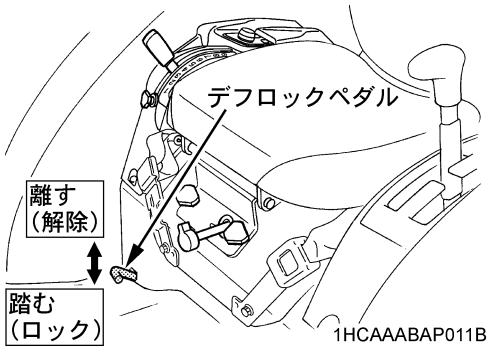
道路走行時に

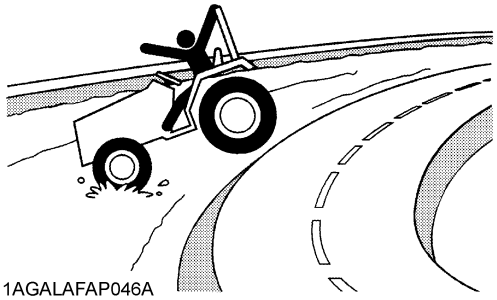
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故の恐れがあります。



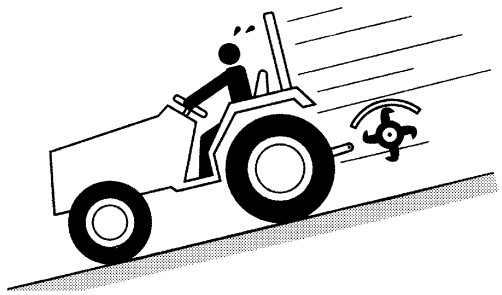


2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。



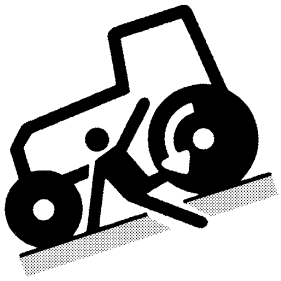


4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
   操縦ができなくなる恐れがあります。
5. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。
   (道路運送車両法の保安基準)
   作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
6. 交通や安全規則を守ってください。
   運転免許証は，必ず携行してください。


1AGALAFAP047A

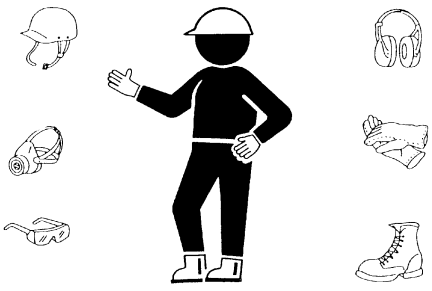
駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**［切］**，作業機を**［下げ］**，各変速レバーを**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

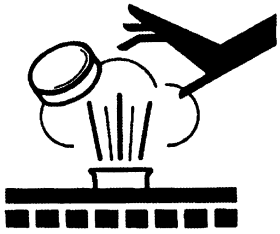

1AGALAFAP053A

点検・給油・整備時に

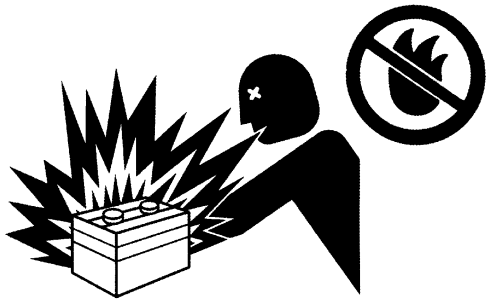
1. 点検整備にはヘルメット，安全靴と安全な服装を着用してください。
   作業内容によっては保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
   各保護具は使用前に機能を確認してください。


1AGADAPAP122A

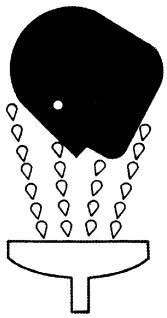
2. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，各変速レバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを**［停止］**してください。
3. エンジン・マフラ・ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1AGALAFAP055A

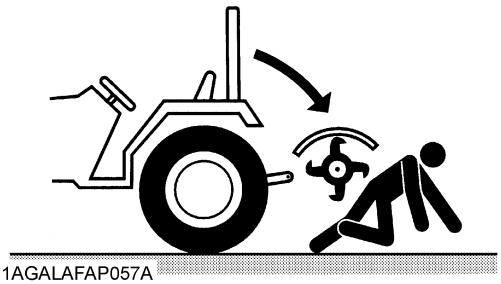
4. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。
5. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
（**［運転のしかた］**の章の**［バッテリあがりの処置］**の項を参照）


1AGALAFAP048A

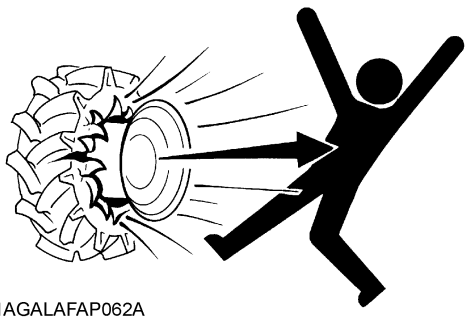
6. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（開放型バッテリ）
7. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
8. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP014B

9. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP057A

10. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂の恐れがあり死傷事故を引起こす原因になります。
11. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂の恐れがあります。
12. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

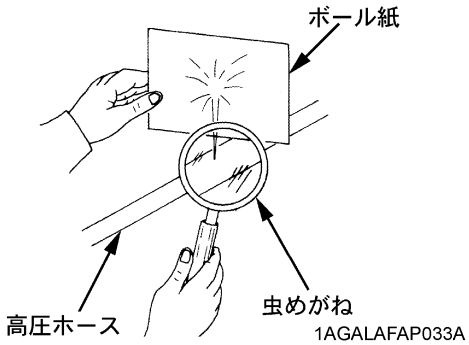

1AGALAFAP062A

13. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。



1BAACAAAP010D

14. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP033A

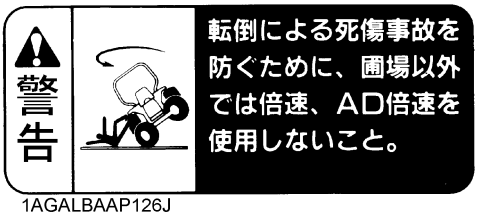
15. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP018D

表示ラベルと貼付け位置

(1)品番　KT106049050



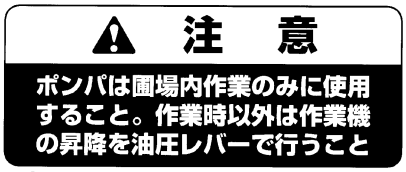
1AGALBAAP126J

(2)品番　KT185049080



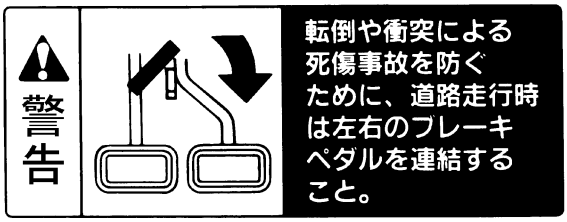
1AGACCBAP123J

(3)品番　KT106049640

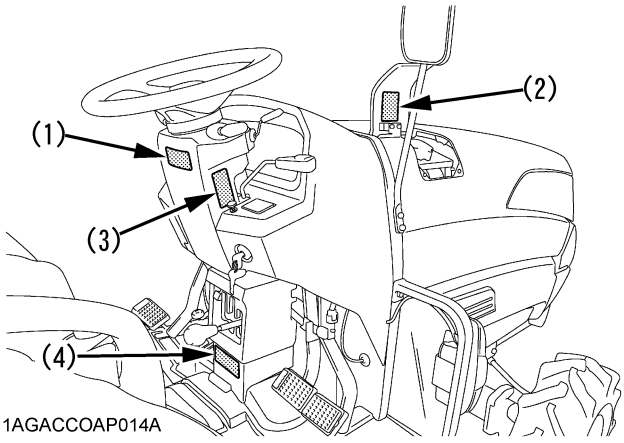


1AGALBAAP133J

(4)品番　KT106049030

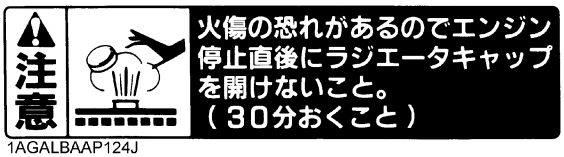


1AGADALAP238J



1AGACCOAP014A

(1)品番　KT106049540



1AGALBAAP124J

(2)品番　KT185049580



1AGACCBAP124J

(4)品番　KTC26055420 **[MF（メンテナンスフリー）バッテリ]**



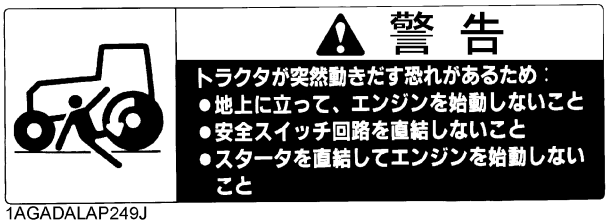
1AGASABAP073J

(4)品番　KT106030090 **[開放型バッテリ]**



1AGADALAP254J

(3)品番　KT018049650

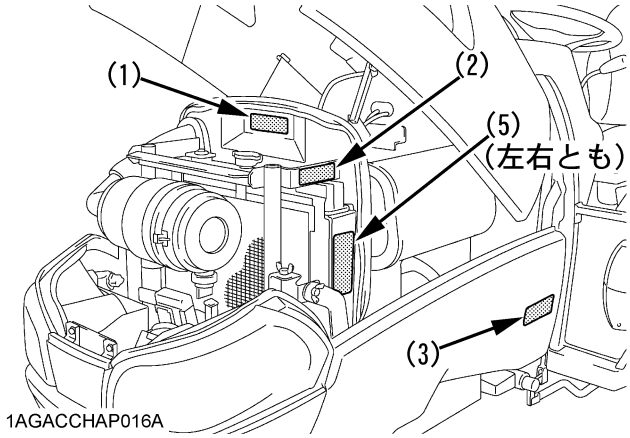


1AGADALAP249J

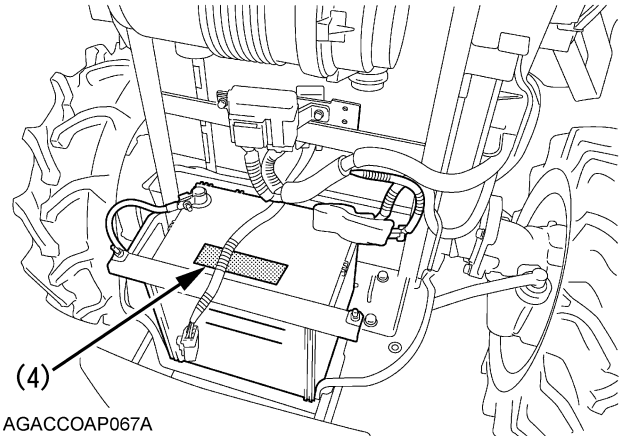
(5)品番　KT185049550



1AGACCBAP125J

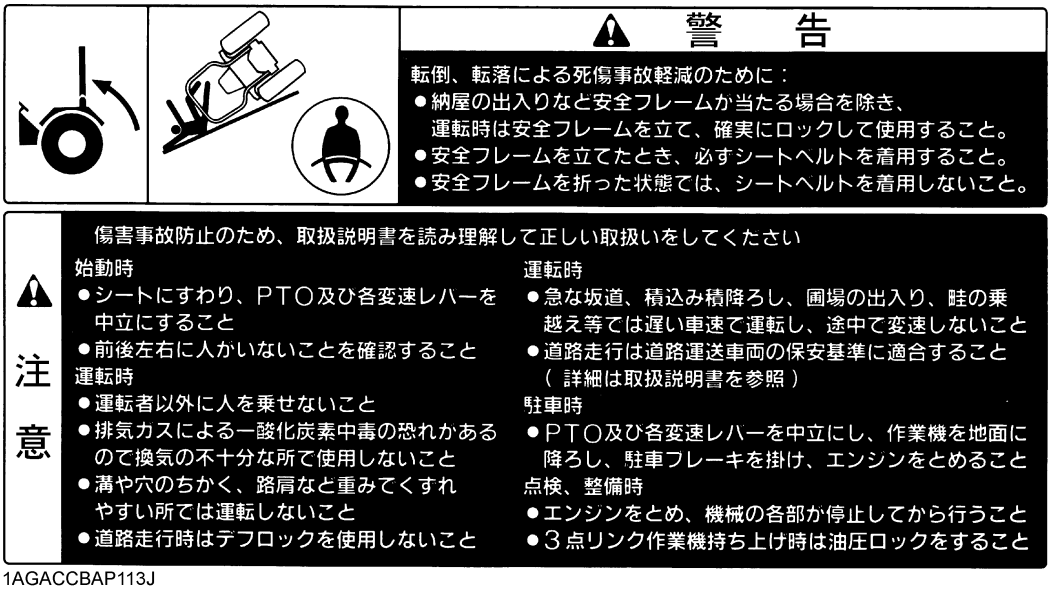


1AGACCHAP016A



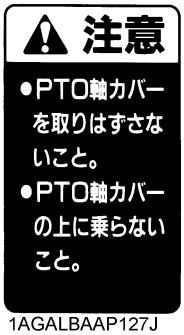
1AGACCOAP067A

(1)品番　KT106049010



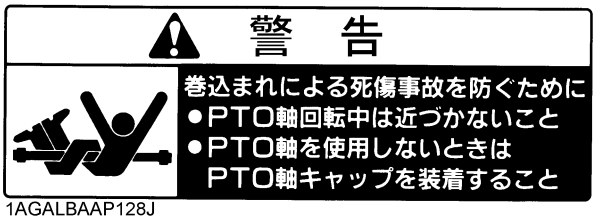
1AGACCBAP113J

(2)品番　KT106049680



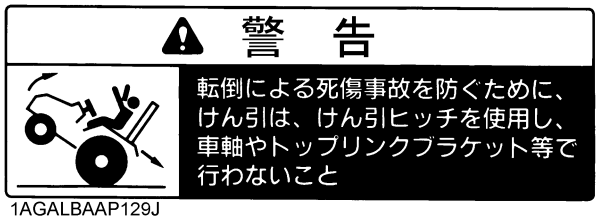
1AGALBAAP127J

(3)品番　KT106049590

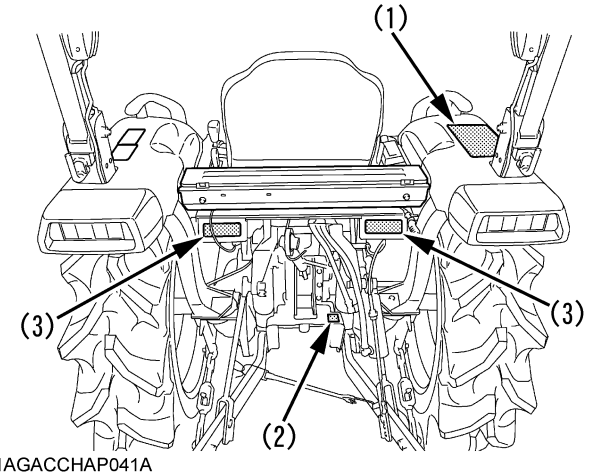


1AGALBAAP128J

(4)品番　KT106049040

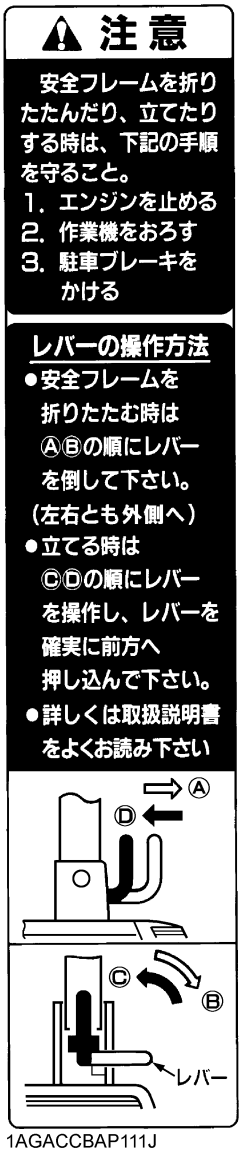


1AGALBAAP129J



1AGACCHAP041A

(1)品番　KT106049270

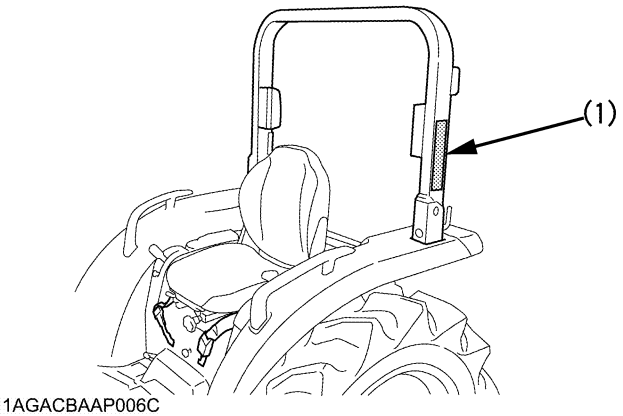


1AGACCBAP111J

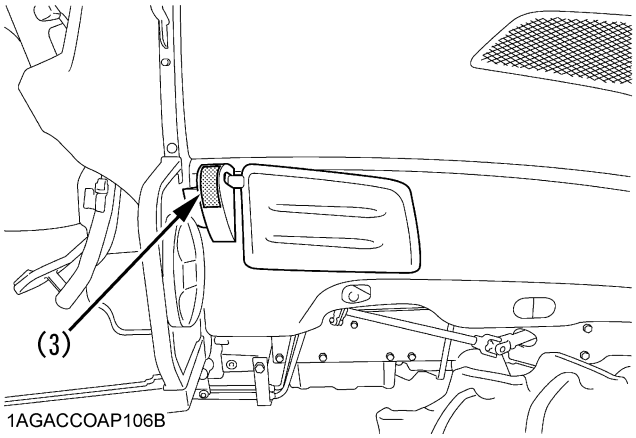
(2)品番　K6A90054662



1AGATAHAP0430



1AGACBAAP006C



1AGACCOAP106B

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

この製品には，保証登録カードが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

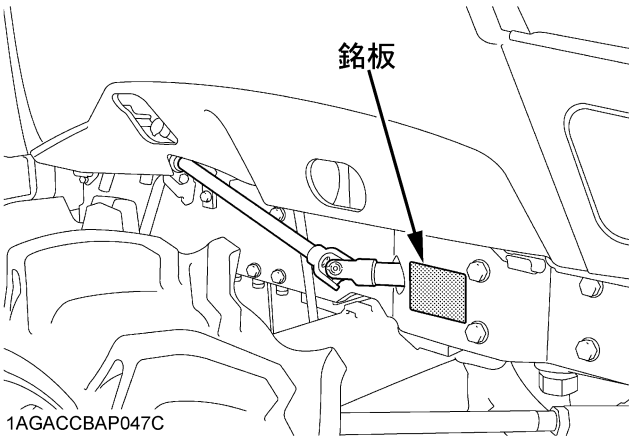
■ ご相談窓口

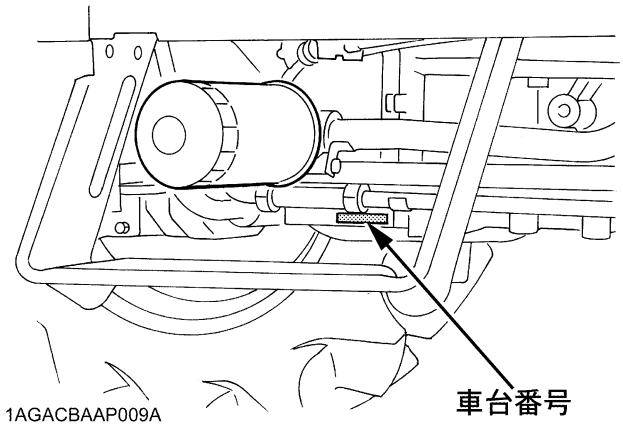
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 製造番号

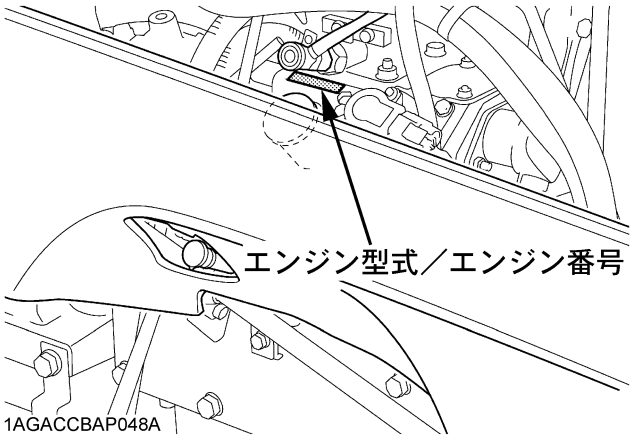
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。







■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

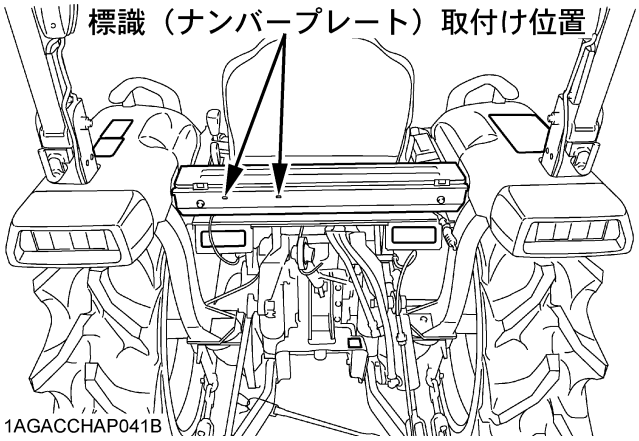
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。



■ 運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

補　足

＊ インプルメントやアタッチメントを装着した状態では**［道路運送車両法の保安基準］**を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯はフロントサイド作業灯を含め**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず**［指定オイル］**を使用してください。

エンジンの始動と停止

警　告

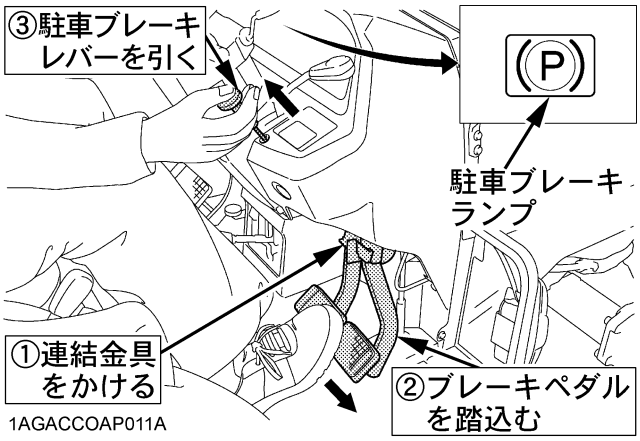
- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，シャトルレバーや PTO 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

■始動のしかた

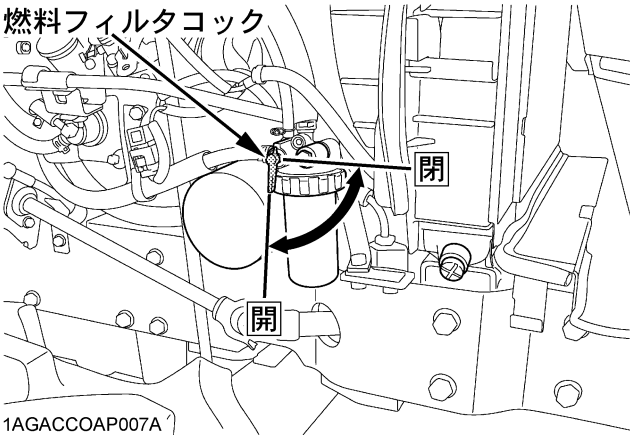
1. 駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**[引い]**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

キースイッチ**［入］**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の(Ⓟ)ランプが点灯します。



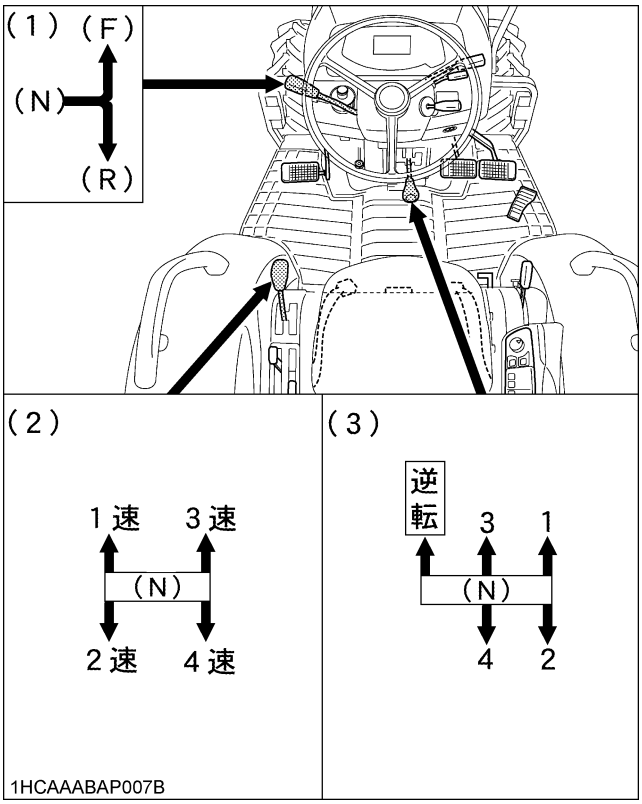
2. 燃料フィルタコックを［開］にします。



3. 主変速レバー，シャトルレバー，PTO 変速レバーを［中立］(N) にします。

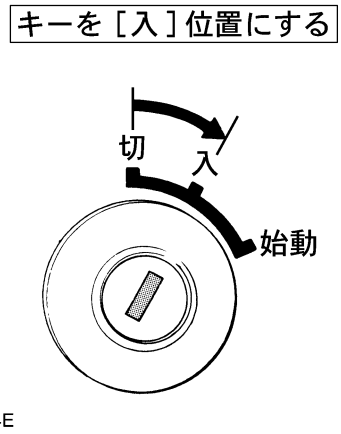
補　足

＊ シャトルレバーと PTO 変速レバーを **［中立］(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。



(1) シャトルレバー
(F)［前進］
(N)［中立］
(R)［後進］
(2) 主変速レバー
(3) PTO 変速レバー

4. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

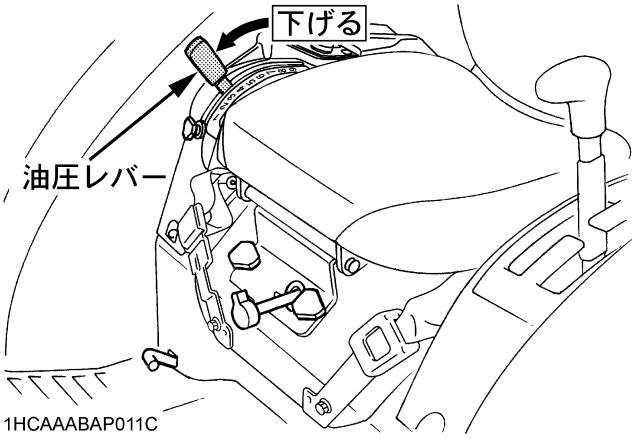


補　足

＊ 冬期には自動で予熱が始まり電子メータにグロー表示が現れます。
＊ 予熱が完了すると自動的にグロー表示が消えます。
消えた後，エンジンを始動してください。



5. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。



補　足

＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
＊ ポンパランプが点滅している場合は，油圧レバーを後方に引き点滅を解除してください。

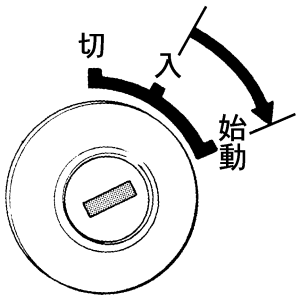
6. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

7. キーを［始動］位置に回します。

キーを［始動］位置にする



1AGACBAAP024F

電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時，下記のメッセージが表示されると，エンジンは始動できません。メッセージに従ってレバーを**［中立］**又は**［切］**に戻してください。

PTOレバーを
「中立」にして下さい

シャトルレバーを
「中立」にして下さい

PTOレバーと
シャトルレバーを
「中立」にして下さい

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

8. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

9. 電子メータの［チャージランプ］・［エンジンオイルランプ］を確認します。

もし点灯している場合は，エンジンを停止し，点検してください。

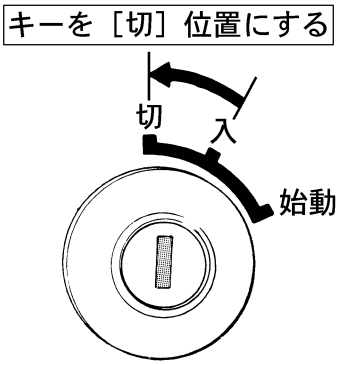
10. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

重　要

＊ エンジン回転中にキーを**［入→切→入］**と素早く操作するとエンジンは**［停止せず］**，電源系のみが一瞬**［停止状態］**になるため，マイコンがスイッチなどの故障と判断し，PTO スイッチ，電子メータなどの作動に異常をきたすことがあります。
この場合機械の故障ではないので，いったんエンジンを**［停止］**したあと，エンジンを再始動してください。

■停止のしかた

1. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。



1AGACBAAP024G

2. キーは必ず［抜き］ましょう。

重　要

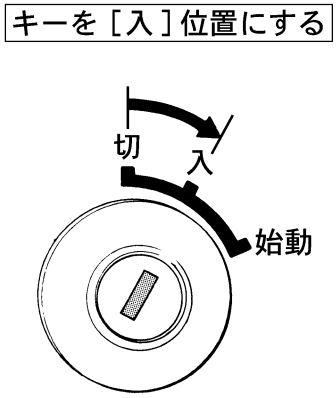
＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーを抜いてください。

■キースイッチ

切・・・・・・・・・ エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

入・・・・・・・・・ 燃焼室内を予熱する位置。
エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

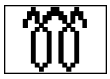
始動・・・・・・・ エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に**【入】**に戻ります。



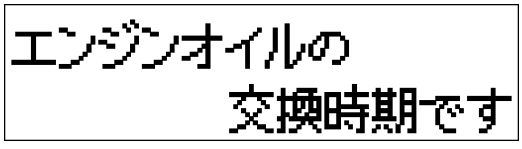
1AGACBAAP024E

電子メータメッセージ

＊ キースイッチ**【入】**時，予熱が完了すると自動的にグロー表示が消えます。



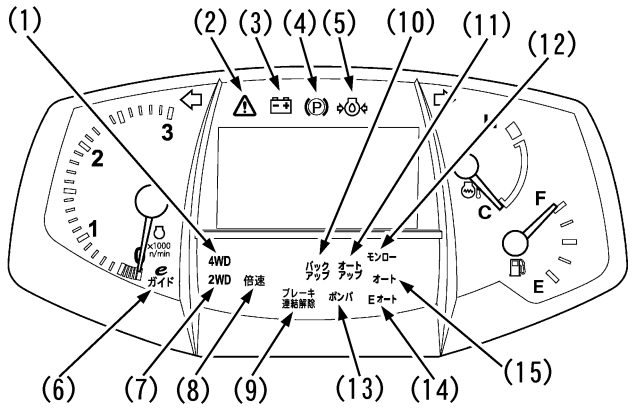
＊ エンジン始動時などで，下記メッセージが約 5 秒間表示されます。
エンジンオイルが交換時期に達している場合（初回 50 時間，以降 100 時間ごと）



（**［運転のしかた］**の章の**［電子メータパネルの取扱い］**の**［電子メータメッセージのリセット法］**の項，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エンジンオイルの交換］**の項を参照）

◆ モニタランプ

キースイッチを**［入］**位置にすると，ランプ切れチェックのため，全てのランプが約 1 秒間点灯します。(**［運転のしかた］**の章の**［電子メータ］**の項を参照)



1HCAAABAP010A

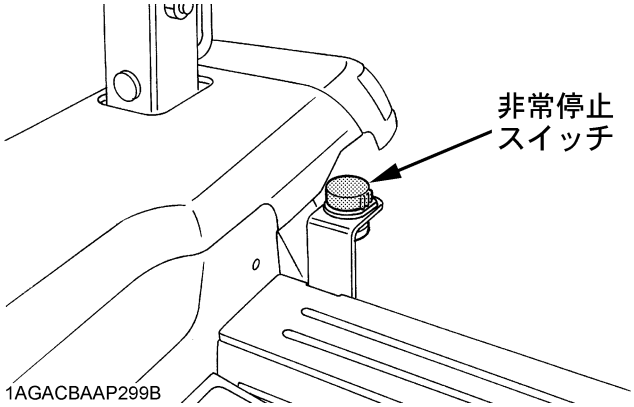
(1) **4WD ランプ**
(2) **警告ランプ**
(3) **バッテリチャージランプ**
(4) **駐車ブレーキランプ**
(5) **エンジンオイルランプ**
(6) **e ガイドランプ**
(7) **2WD ランプ**
(8) **倍速ランプ**
(9) **ブレーキ連結解除ランプ**
(10) **バックアップランプ**
(11) **オートアップランプ**
(12) **モンロランプ**
(13) **ポンパランプ**
(14) **E オートランプ**
(15) **オートランプ**

補　足

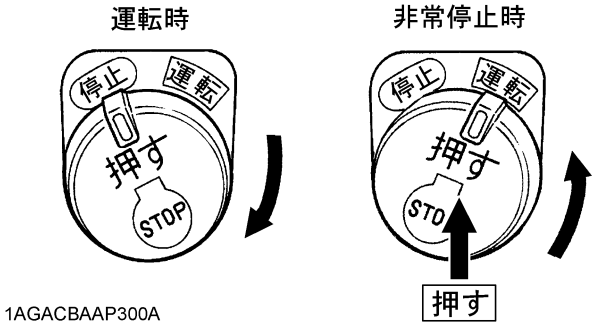
＊ 各スイッチの状態によりランプ切れチェック後、消灯や点灯のままのランプもあります。

■非常停止スイッチ

非常時このスイッチを押すと，スイッチが**［停止］**位置に戻り，エンジンが停止します。
停止後，スイッチを押しながら**［運転］**位置に回しておいてください。



1AGACBAAP299B



1AGACBAAP300A

補　足

＊ スイッチが**［停止］**位置にあるときは，エンジンは始動できません。
＊ 非常停止スイッチでエンジンを止めたとき，キースイッチの切り忘れのないようにしてください。

■寒冷時の暖機運転

注　意

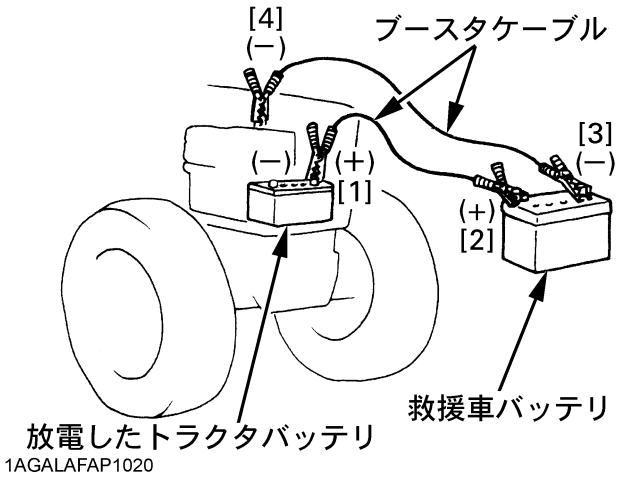
＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します。
＊ マイナスケーブルの他端**【４】**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**【４】**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）



2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

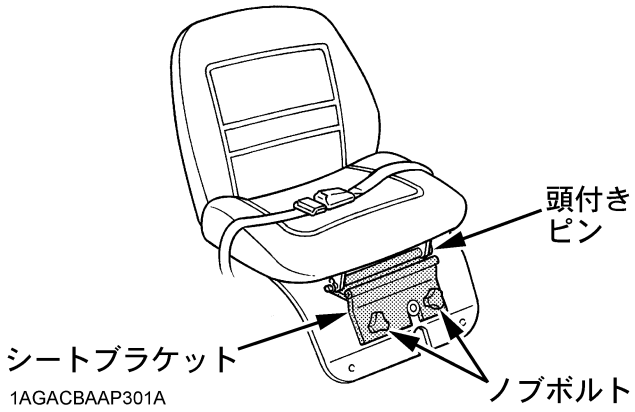
この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしてください。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なってください。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行してください。
5. 50 時間使用後，**【定期点検箇所一覧表】**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

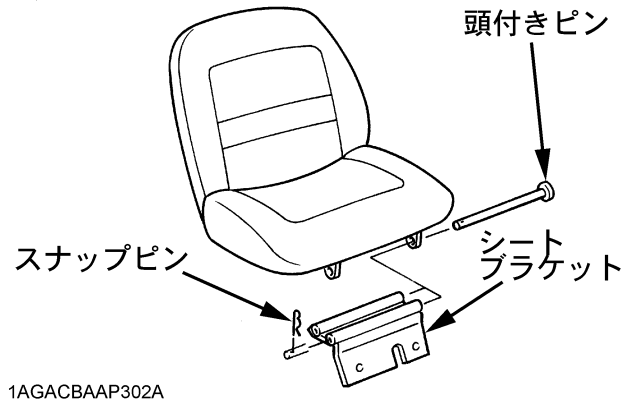
運転席周りの調節

■シート

1. シートは，ノブボルトでシートブラケットとシートを取外し，頭付きピンを抜いてシートのセット位置を変えることで，前後２段階に調節できます。
2. 雨の時はシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。
3. 運転席をさらに低くしたいときは，ノブボルトでシートを取外してください。



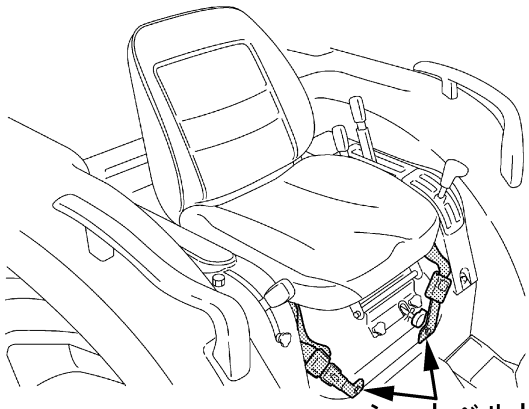
1AGACBAAP301A



1AGACBAAP302A

■シートベルトホルダ

降車後は，シートベルトをシートベルトホルダに収納してください。



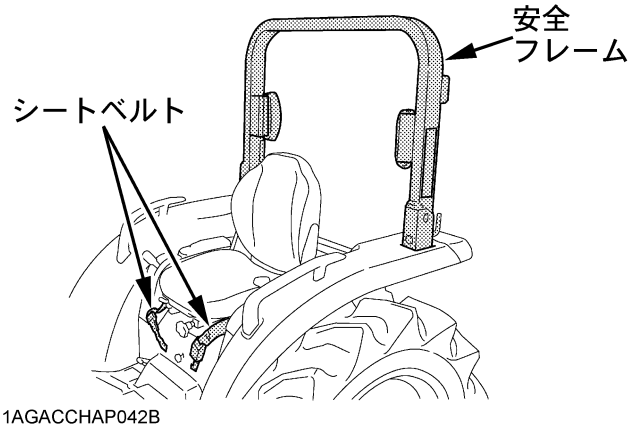
1AGACBAAP314A

■安全フレームとシートベルトについて

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

- **＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。**
- **＊ 納屋の出入りやハウス作業など，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを取付けて立て，確実に固定し，必ずシートベルトを着用してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。**
- **＊ 安全フレームの改造を絶対にしないでください。**
  また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
- **＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押込んで確実に固定してください。**
  また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。
- **＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。**
- **＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。**



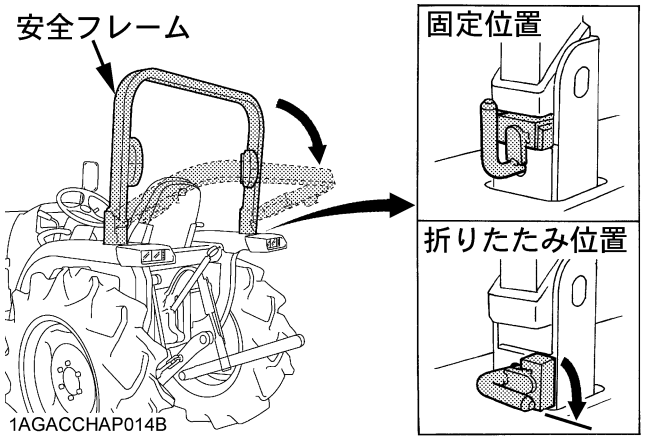
1AGACCHAP042B

◆ 折りたたみ方法

1. レバーを後方へ引き，そのまま外側に倒します。(左右共)
2. 安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたみます。

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては安全フレームと作業機が接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。



◆ 起こす方法

1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. レバーを立ててそのまま前方へ確実に押し込みます。(左右共)
3. 安全フレームにガタがないか確認してください。

電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時下記のシンボルマークとメッセージが３秒間表示されます。シートベルトを正しく装着してください。

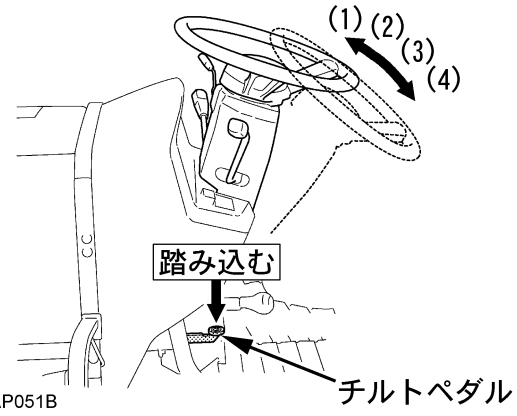


■チルトステアリングハンドル

注　意

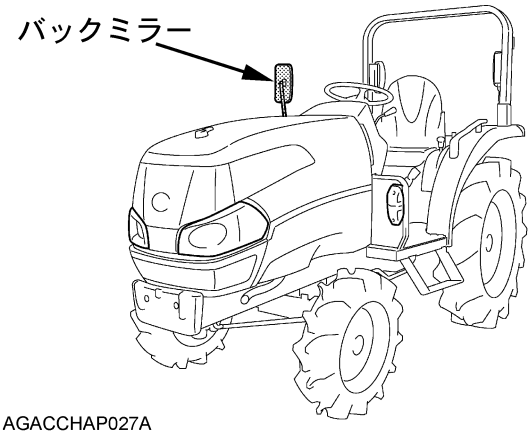
＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで（1）～（4）の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
(1) …… 乗り降り時の位置
(2) ～ (4) ……運転操作位置



■バックミラー

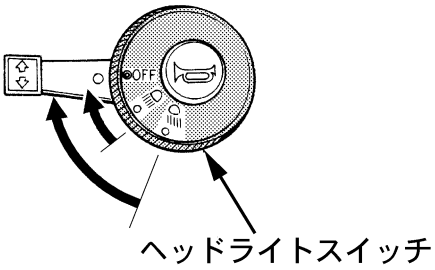
バックミラーは，上下・左右に角度調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。



灯火類の操作

■ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトスイッチを回すと，位置によって次のランプが点灯します。

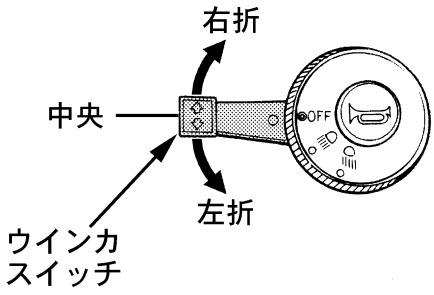


1AGACBAAP303A

OFF……ヘッドライト消灯位置
≡D ……ヘッドライト上向き照射位置
≡D ……ヘッドライト下向き照射位置

■ウインカスイッチ

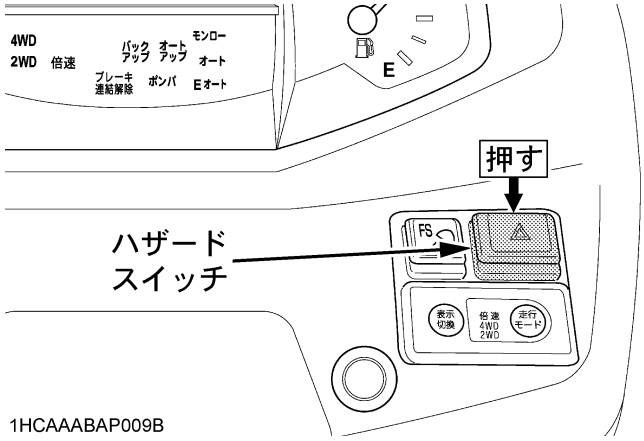
1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



1AGACBAAP303B

■ハザードスイッチ

故障などで停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すとウインカ前後及びメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，停止中を知らせます。
再度スイッチを押すと消灯します。



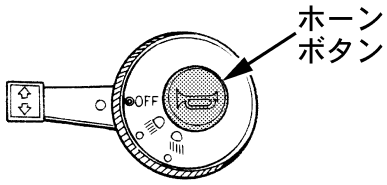
1HCAAABAP009B

補　足

＊ ハザードランプはキースイッチ**［切］**位置では作動しません。

■ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



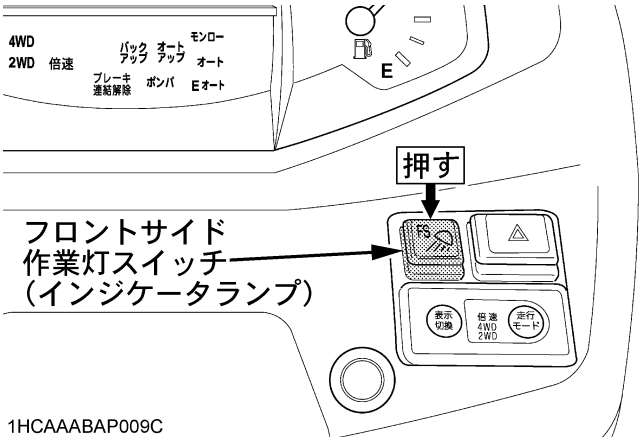
1AGACBAAP303E

補　足

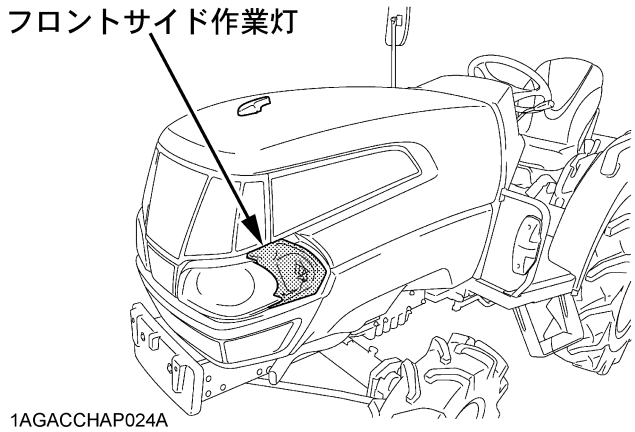
＊ ホーンはキースイッチ**［切］**の位置では作動しません。

■フロントサイド作業灯

スイッチを押すとフロントサイド作業灯が点灯します。再度スイッチを押すと消灯します。
作業灯の点灯を示すインジケータランプがスイッチに内蔵されています。



1HCAAABAP009C



1AGACCHAP024A

補　足

＊ 作業灯はフロントサイド作業灯を含め**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
道路走行時は消灯してください。

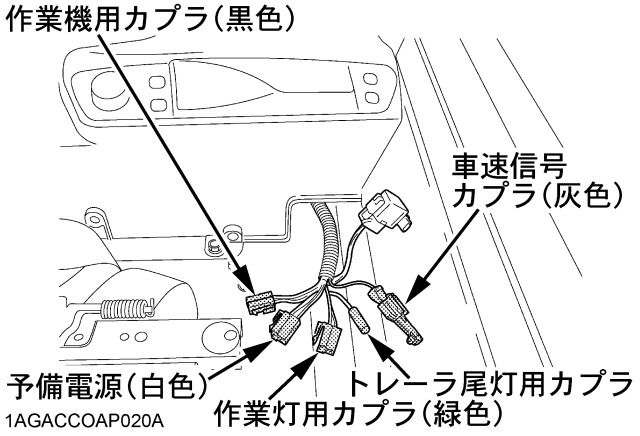
■外部電源・信号取出端子

◆ 電源カプラ

作業灯，トレーラ尾灯，ローダ電源，予備電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。
インプルメントに車速信号を伝達する車速信号カプラがあります。

補　足

＊ 車速信号カプラは接続を必要とする専用インプルメントにのみ使用してください。出荷時にはキャップがしてありますので，インプルメントを使用しないときは必ずキャップを装着してください。故障の原因になります。



1AGACCOAP020A

トレーラ尾灯	1P カプラ
作業灯（5A）	2P カプラ（緑色）
作業機（ローダ）（20A）	2P カプラ（黒色）
予備電源 （作業機電源と合わせて 20A）	2P カプラ（白色）
車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）

走行装置の取扱い

■発進・走行

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

1. **駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。**
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
2. **油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。**
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
3. **クラッチペダルを踏込みます。**
4. **作業に応じ必要なレバー類を操作します。**
（**［運転のしかた］**，**［作業のしかた］**の章を参照）
5. **エンジン回転を調整します。**
6. **走行速度を選択します。**
7. **駐車ブレーキを解除します。**

電子メータメッセージ
＊ 駐車ブレーキをかけたまま走行し，車速が0.1㎞/hを超えると下記のメッセージが表示されます。



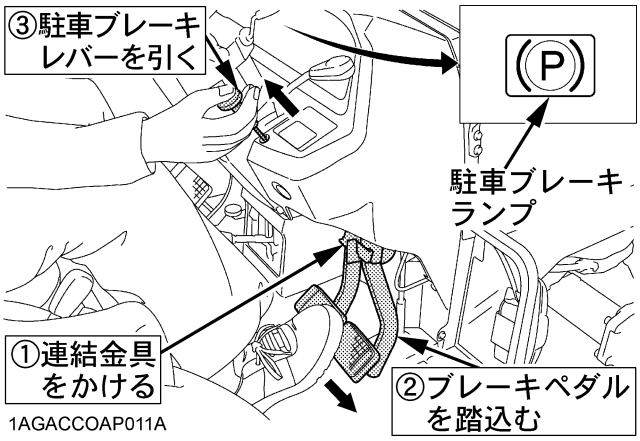
8. **クラッチペダルをゆっくり離し発進します。**

■停車・駐車

注　意

＊ 駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・シャトル・PTO）を［中立］(N)，作業機を[下げ]，駐車ブレーキを［掛け]，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やわらなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。
3. 完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及び PTO 変速レバーを［中立］(N)にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に［ロック］してください。



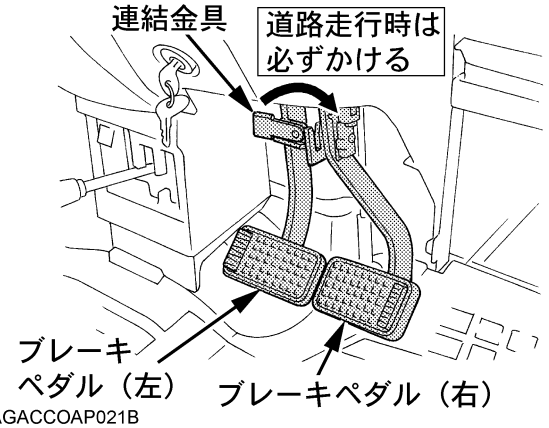
6. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

■ブレーキペダル

警　告

＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

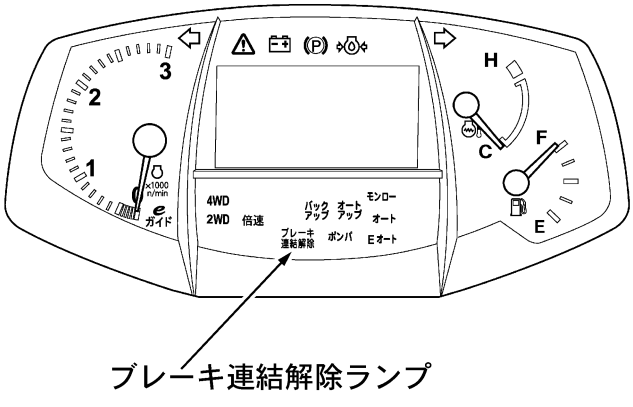
ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



1AGACCOAP021B

◆ ブレーキ連結解除ランプ

ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除**ランプが点灯します。道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。



ブレーキ連結解除ランプ
1HCAAABAP010B

電子メータメッセージ

＊ ブレーキペダル連結金具を外したまま，車速が10km/hを超えると下記のメッセージが表示されます。
ブレーキ連結金具以外に，PTO変速レバーが**［中立］**でないときや，ポンパで作業機を持ち上げている場合には，こちらも交互に表示されます。メッセージに従って操作してください。
（**［運転のしかた］**の章の**［道路走行中の注意］**の項を参照）



■クラッチペダル

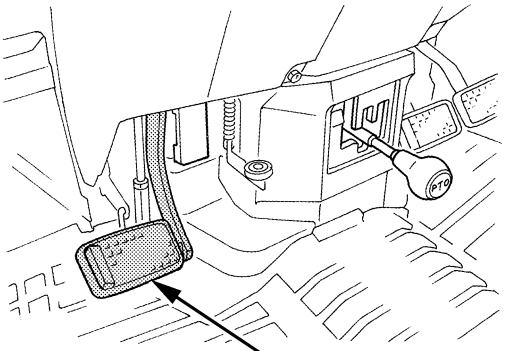
注　意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む……クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補　足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
- 主変速レバー
- シャトルレバー
- 副変速レバー
- クリープレバー
- PTO 変速レバー



1AGACBAAP027A　クラッチペダル

重　要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

■各変速レバーの取扱い

下記レバーを組合わせて各作業に適した速度にします。
- 主変速レバー
- 副変速レバー
- シャトルレバー
- クリープレバー

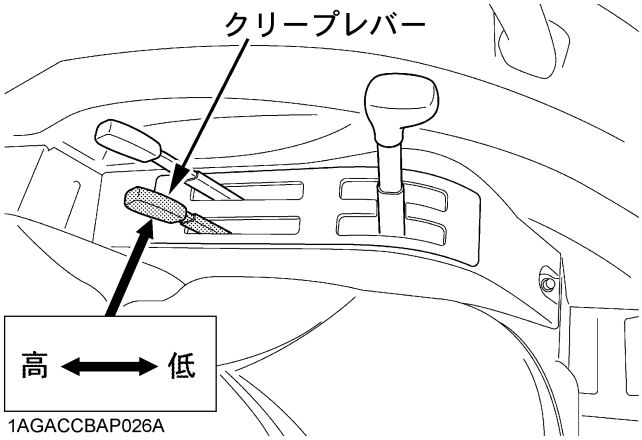
各作業に適した速度（目安）

作業名	速度　km/h
トレンチャ	～ 0.3
プランタ	0.2 ～ 0.6
ロータリ	0.5 ～ 3.0
代かき	2.9 ～ 4.1
プラウ	4.0 ～ 6.5
モーア	6.0 ～ 9.5
走行	10.0 ～

（**［付表］**の章の**［走行速度表］**の項を参照）

■クリープレバー

［低］位置で超低速（クリープ速度），**［高］**位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。



1AGACCBAP026A

◆ クリープの使い方

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
＊ ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
＊ ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
＊ プランタによる移植作業。
＊ 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
＊ 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）
＊ 湿田での沈没状態から脱出する作業。
＊ けん引・トレーラ作業。
＊ フロントローダ作業。
＊ フロントブレード作業（除雪作業）。
＊ 土木作業。
＊ ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
＊ 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
＊ 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

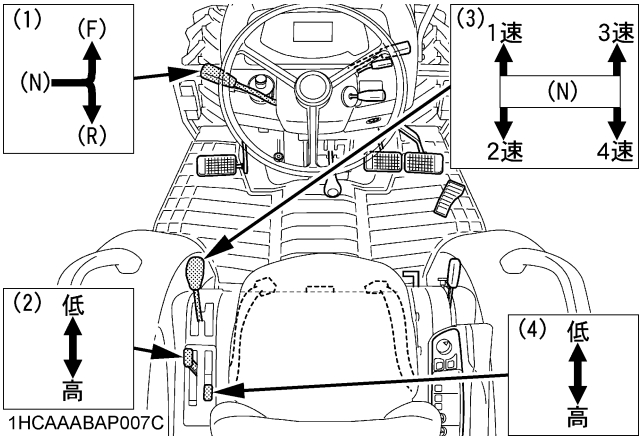
重　要

＊ クリープ速度でクラッチペダルを踏まずにブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

＊ クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったんシャトルレバーを**［中立］(N)**にしてから操作してください。

■レバーについて



(1) シャトルレバー　(F)［前進］
(N)［中立］
(R)［後進］
(2) 副変速レバー　低　［低速］
高　［高速］
(3) 主変速レバー　１速
２速
３速
４速
(4) クリープレバー　低　［低速］
高　［高速］

４本のレバー操作を組合せることにより前進 16 段，後進 16 段の車速が得られます。

重　要

＊ 操作はクラッチを切り，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

◆ シャトルレバー

警　告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。

レバーを持ち上げ，前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。

◆ 主変速レバー

レバー１本で４段の車速が選択できます。

◆ 副変速レバー

［低］位置で低速，**［高］**位置で高速が得られます。

◆ クリープレバー

［低］位置で超低速（クリープ速度），**［高］**位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。

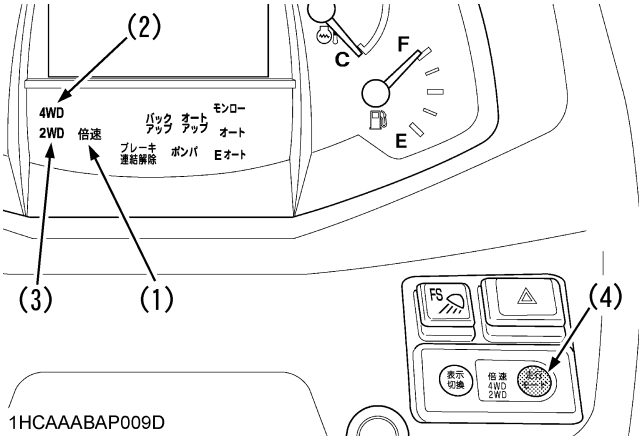
■走行モード切換スイッチ

スイッチを押すごとに
[2WD ⇒ 4WD ⇒倍速⇒ 2WD]
の順に切換わります。
選択状態はモニタランプで表示されます。
なおスイッチは，クラッチ操作や走行・停止中に関係なく操作できます。

補　足

＊ 本機には，**[AD 倍速]** 位置はありません。

	モニタランプ
倍　速	4WD ランプと倍速ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動します。
4WD	4WD ランプが点灯し，４輪駆動になります。
2WD	2WD ランプが点灯し，２輪駆動になります。



(1) 倍速ランプ
(2) 4WD ランプ
(3) 2WD ランプ
(4) 走行モード切換スイッチ

◆４輪駆動の使い方

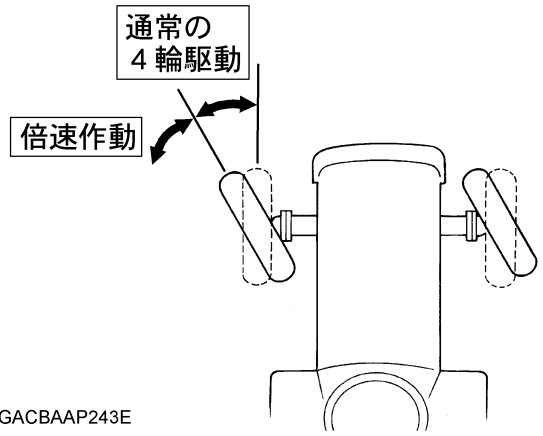
４輪駆動は，ほ場作業で使用してください。走破性，けん引力が向上します。
４輪駆動は道路走行では使用しないでください。旋回時曲がり切れなかったり，タイヤの異常摩耗の原因になります。

◆倍速ターンの使い方

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを [2WD] 又は [4WD] に切換えてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は下図のようになっています。
[倍速] モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
更にステアリングハンドルを切ると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



重　要

＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

＊ 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約 0.2 ～ 5 km/h の範囲のときのみ作動します。
また，倍速旋回中は車速が変わっても，倍速の作動を保持します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。


……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

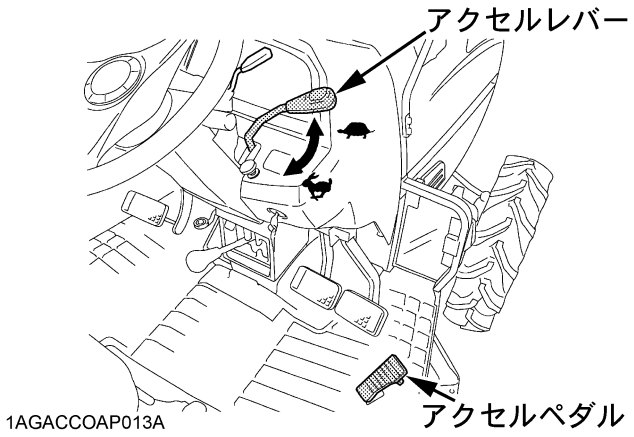

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

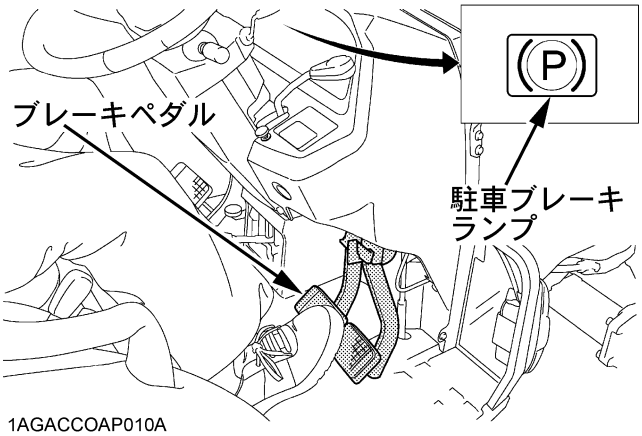
ペダルを踏込む……　エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す…　アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。



■駐車ブレーキの解除のしかた

ブレーキペダルを**［踏込む］**と駐車ブレーキが解除され，メータパネル内の(Ⓟ)ランプが消灯します。



燃料給油時の便利な機能と装置

■満タンお知らせブザーの取扱い

燃料給油の際，満量に近づくとブザーが作動し作業者に知らせます。

1. キースイッチを**［入］**にします。
(エンジンは始動しないでください。)
2. 燃料を給油します。
3. 燃料給油を検知して「ピ…ピ…」と電子メータパネルから断続音が作動します。
4. 燃料が満タンに近づくにつれ，断続音の間隔が短くなり，満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止してください。

補　足

＊ 満量でのブザー作動は完全な満量に対し余裕を見ていますので，連続音作動のとき完全な満量にはなりません。

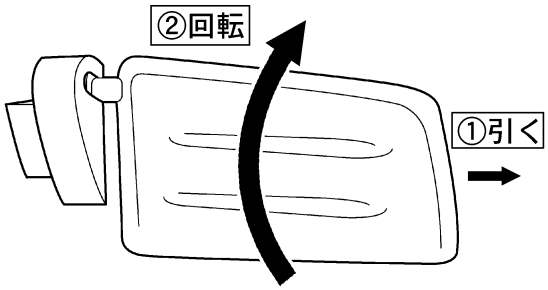
■カンタン給油台の使い方

注　意

＊ 燃料を給油するときはエンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。
＊ 給油台の上に乗らないでください（積載可能重量 20kg）。
＊ 給油台は燃料補給のタンクのせ台以外の目的で使用しないでください。
給油台をものの運搬などに使用しないでください。
＊ 走行するときは給油台を折りたたんで確実に固定してください。

1. 給油台を矢印の方向に引くとロックが解除されます。
2. 給油台を90°回転させるとバネの作用でロックされるので，固定されたことを確認します。

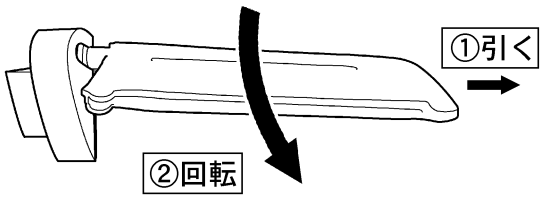
[使用時]



1AGACCBAP138A

3. 20kg までのポリタンクをのせて，市販の給油ポンプなどを使って給油します。
4. 満タンお知らせブザーを使うと，満量をブザーで警告してくれるので便利です。
5. 給油台を矢印の方向に引き，ロックを解除します。
6. 給油台を90°回転させてもとの位置に戻します。ロックされたことを確認してください。

[収納時]



1AGACCBAP138B

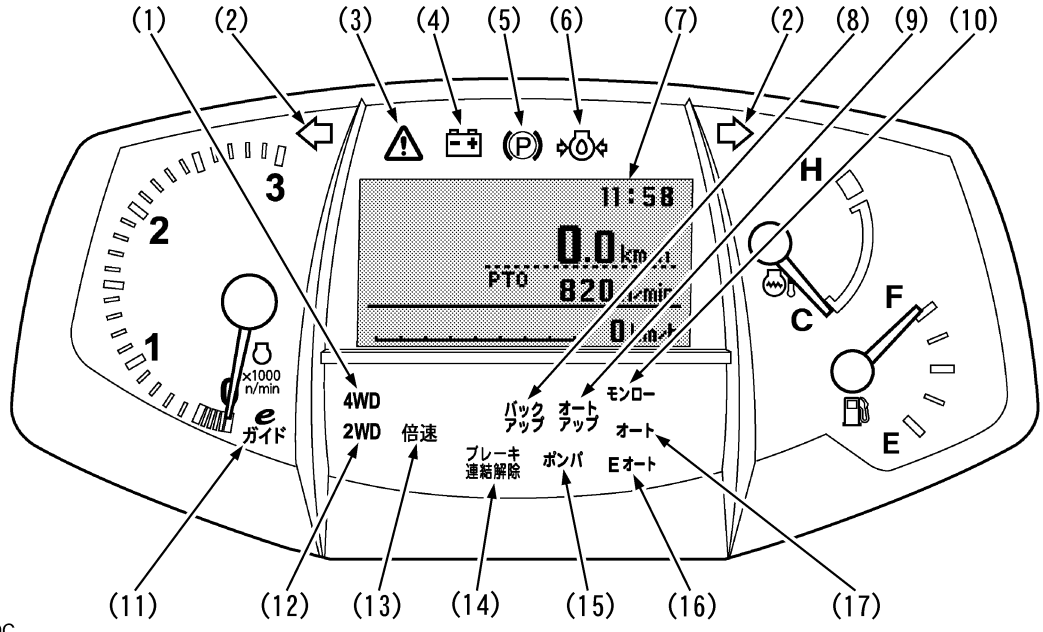
電子メータパネルの取扱い

■電子メータ

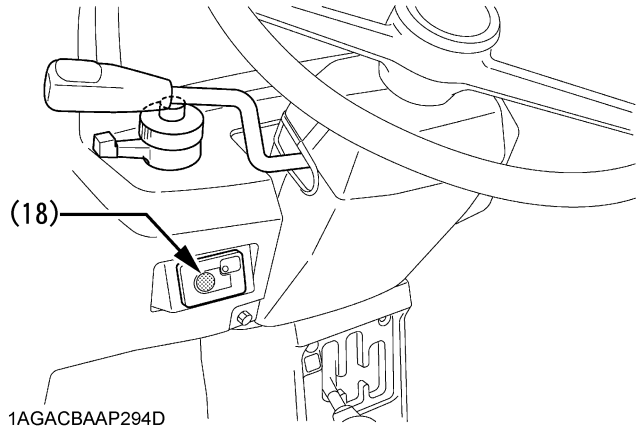
電子メータは，トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに，誤操作時の操作指示，各種警報や万一故障した場合にも故障箇所や緊急使用時の取扱い等を，メッセージとグラフィックで表示しますので，表示に従って正しく取り扱ってください。なお，次表のメッセージ以外が表示された場合は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［不調と処置］**の項を参照してください。

補　足

＊ メータパネルカバー（透明樹脂）を，市販のワックスで手入れすると表面が曇ってくる場合があります。ワックスは使用しないでください。



1HCAAABAP010C



1AGACBAAP294D

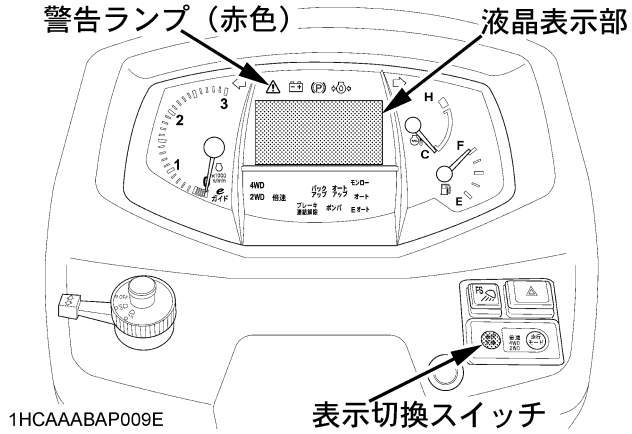
		参照ページ
(1)	4WD ランプ ……	21
(2)	ウインカパイロットランプ……	13
(3)	警告ランプ……	25
(4)	バッテリチャージランプ……	25
(5)	駐車ブレーキランプ……	4,16,22
(6)	エンジンオイルランプ……	25
(7)	メッセージ表示部 ……	25
(8)	バックアップランプ……	44
(9)	オートアップランプ……	43
(10)	モンロランプ……	51
(11)	e ガイドランプ……	34
(12)	2WD ランプ ……	21
(13)	倍速ランプ ……	21
(14)	ブレーキ連結解除ランプ……	17
(15)	ポンパランプ……	41
(16)	E オートランプ……	58
(17)	オートランプ……	58
(18)	ワンタッチ耕うんモードスイッチ ……	52

キースイッチを**【入】**にすると以下のメッセージが表示されます。

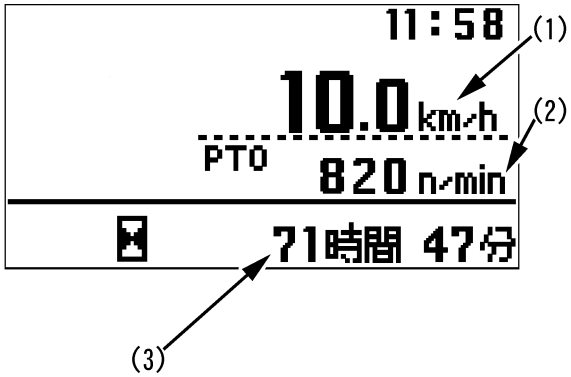


■表示の切換え

電子メータパネルの液晶表示部は，表示切換スイッチを押す毎に表示１～５の５種類のモードに切換えることができます。
作業に応じ切換えてください。

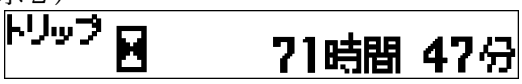


（表示１）



1AGACCOAP114A

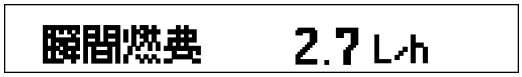
（表示２）



（表示３）



（表示４）



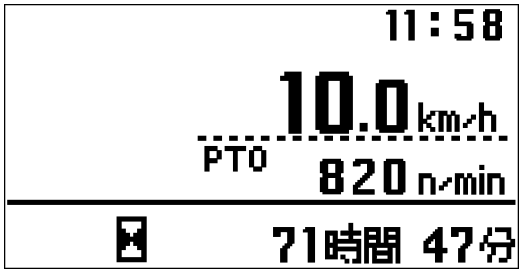
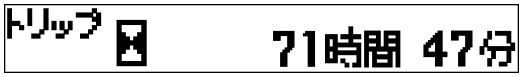
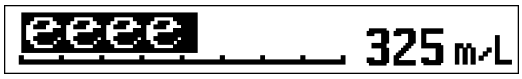
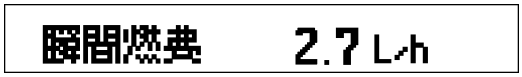
（表示５）

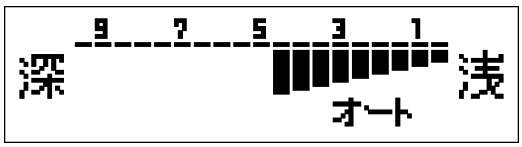


（表示１）
（1）車速（時速）
（2）PTO 軸回転数（回転／分）
（3）アワーメータ（積算時間）
（表示２）トリップ時間 （時間）
（表示３）燃費グラフ（m/L，km/L）
（表示４）瞬間燃費（L/h）
（表示５）エンジンオイル交換用トリップ時間

補　足

＊ 表示２の状態で表示切換スイッチを２秒間押すとトリップメータは**０時間０分**にリセットされます。
＊ 表示５の状態で表示切換スイッチを２秒間押すと，メッセージ表示時間が**０時間**にリセットされます。
（**【電子メータパネルの取扱い】**の**【電子メータメッセージのリセット法】**の項を参照）
＊ けん引作業などで，タイヤがスリップしている場合の車速表示は実車速と異なります。

No.	メッセージ	内　　容	参　照 ページ
1		メータ表示部は，表示切換えスイッチを押すごとにNo. １～５の５種類のモードに切換えることができます。	25
2			
3			
4			
5			
6		キースイッチ**【入】**時，エンジンの予熱を表示します。	7
7	**PTO レバーを「中立」にして下さい**	エンジン始動時左記レバーが**【中立】**になっていない場合，表示されます。 メッセージに従って操作してください。	4
8	**シャトルレバーを「中立」にして下さい**		
9	**PTO レバーとシャトルレバーを 「中立」にして下さい**		
10		エンジン始動時３秒間，表示されます。	11
11	**油圧レバーを下げて安全ロックを解除**	油圧安全ロック作動時に表示されます。 メッセージに従って操作してください。	41
12	**油圧レバーを上げて安全ロックを解除**		
13	**高さ規制を「高」にして下さい**	エンジン始動時に**【3P 手動】**にセットされていれば表示されます。メッセージに従って操作してください。	

No.	メッセージ	内　　容	参　照 ページ
14	**ブレーキペダルを連結！**	車速が 10km/h 以上時，左記レバー類が正しくセットしていないとき，表示されます。 メッセージに従って操作してください。	17，36
15	**PTO レバーを「中立」に！**		36
16	**油圧レバーを上げに！**		
17		燃料が約 4L 未満になると，表示されます。	次頁
18	**オーバーヒート注意 アイドリングにして下さい**	エンジンがオーバーヒートすると，表示されます。(警告ランプ点滅) メッセージに従って操作，点検してください。	
19	**冷却後点検して下さい**		
20		耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，約５秒間表示されます。	59
21	**エンジンオイルの交換時期です**	エンジンオイル交換後 100 時間（初回 50 時間）経過すると，エンジン始動時に表示されます。	7， 30
22	**駐車ブレーキを解除！**	駐車ブレーキをかけたまま走行し，車速が 0.1km/h を超えると，メッセージが表示されます。	15

電子メータメッセージ
運転中下記メッセージが表示されたときは，すみやかに作業を止め，メッセージに従って処置してください。なお原因がわからないときは，購入先にご相談ください。
(下記メッセージ以外が表示された場合は，巻末の**［不調と処置］**の章を参照してください。)

◆ 燃料残量警告
＊ 燃料残量が約 4L 以下になると，メータパネルに下記メッセージが表示されます。
すぐ燃料を補給してください。
空にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
(**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照)


燃料を給油して下さい

補　足
＊ 表示切換スイッチで表示１，２，３，４，５に切換えできます。

◆ オーバーヒート警告
＊ エンジンがオーバーヒートすると，メータパネルに⚠ ランプ（赤色）が点滅し，下記メッセージが表示されます。

オーバーヒート注意
アイドリングにして下さい

1. 作業を中止し，
2. エンジンをアイドリングにしてください。
水温が下がると，上記メッセージが**冷却後点検**に変わります。
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

(1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
(2) 防虫網及びラジエータに，泥やごみが付着していないか。
(3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要
＊ リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出したら，上記手順で処置を行なってください。

◆ バッテリ充電異常警告

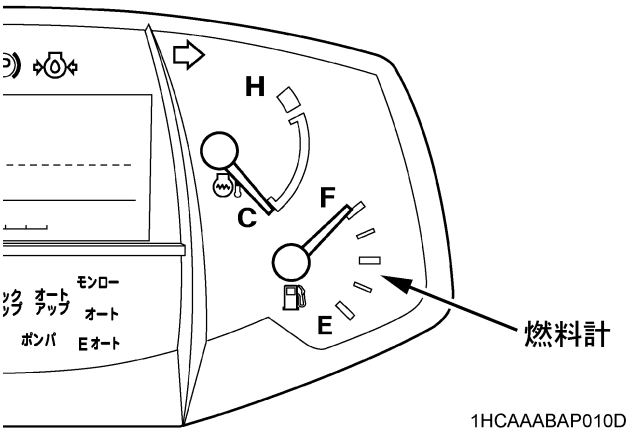
＊ エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**［入］**にすると点灯し，始動すると消灯します。
点灯したままのときは，ファンベルトのゆるみがないか点検してください。

◆ エンジンオイル油圧低下警告灯

＊ エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**［入］**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときはすぐエンジンを止め，エンジンオイル量を点検してください。

■燃料計

指針が **[E]** に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**[必要に応じた点検・整備]** の **[燃料の空気抜きのしかた]** の項を参照）

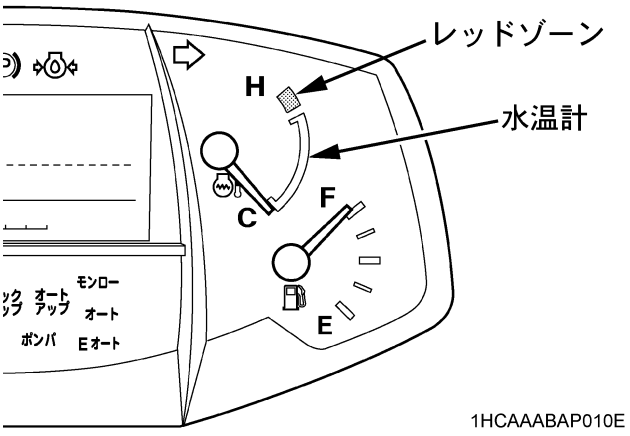


1HCAAABAP010D

■水温計

> **注　意**
>
> **＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。**

指針が **[H]**（レッドゾーン）を示すとき，または電子メータパネルの液晶表示に **[オーバーヒート注意　アイドリングにして下さい]** が表示されたときは，オーバーヒート状態ですから前頁の手順に従って点検してください。



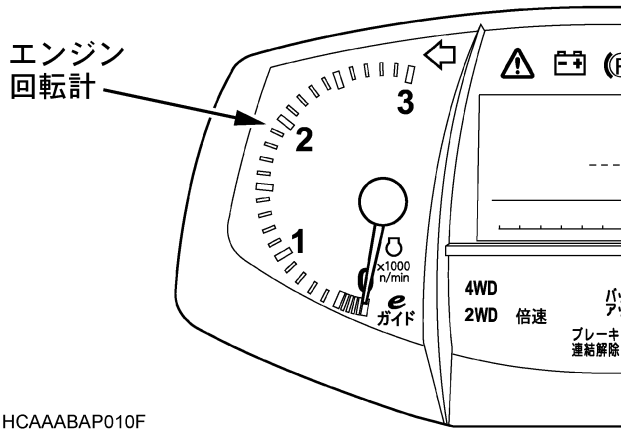
1HCAAABAP010E

◆ 次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

■エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。



1HCAAABAP010F

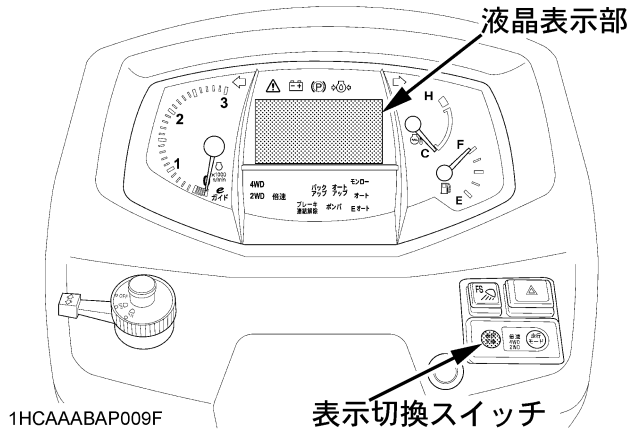
■電子メータメッセージのリセット法

エンジンオイル交換時，下記手順でメッセージ表示時間を**0時間**に戻してください。
正しくリセットしておくと，オイル交換時期に達すると，電子メータメッセージが表示され大変便利です。（表示例１）

1. 表示切換スイッチを押し，**[エンジンオイル交換用トリップ時間]** 表示モードにする。（表示例２）
2. 表示２の状態で表示切換スイッチを２秒間押すとメッセージ表示が**0時間**にリセットされます。（表示例３）

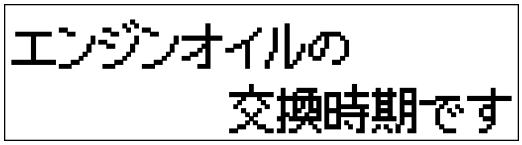
補　足

＊ 新車時，アワーメータの表示時間が 20 時間未満でリセットすると，50 時間運転後（表示例１）にメッセージが表示されます。



電子メータメッセージ

（表示例１）



（表示例２）



（表示例３）

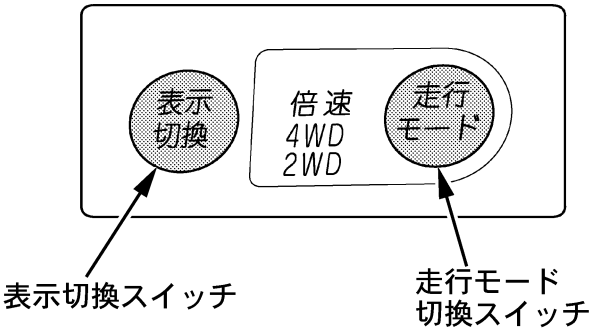


機能選択表示

警　告

＊ 必ずシートに座り，主変速レバー，シャトルレバーや PTO 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊ 取説表記と異なる操作を行なうと，機能選択設定以外の表示が出る場合があります。機能選択設定以外の操作は行わないでください。
誤って操作すると電子メータ液晶ディスプレイに正しく表示されないだけでなく，故障の原因になります。

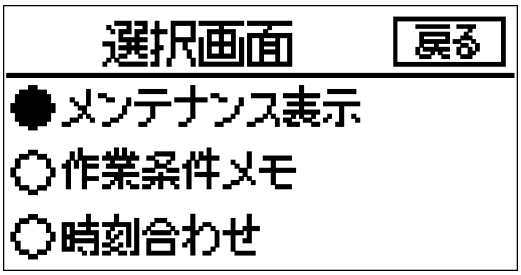
ハンドルポスト横の表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを同時に長押しすると，メンテナンス表示，作業条件メモ，時刻合わせの機能が使用できます。
長期保管時バッテリを取外しても，メンテナンス表示，作業条件メモは保持されます。時刻は保持されませんので，バッテリ取付時セットしなおしてください。



メンテナンス表示	初回設定時間及び交換，メンテナンス経過時間を表示するモード
作業条件メモ	作業条件を記憶表示，設定変更するモード
時刻合わせ	時刻設定及び時計表示／非表示を設定するモード

■機能選択表示方法

1. キースイッチを**【入】**位置にする又は，エンジンを始動し，ハンドルポスト横の表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを長押しします。



2. 表示切換スイッチを短押しで**【メンテナンス表示から時刻合わせ】**まで順に移動します。表示切換スイッチを長押しで選択モードを確定します。

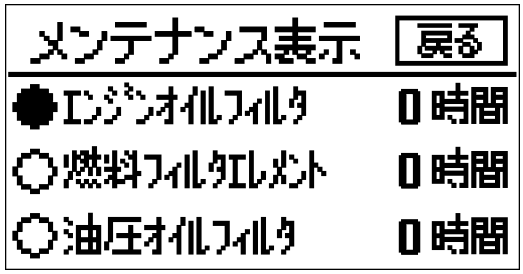
補　足

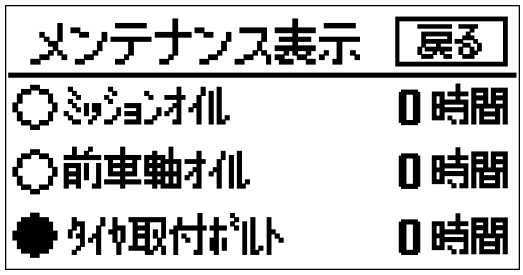
＊ 表示切換スイッチ，走行モード切換スイッチを押しての選択，設定，保存時はそのつどブザー音を発します。

■メンテナンス表示

すぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業を行なうためのメンテナンス情報を表示します。

1. 機能選択画面でメンテナンス表示を選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。（**【機能選択表示】**を参照）





2. 選択項目の移動
   表示切換スイッチを短押しにより，**【エンジンオイルフィルタからタイヤ取付ボルト】**の順に移動します。
3. 設定，交換時間の確認
   各設定された初回点検及び交換時間を超えた場合は，数字部を白黒反転して表示します。



4. 初回点検及び交換時間を超えた場合は，点検・交換を行なってください。

補　足

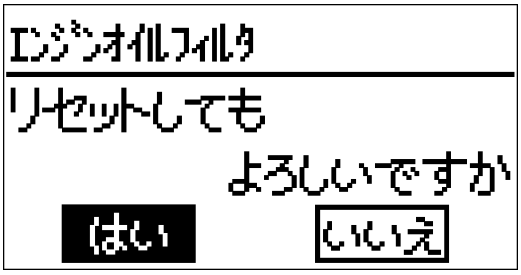
＊ 各設定された初回点検及び交換時間の数字が 999 時間を超えた場合は，表示更新は 999 で止まります。

◆ リセット方法

各設定された初回点検及び交換時間はリセットすることができます。



1. メンテナンス表示画面でリセットしたい●（項目）を選択し，表示切換スイッチを長押しします。
   ブザー音を発し，リセット確認表示画面に移動します。



2. リセット確認表示の「はい」で表示切換スイッチを長押しすると，ブザー音とともに時間が「0」と表示され白黒反転数字表示も元に戻ります。



補　足

＊「いいえ」を選択した場合，ブザー音は発さずメンテナンス表示画面に戻ります。

3. 画面の「戻る」を選択して表示切換スイッチを長押しするか，キースイッチを**【切】**にしてメンテナンス表示を終了します。

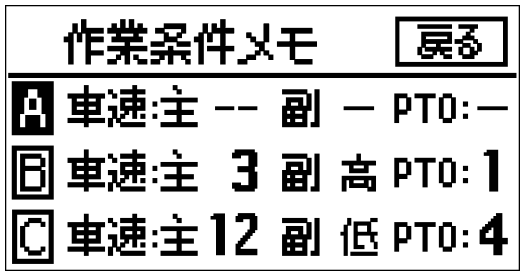
■作業条件メモ

トラクタでの作業条件を３種類記憶，表示できる機能です。
例えば春起こし，代かき，秋起こしの作業条件を入れておけば便利です。

◆ 作業条件メモ設定

表示切換スイッチを操作することにより３種類（A ～ C）の作業条件メモ項目を表示し，設定の変更，保存を行なうことができます。

1. 機能選択画面で作業条件メモを選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。（**【機能選択表示】**を参照）
2. 表示切換スイッチを短押しで選択箇所（A ～ C）を選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。



3. 主変速，副変速，PTO 値の変更は以下のスイッチ操作で行ないます。
   (1) 選択項目の移動
   表示切換スイッチを短押しにより，**【主変速→副変速→ PTO】**の順に移動します。
   (2) 値の変更，更新
   走行モード切換スイッチを短押しにより，値を設定します。

表示	初期状態	選択範囲
主変速	－－	1 ～ 12，－－
副変速	－	低，高，高速，－
PTO	－	1，2，3，4，逆，－

補　足

＊ トラクタの機種によっては，仕様にない選択範囲を設定できる場合もあります。

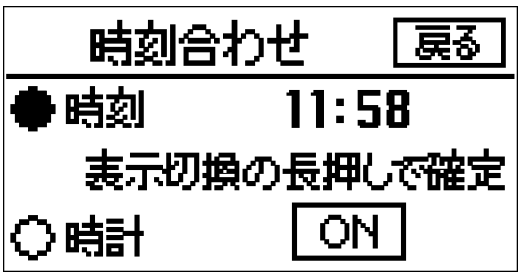
   (3) 値の確定
   全て設定したら表示切換スイッチを長押しにより，変更値，更新値を確定し保存します。

■時刻合わせ設定と表示・非表示

時刻の設定，変更，表示／非表示の設定を行なうことができます。

◆ 時刻合わせ設定

1. 機能選択画面で時刻合わせを選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。（**［機能選択表示］**を参照）
2. 走行モード切換スイッチを短押しで
   ●時刻を設定し，表示切換スイッチを長押しで確定します。



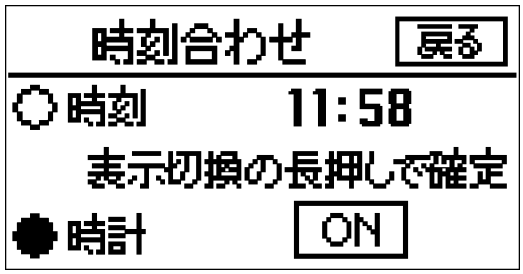
   (1) 選択項目の移動
   表示切換スイッチを短押しにより，
   ［時間→分］の順に移動します。
   (2) 時刻の変更，更新
   走行モード切換スイッチを短押しにより，値を設定します。
   (3) 時刻の確定
   表示切換スイッチを長押しにより，変更値，更新値を確定し保存します。
3. 画面の「戻る」を選択して表示切換スイッチを長押しするか，キースイッチを**［切］**にして時計表示設定を終了します。

◆ 表示・非表示

1. 機能選択画面で時刻合わせを選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。（**［機能選択表示］**を参照）
2. 表示切換スイッチを短押しで
   ●時計を選択し，表示切換スイッチを長押しで確定します。

補　足

＊ 選択すると現在の「ON/OFF」設定状態を反転表示します。



   (1) 時計表示・非表示設定
   走行モード切換スイッチを短押しにより，ON(表示)/OFF(非表示)を設定します。
   (2) 時計表示・非表示確定
   表示切換スイッチを長押しにより，
   ON（表示）/OFF（非表示）を確定し保存します。
3. 画面の「戻る」を選択して表示切換スイッチを長押しするか，キースイッチを**［切］**にして時計表示設定を終了します。

■燃費表示

◆ e ガイドランプ

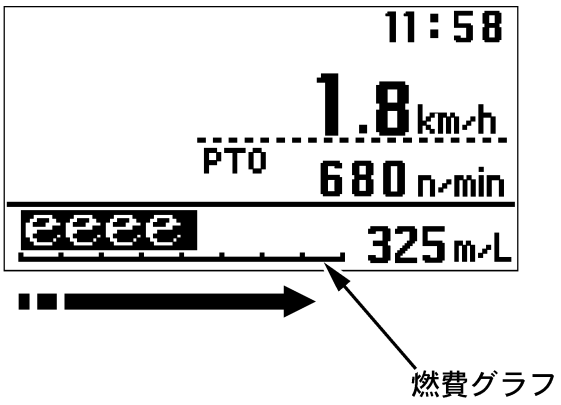
省エネ運転ガイド機能をわかりやすく表現しているランプで，エンジンに余裕があれば「e ガイド」ランプが点灯します。省エネ運転を心がけることで燃費の向上につながります。

eガイド	点灯	「省エネ運転できます！」の合図です。

詳細は付属されている省エネ運転ガイドをご覧ください。

◆ 距離燃費表示

燃料１Ｌあたりの作業距離をグラフと数値で表示し，作業の状態に応じてグラフと数字が増減します。
燃費グラフは約60m/Lごとに「e」マークが出ます。



1AGACCOAP117A

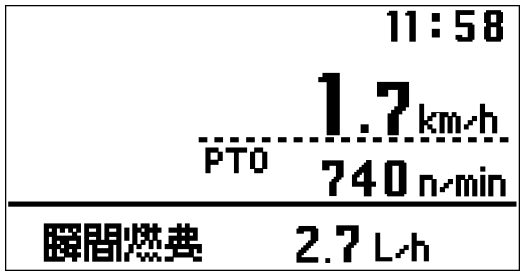
燃費グラフが右側へ伸びると燃費が良くなります。燃料１リットルで作業できる距離が長くなります。

補　足

＊ エンジン回転数 1200n/min 以下，又はトラクタを停車したとき，瞬間燃費表示と距離燃費表示が待機モードとなり，「＊」（アスタリスク）マークが表示されます。「e」マークは表示されません。

◆ 瞬間燃費表示

瞬間燃費とは１時間あたりの燃料消費量を数値表示で表したものです。



補　足

＊ 燃費とは１リットルの燃料で，どれだけの距離を作業できるかということになります。
燃料節約の目的として確認される場合は，「距離燃費表示」を参考とするのが適切です。

＊ 瞬間燃費表示は，その状態のまま作業を続けると１時間で何リットルの燃料が必要かを表します。給油のタイミングなどの参考にしてください。

＊ 燃費表示は運転状態からの推定値なので，実際の燃費と最大 20％程度の誤差がある場合があります。表示内容は参考値として使用してください。

状況に応じた操作

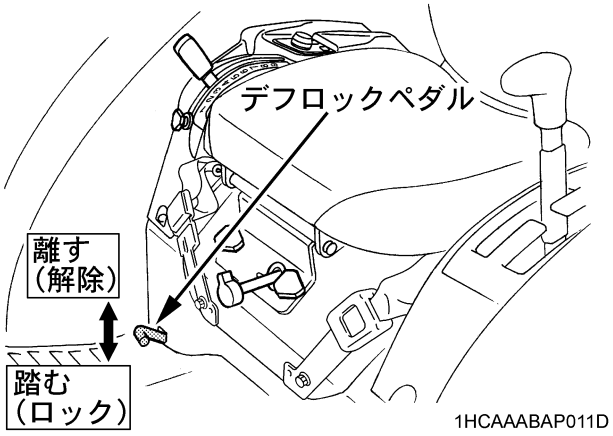
■デフロックの使い方

◆ デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す…自動的に外れる。



1HCAAABAP011D

◆デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では主変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注　意

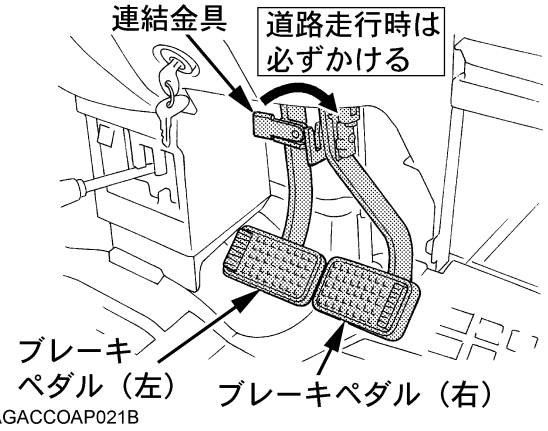
＊ 走行モード切換スイッチは［2WD］又は［4WD］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段にあがる能力が増します。

■道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



1AGACCOAP021B

注　意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
［道路運送車両法の保安基準］
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊ 道路走行時にはモンロ・オートスイッチを必ず［切］にして走行してください。
＊ ポンパランプの消灯を確認してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。
4. 公道走行中は作業灯を消灯してください。

補　足

＊ 作業灯はフロントサイド作業灯を含め**【道路運送車両の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

電子メータメッセージ

＊ 走行中下記のメッセージが表示されたときは，すみやかにトラクタを止め，メッセージに従って処置してください。
メッセージは車速が 10km/h を超えたとき表示されます。また，表示要因が 2 個以上の場合は，交互に表示されます。

◆ ブレーキ連結金具が連結されていないとき



◆ PTO 変速レバーが［中立］でないとき



◆ ポンパで作業機を持ち上げているとき



＊ 下記のメッセージは車速が 0.1km/h を超えたとき表示されます。

◆ 駐車ブレーキが解除されていないとき



■トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**【連結】**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

■パワーステアリングの取扱い

注　意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

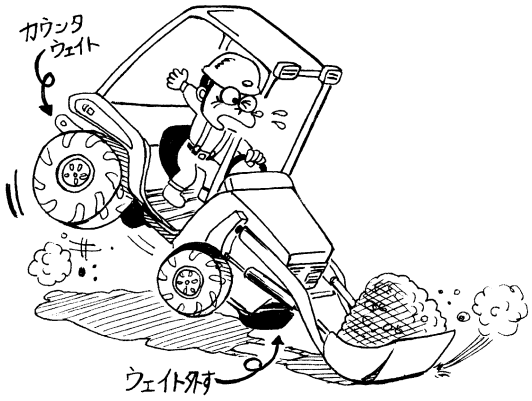
＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

■ローダ作業

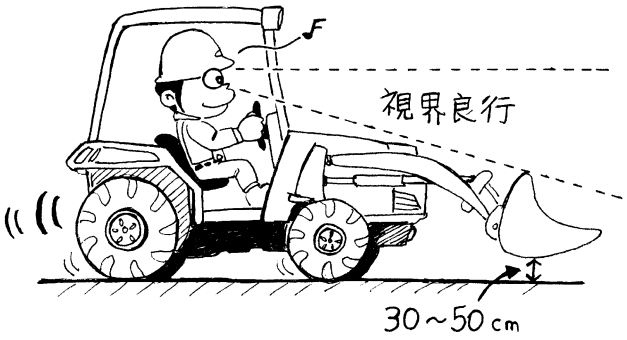
ローダ作業を安全に行なうために！

ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

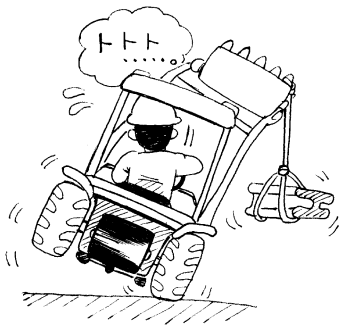
1.トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！
トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前後のバランスを保つようにしてください。



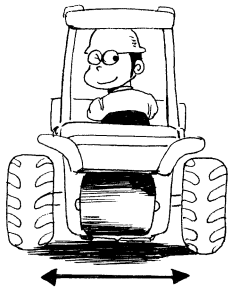
2.運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！
運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



3.片持ち作業をしない！
片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4.後輪トレッドはできるだけ広げる！
作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



5.フロントローダ作業中は倍速ターンを絶対に使用しないでください。

★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

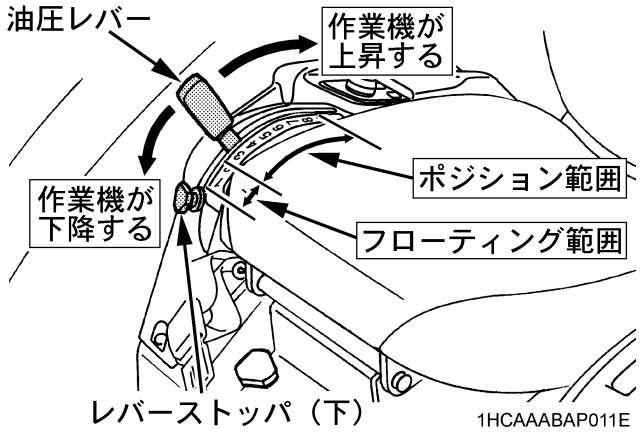
作業のしかた

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。



	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット･保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

◆ レバーストッパ（下降側）の使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

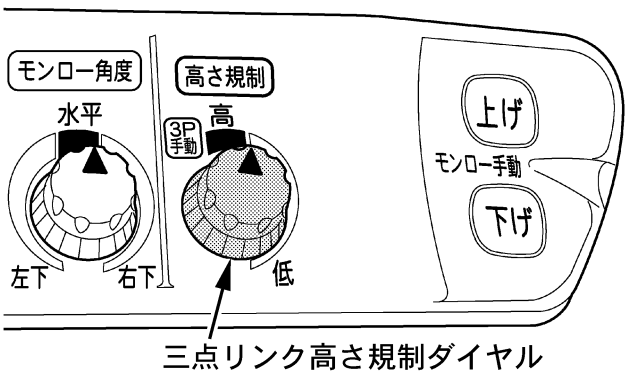
◆ 油圧レバーの取扱い特性

1. エンジン停止後，キースイッチを**［入］**にして，油圧レバーを**［前方に倒す］**と，作業機が下降します。(ポンパランプ点滅時は下がりません。電子メータメッセージに従って油圧レバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除してください。)
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇上限位置を規制している時は，制限位置までしか上昇しません。

■三点リンク高さ規制ダイヤル

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**［高］**にすると，三点リンクの上昇上限位置が高くなります。
2. ダイヤルを**［低］**方向に回すと，三点リンクの上昇上限位置が低くなります。



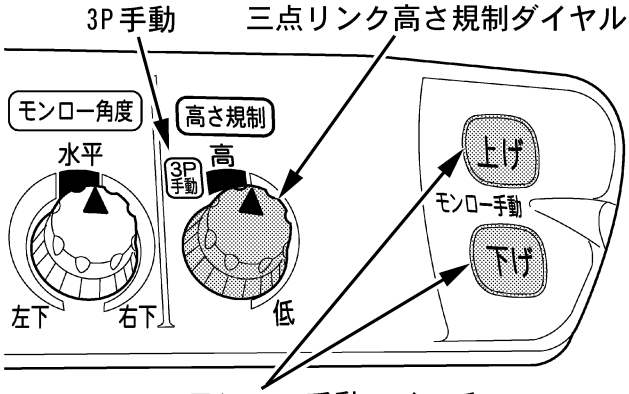
1AGACCOAP029B

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルにより，ポンパレバー，油圧レバー，オートアップ及びバックアップでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

◆ 3P 手動の使い方

ダイヤルを**［3P 手動］**にすると各種制御に関係なく，モンロ手動スイッチにて作業機を上げ下げできます。



1AGACCOAP029C

1. ポンパレバー又は，油圧レバーで三点リンクを最上位置にし，モンローマチックを**［平行停止］**させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを**［3P 手動］**位置にします。
3. 三点リンクの**［上げ－下げ］**は，モンロ手動スイッチで行ないます。

電子メータメッセージ

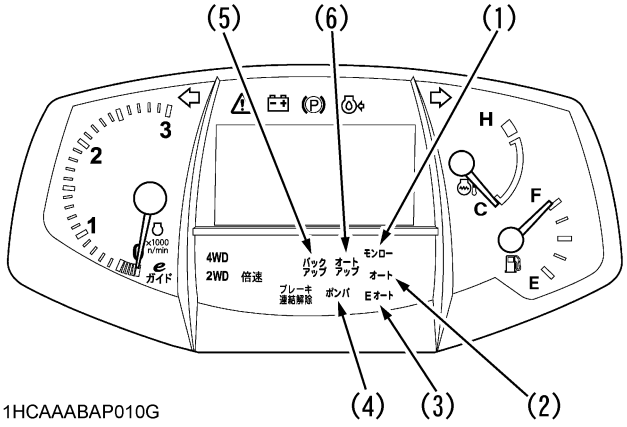
＊ エンジンを始動後，三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，下記のメッセージが表示されます。

3P手動モード

＊ 3P 手動作業終了後は，**【3P 手動】**を解除し，上記メッセージの消灯を確認してください。

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，**モンロ，オート，E オート，ポンパ，バックアップ，オートアップ**の各ランプが消灯します。
＊ **【3P 手動】**位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオート，バックアップ，オートアップ，E オートは作動しません。
＊ **【3P 手動】**位置でエンジンを停止し，再度**【3P 手動】**作業を行なう場合は，エンジン始動後，**【3P 手動】**を解除し（ダイヤルを**【3P 手動】**位置から**【高】**又は**【低】**の方向へ回す），再度**【3P 手動】**位置にしてください。
＊ 3P 手動作業の終了後は，**【3P 手動】**を解除してください。



1HCAAABAP010G

(1) モンロランプ
(2) オートランプ
(3) E オートランプ
(4) ポンパランプ
(5) バックアップランプ
(6) オートアップランプ

■ポンパレバー

注　意

＊ ほ場内作業以外では，ポンパを使用しないでください。
＊ ポンパアップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

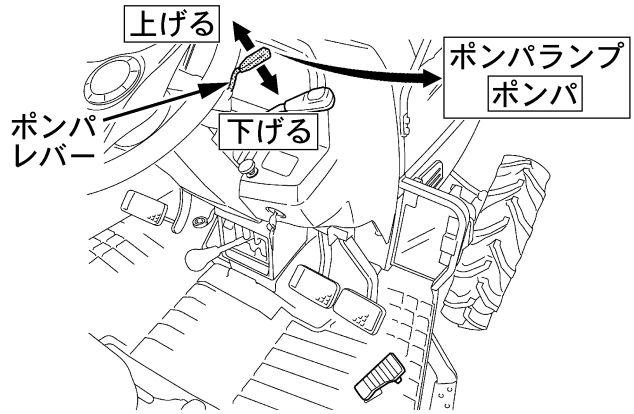
レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる（ポンパランプ点灯）… 作業機上昇
レバー下げる（ポンパランプ消灯）… 作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯），ポジション制御になります。

補　足

＊ ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊ 新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当らないことを確認してください。
＊ ポンパレバー操作時，ブザー音が 1 回鳴ります。

◆ ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。**［耕深位置制御］**



1AGACCOAP013B

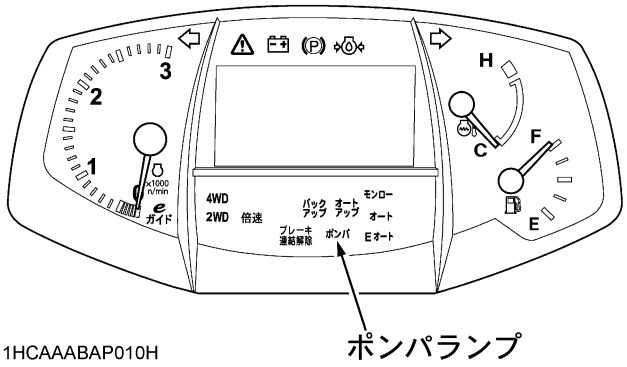
補　足

＊ ポンパランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの**［点滅を解除］**してから使用してください。
＊ あぜぎわなどほ場が平たんではないところでポンパを使用すると，ロータリなどの作業機に衝撃がかかり損傷するおそれがあります。このような場合は油圧レバーでゆっくりと作業機を下降させてください。

◆ 三点リンクの安全ロック機能

下記状態でエンジンを始動すると，安全ロックが作動し作業機は昇降しなくなります。
1. 作業機の高さと油圧レバー位置（エンジン停止時の位置）が異なっているとき。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルが**［3P 手動］**位置になっているとき。

安全ロックが作動すると，ポンパランプが点滅状態となり，解除方法は 電子メータメッセージとして表示されます。



1HCAAABAP010H

電子メータメッセージ

＊ 安全ロックの解除は，下記の表示メッセージに従って解除してください。
安全ロック解除時，ブザー音が 2 回鳴ります。

油圧レバーを下げて
安全ロックを解除

油圧レバーを上げて
安全ロックを解除

高さ規制を
「高」にして下さい

（三点リンク高さ規制ダイヤルを**［3P 手動］**位置から**［高］**に戻す。）

補　足

＊ 安全ロックは，ポンパレバーで作業機を上げても解除できます。
＊ 電子メータメッセージの油圧レバー下げて解除は，車速が約 10km/h 以上のときは表示しません。

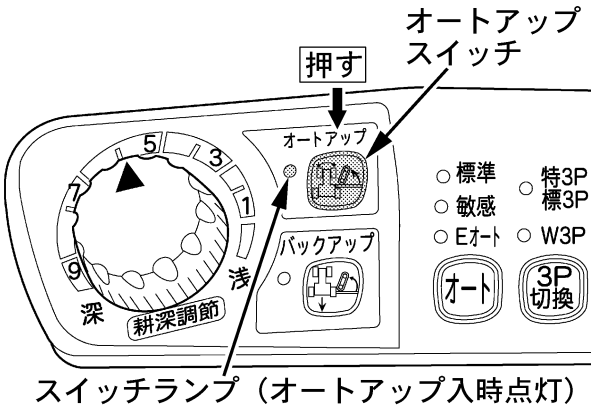
■オートアップスイッチ

注　意

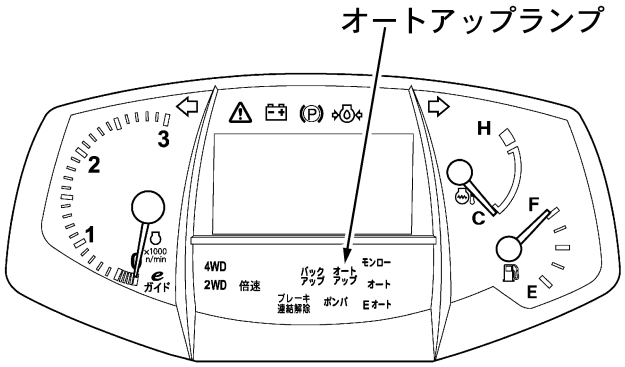
＊ 危険防止のため，オートアップの使用は，ほ場内作業のみにしてください。
＊ オートアップで作業する場合は，ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは，作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると，作業機を引きずり，障害事故を引起すおそれがあります。
＊ スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ オートアップの使い方

1. オートアップスイッチを押し**［入］**にします。オートアップ**［入］**のとき，メータパネルのオートアップランプが点灯します。
2. 隣接耕うん作業での旋回時，ステアリングハンドルを回すと，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。（上昇時ブザー音が１回鳴ります。）
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. オートアップスイッチを再度押すと，オートアップが**［切］**となります。（オートアップランプ消灯）



1AGACCOAP029D



1HCAAABAP010I

補　足

＊ オートアップが点灯中でもシャトルレバーが**［中立］**，**［後進］**及び PTO 変速レバーが**［中立］**の場合，オートアップは作動しません。
＊ 隣接耕うん作業以外では，オートアップスイッチを**［切］**にしてください。
＊ オートアップが作動するステアリングハンドルの操作角度は，条件により異なります。ハンドル操作の速さ，車速などからマイコンが判断し，適切に制御しています。

■バックアップスイッチ

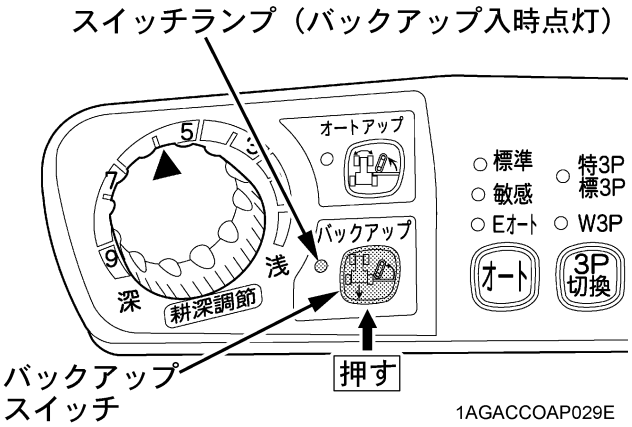
バックアップを**［入］**にしておくと，後進時，作業機が自動的に上昇し，**［うっかりバック］**からの作業機の損傷を防ぎます。

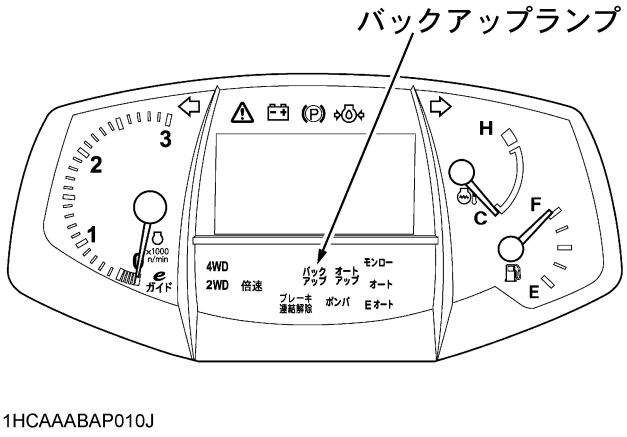
注　意

＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ バックアップの使い方

1. バックアップスイッチを押し**［入］**にします。バックアップ**［入］**のとき，メータパネルのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを**［後進］**に入れると，作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. バックアップスイッチを再度押すと，バックアップが**［切］**となります。
（バックアップランプ消灯）



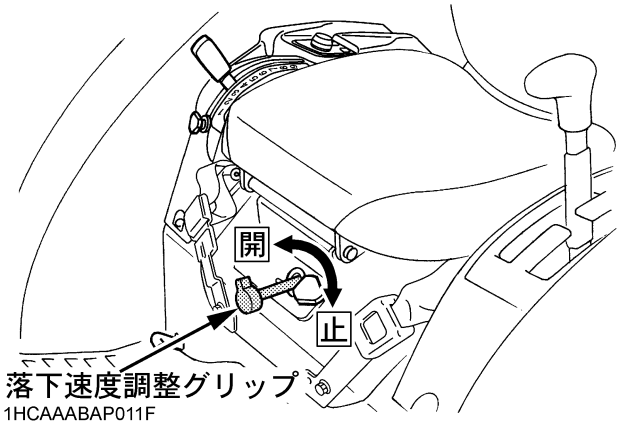


■作業機落下速度の調整

注　意

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。（回転角 90°）



［開］方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。
［止］方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**［止］**方向に一杯まで回すと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで１～２秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

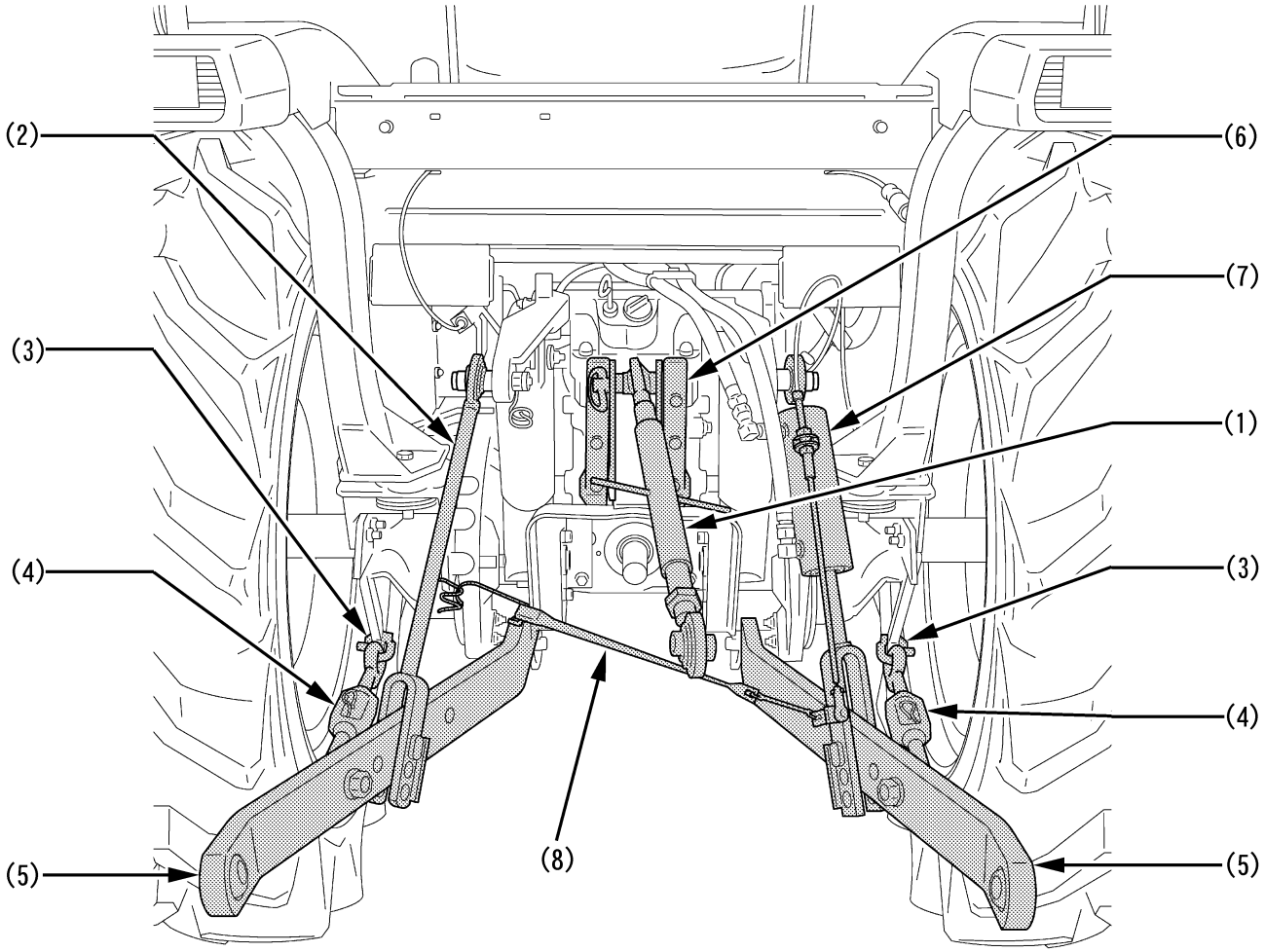
重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。
（回転角 90°）

◆ 油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態で保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
(1) エンジンをかけた状態で落下速度調整グリップを**［止］**方向に回してください。
(2) 油圧レバーを前方に倒し，作業機が下がらないことを確認してください。
この操作を行うことで，油圧ロックの作動がより確実になります。
(3) エンジンを停止してください。
(4) 再度油圧レバーを上げてください。

三点リンク



1AGACBAAP315A

(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) トップリンクブラケット
(7) リフトシリンダ（リフトロッド右）
(8) 振止めゴム

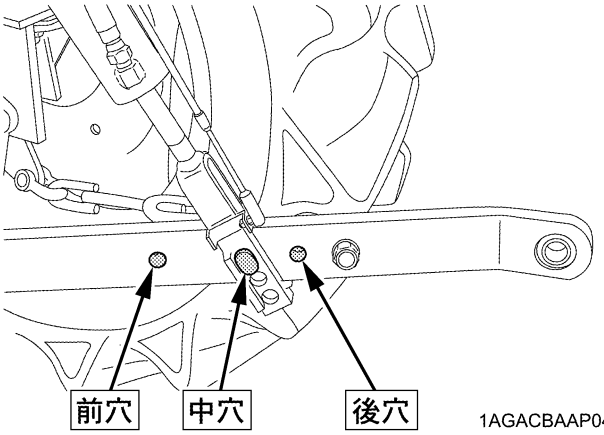
1. 三点リンクは，JIS 1形です。
2. トップリンクアッシを別途購入してください。
3. 三点リンク用作業機を装着したとき（3）チェックチェーン，(5）ロアーリンクがタイヤと接触するおそれのある場合は，後輪輪距を広げてください。(**[作業のしかた]**の章の**[輪距の調整]**の項を参照)

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

下表を参考に正しい取付け穴を選択してください。

	ロアーリンク穴位置
オートヒッチフレーム無しのとき（一般作業機装着時）	前穴
特殊三点リンク用オートヒッチフレーム付きのとき（ロータリ）	中穴（播種機装着時必要に応じ後穴）



1AGACBAAP040A

補　足

＊ ロアーリンクの後穴を使用するときは，リフトロッドの上穴は使用できません。
＊ 純正ロータリを使用する場合のリフトロッド穴位置は**ロータリ**の**［取扱説明書］**を参照してください。
＊ 他社インプルメントを使用する場合のリフトロッド穴位置は購入先に相談してください。

2. 作業機の着脱

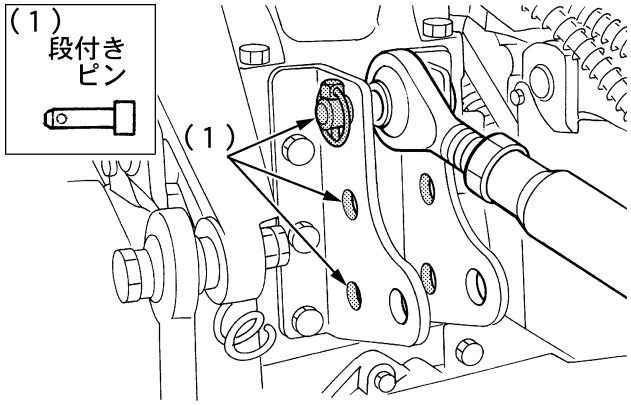
警　告

＊ 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊ 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊ 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊ 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

◆ 取付け穴の選択

使用する作業機によって取付け穴を選択してください。指定された取付け穴以外は使用しないでください。



1AGACBAAP309B

(1) トップリンク取付け穴（段付きピン使用）

◆ トップリンク長さの調整

伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。調整後はロックナットでロックしてください。

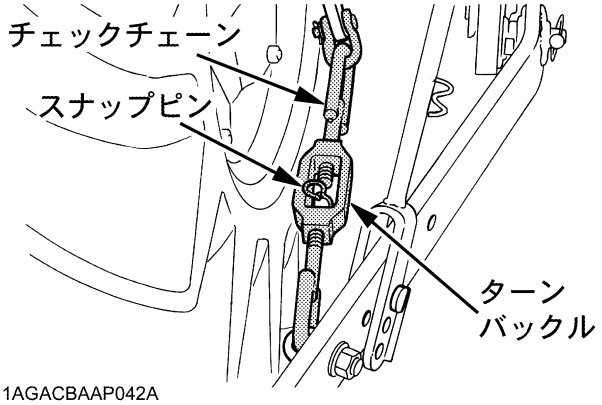
補　足

＊ トップリンクの取付け穴及び長さは，**取付ける作業機**の**［取扱説明書］**をご覧ください。

■チェックチェーン

スナップピンを抜き，ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンで，ターンバックルを固定してください。

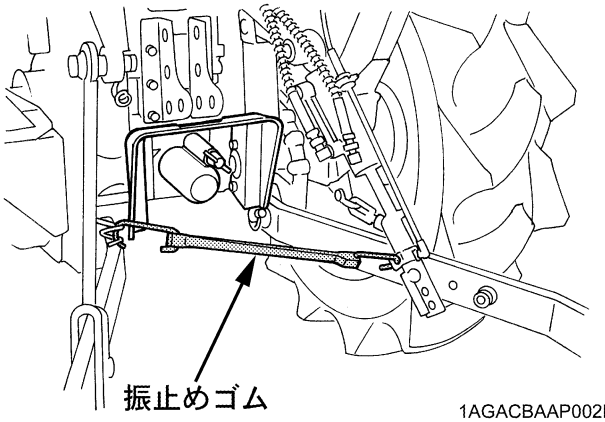
作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２ cm 動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６ cm 動く程度（ロアーリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モーア， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める



1AGACBAAP042A

■作業機を取付けないときの注意

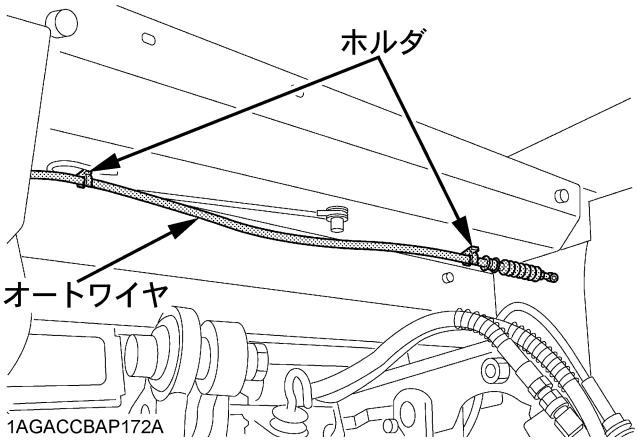
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪にあたらないように，左右振止めをしてください。



1AGACBAAP002B

■オートワイヤの収納

オートワイヤを外している時は，外したワイヤを下図のようにホルダで固定し収納してください。



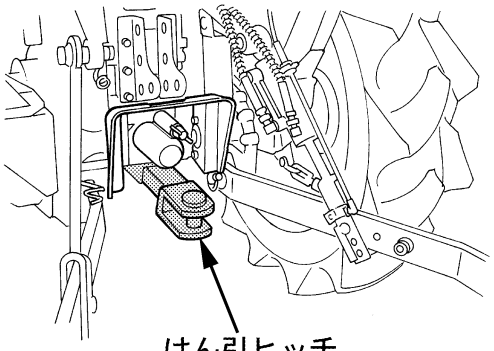
1AGACCBAP172A

けん引ヒッチ（別売）

警　告

＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチにあたって破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

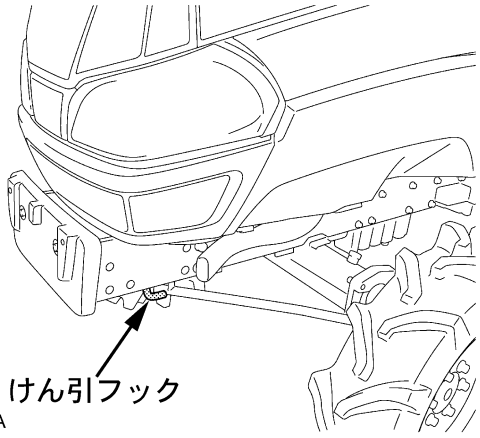


1AGACBAAP044A

■けん引フック

注　意

**＊ けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると，外れやすくフレームが曲るおそれがあります。**



1AGACCBAP054A

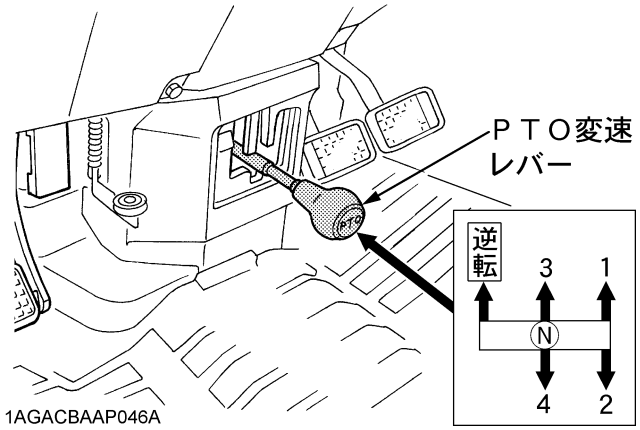
PTO

■ PTO 変速レバー

注　意

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度は，正転４段・逆転１段に変速できます。
変速操作は，必ずクラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。



◆ PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリ・インプルメントで使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊ 土寄せ作業
＊ 草やわらなどの巻きつきをほぐすとき

重　要

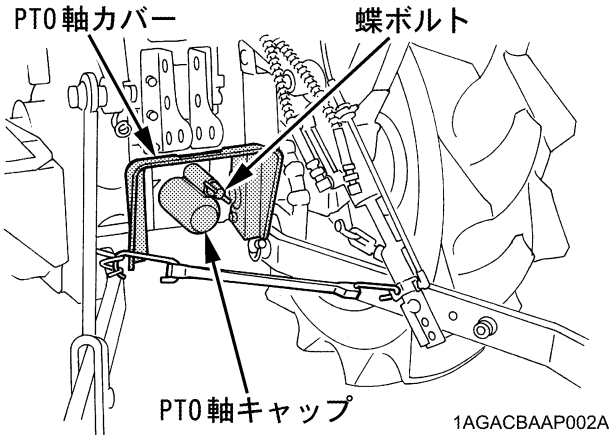
＊ オートスイッチは**［切］**にして油圧（ポジションコントロール）レバーで作業してください。（**［作業のしかた］**の章の**［モンローマチックオートの取扱い］**の項を参照）

3. 使用できない作業
＊ 未耕地での耕うん作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■ PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ

注　意

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



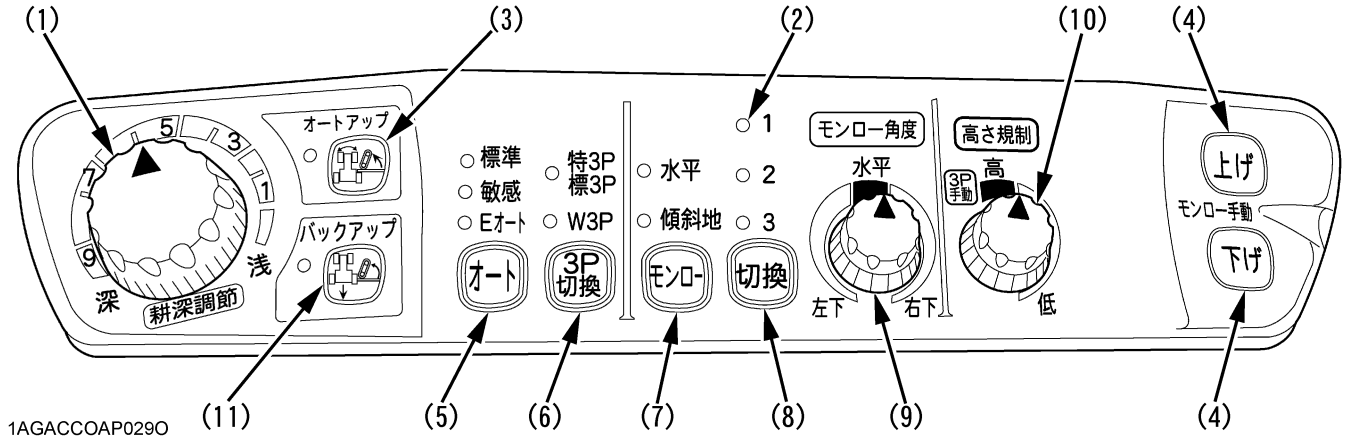
モンローマチックオートの取扱い

注 意

**＊ 各スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。
エンジンの始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチ操作が無効になる場合があります。**

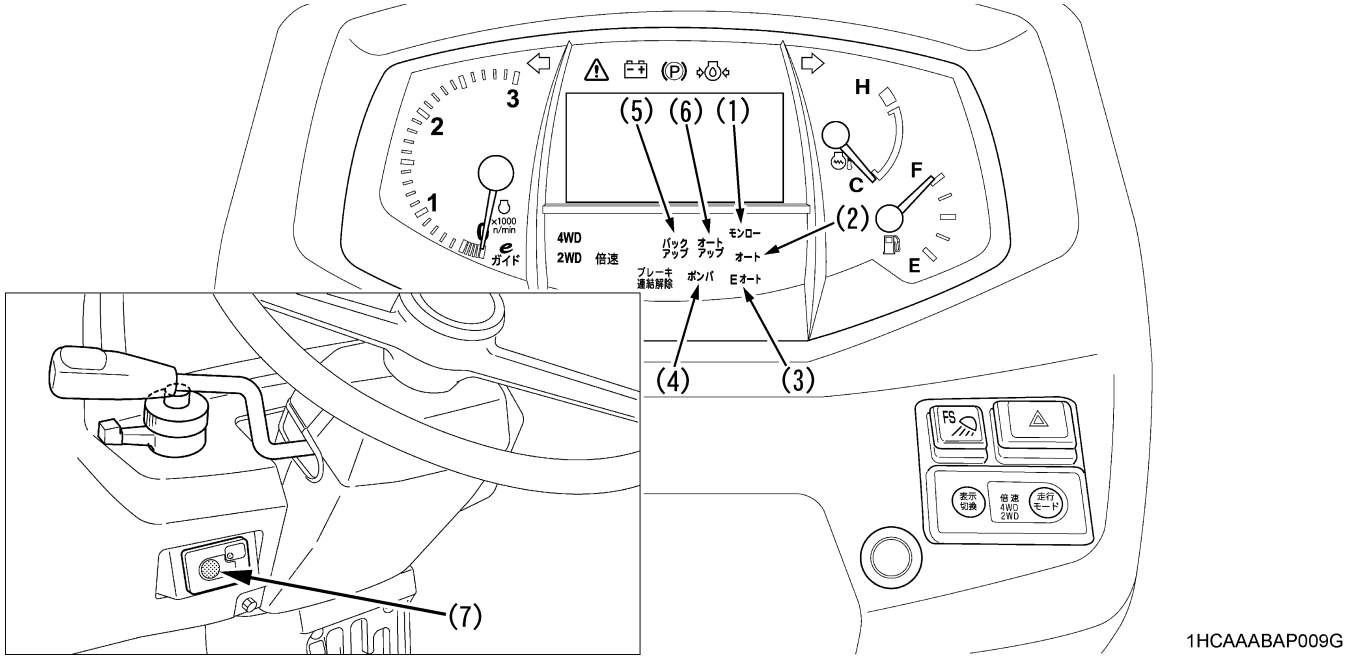
■各部の名称

各操作スイッチには，スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切り換わるタッチ式スイッチを用いています。また，スイッチでの選択状態を，メータパネル内のモニタランプと各スイッチランプで表示します。



1AGACCOAP029O

(1) 耕深調節ダイヤル
(2) スイッチランプ
(3) オートアップスイッチ
(4) モンロ手動スイッチ
(5) オートスイッチ
(6) 3P 切換スイッチ
(7) モンロスイッチ
(8) 切換スイッチ
(9) モンロ角度調節ダイヤル
(10) 三点リンク高さ規制ダイヤル
(11) バックアップスイッチ



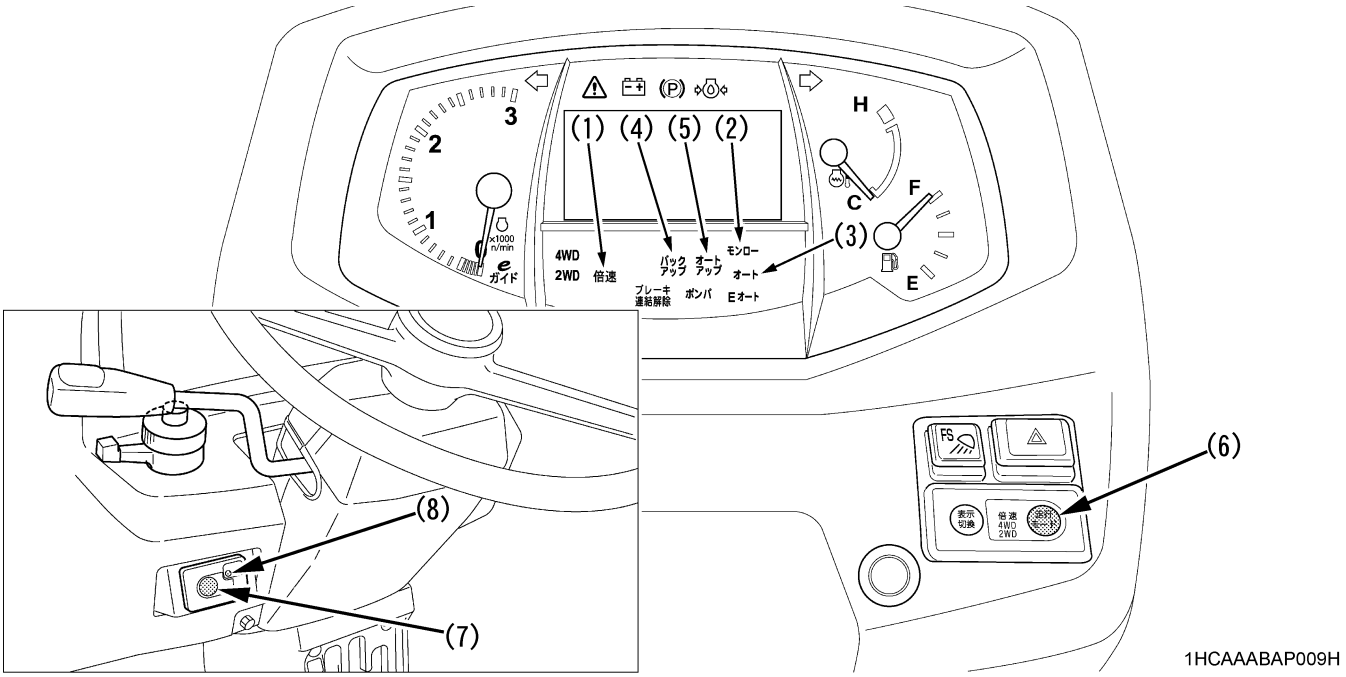
1HCAAABAP009G

(1) モンロランプ
(2) オートランプ
(3) E オートランプ
(4) ポンパランプ
(5) バックアップランプ
(6) オートアップランプ
(7) ワンタッチ耕うんモードスイッチ

■ワンタッチ耕うんモードスイッチ

一般的なほ場で耕うん作業を行なう場合にはワンタッチ耕うんモードスイッチを 1 回押すだけで，トラクタの自動装置はすべて標準的な設定（※）**［モンロ水平］［オート標準］［オートアップ入り］［バックアップ入り］［倍速］**に設定されスイッチ**［入］**ランプが点灯します。
※**［ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法］**により変更できます。

作業終了後，もう一度ワンタッチ耕うんモードスイッチを押すと，自動装置はすべて**［切］**になり，**［2WD］**の状態になります。（作業中，下記の任意変更を行なった場合には，再度自動装置がすべて**［入］**の状態になります。）



(1) 倍速ランプ
(2) モンロランプ
(3) オートランプ
(4) バックアップランプ
(5) オートアップランプ
(6) 走行モード切換スイッチ
(7) ワンタッチ耕うんモードスイッチ
(8) スイッチランプ（選択時点灯）

◆ワンタッチ耕うんモードの任意変更

作業に応じ各操作スイッチで各自動装置の設定が変更できます。
(設定を変更した場合は，ワンタッチ耕うんモードスイッチのランプは消灯します。)
初期設定状態に戻すには，モードスイッチを押してランプを点灯させた後，再度スイッチを押すと，自動装置はすべて**【切】**になり，**【2WD】**の状態になります。

	操作スイッチ	操作方法
倍速を効かせたくない。	走行モード切換スイッチ	希望の状態に切り換える。
オートを使用しない。	オートスイッチ	**【切】**にする。
オートを敏感にしたい。	オートスイッチ	**【敏感】**に切り換える。
カバーを上げて耕うんしたい。	オートスイッチ	**【E オート】**に切り換える。
モンロを使用しない。	モンロスイッチ	**【切】**にする。
傾斜地モンロを使用する。	モンロスイッチ	**【傾斜地】**に切り換える。
オートアップ不要の時。	オートアップスイッチ	**【切】**にする。
バックアップ不要の時。	バックアップスイッチ	**【切】**にする。

補　足

＊ 作業後または作業中にエンジンを停止した場合には，停止前の状態を記憶しています。
＊ モンローマチック・オート，オートアップ，バックアップ，および倍速については，それぞれ**【モンロスイッチ・オートスイッチ・オートアップスイッチ・バックアップスイッチ・走行モード切換スイッチ】**の項を参照してください。

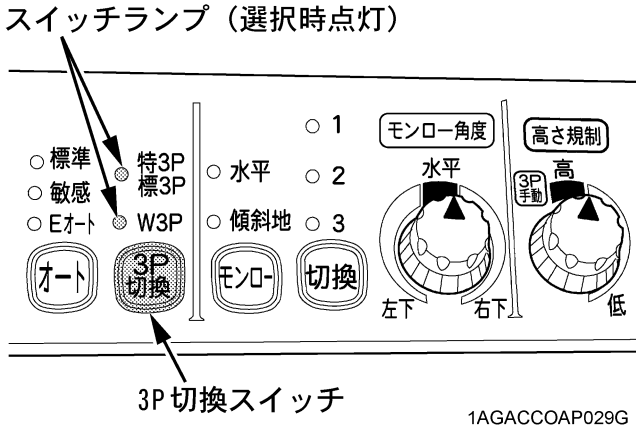
◆ ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法

よく使用する設定をワンタッチ耕うんモードとして記憶させることができます。
1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し，ワンタッチ耕うんモードスイッチのランプを**【点灯】**状態にします。
2. ワンタッチ耕うんモードの設定を変更します。(例えばバックアップが不要な場合はバックアップスイッチを押して**【切】**にします。)
3. ワンタッチ耕うんモードスイッチを５秒間長押しします。
   ５秒後メータから「ピ」音が作動すれば設定が記憶されます。
4. ワンタッチ耕うんモードの設定を工場出荷設定に戻したい場合は，ワンタッチ耕うんモードスイッチを 10 秒間長押しします。
   ５秒後にメータから「ピ」音が作動し，10 秒後にメータから２回目の「ピ」音が発生すれば，工場出荷の設定に戻ります。

■ 3P 切換スイッチ

スイッチを押すごとに
[特 3P ／標 3P ⇔ W3P]
に切換わります。
作業機装着時，下記を参考にスイッチを切換えてください。
選択状態はスイッチランプにより表示されます。

特 3P 用オートヒッチフレーム装着及び
オートヒッチフレーム無しの時
……特3P／標3Pを選択
W3P 用オートヒッチフレーム装着時
……W3P を選択



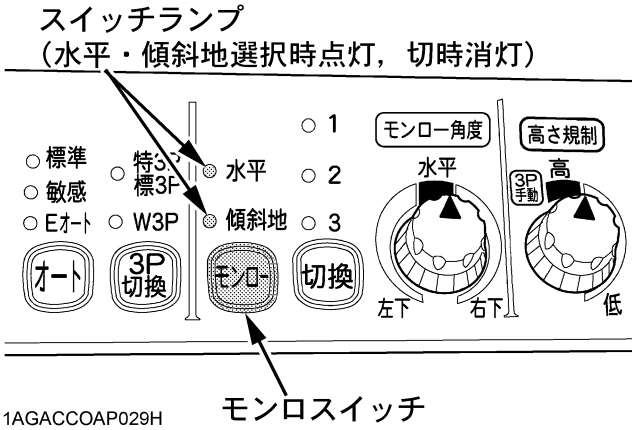
補　足

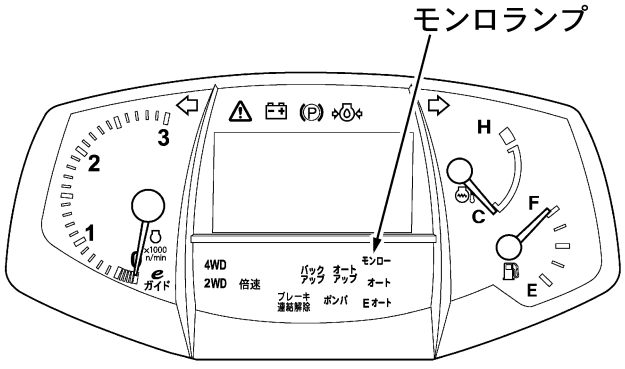
＊ 本機は特 3P 仕様のみです。
＊ モンロ及びオートを **[切]** にすると，3P 切換スイッチは操作できません。(スイッチランプも消灯)

■モンロスイッチ

スイッチを押すごとに
[水平⇒傾斜地⇒切（手動）⇒水平]
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

メータパネル
水平・傾斜地選択時……モンロランプ点灯
切（手動）選択時……モンロランプ消灯





◆ 水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. モンロ角度調節ダイヤルが**[水平]**位置の場合（作業機は常に水平に保たれます。）
＊ 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
＊ 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
＊ 畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. モンロ角度調節ダイヤルが**［水平］**位置以外の場合
（作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。）
＊ 広幅畝立て，その他

補　足

＊ モンロスイッチが**［水平］**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロスイッチ**［切］**で使用してください。

◆ 傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊適応作業：　傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業（マルチ・リッジャなど）

補　足

＊ モンロスイッチが**［傾斜地］**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ **［傾斜地］**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は**［切］**（手動）で使用してください。
＊ **［傾斜地］**選択時，斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは，モンロ手動スイッチにより，傾きの差が小さくなるように補正できます。トラクタが水平状態にあるときは調整できません。調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは，**［切］**又は**［水平］**で使用してください。エンジンを再始動すると，補正量は標準値に戻ります。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロスイッチ**［切］**で使用してください。

◆ 切（手動）

モンローマチックの**［自動制御が解除］**され，**［位置制御］**になります。

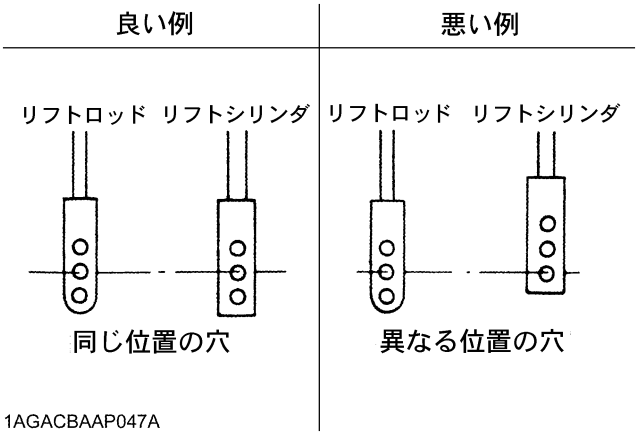
補　足

＊ モンロスイッチが**［切］**（手動）では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。
＊ **位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置（長さ）を一定に保ちたい場合に使用します。**モンロスイッチ**を**［切］**（手動）にすると，リフトシリンダの長さを**モンロ手動スイッチ**で設定した長さに保つ制御をします。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。
リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，リフトシリンダを**モンロ手動スイッチ**で適当な長さに合せて，耕起できます。通常に耕起する場合には，**モンロスイッチ**を**［水平］**に入れ，油圧レバーを上げると，リバーシブルプラウは車体と平行になります。その状態で**モンロスイッチ**を**［切］**にしてください。
＊ モンロスイッチを**［切］**（手動）でエンジンを停止させた場合，トラクタはそのときの作業機の傾きを記憶しており，次のエンジン始動時に，記憶した作業機の傾きに戻ります。

重　要

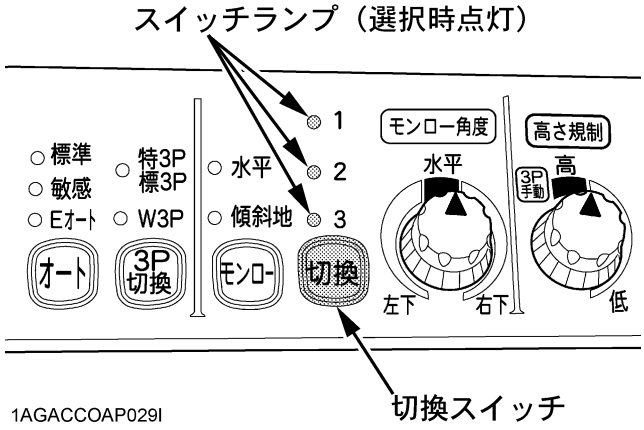
* モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**[切]** で作業してください。
* **[手動]** で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
* チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。



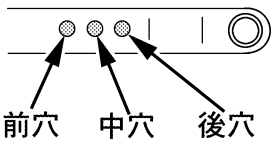
■切換スイッチ

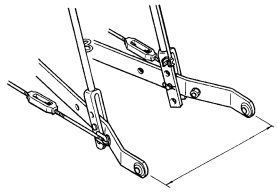
スイッチを押すごとに，
[1⇒2⇒3⇒1]
の順に切換わります。
作業機によって定まる三点リンクの取り付け状態（ロアーリンク幅及びロアーリンク穴）に応じて，下表を参考にスイッチを切換えてください。
選択状態はスイッチランプにより表示されます。



切換スイッチ	ロアーリンク	ロアーリンク穴位置	作業機例
1	広	中穴	オートヒッチフレーム付きロータリ（特殊 3P 仕様）
		中穴又は後穴	－
2	広	前穴	－
3	狭	前穴	－

ロアーリンク穴





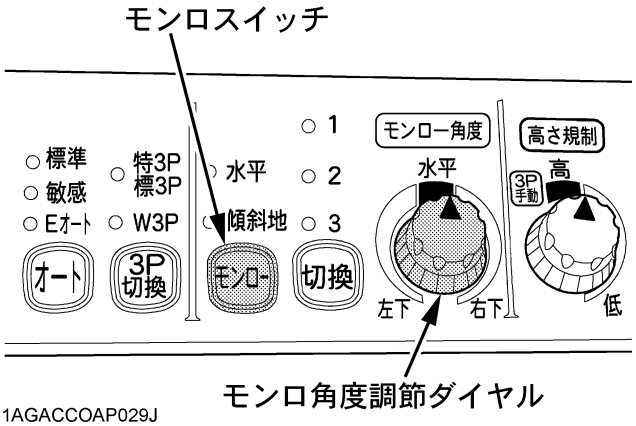
ロアーリンクの幅
[広] …718㎜ (JIS)
[狭] …590㎜ (参考)
1AGACBAAP048A

補　足

＊ 3P 切換スイッチが **[W3P]** を選択時，切換スイッチは自動的に **1** を選択します。
このとき，切換スイッチを押しても切換えできません。
＊ モンロ **[切]** のとき，切換スイッチは，操作できません。（スイッチランプ消灯）

■モンロ角度調節ダイヤル

モンロスイッチが**【水平】**の場合，作業機の姿勢を調節するときにモンロ角度調節ダイヤルを使用します。



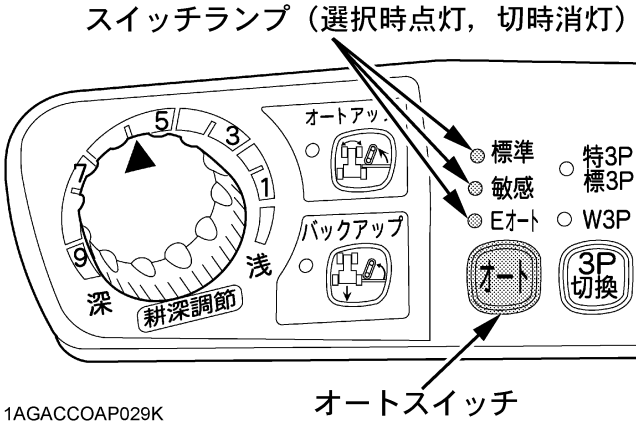
1AGACCOAP029J

1. ダイヤルを**【水平】**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**【左下】**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**【右下】**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

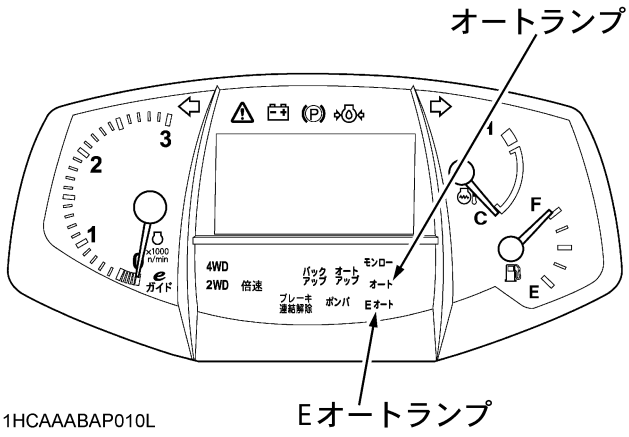
■オートスイッチ

スイッチを押すごとに
[標準⇒敏感⇒Eオート⇒切⇒標準]
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

メータパネル
標準・敏感選択時…… **【オート】**ランプ点灯
Eオート選択時…… **【Eオート】**ランプ点灯
切選択時…… **【オート】**，**【Eオート】**ランプ消灯



1AGACCOAP029K



1HCAAABAP010L

◆ 標準
浅起しから深起しまで，一般的な作業に使用します。

◆ 敏感
湿田での作業，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。

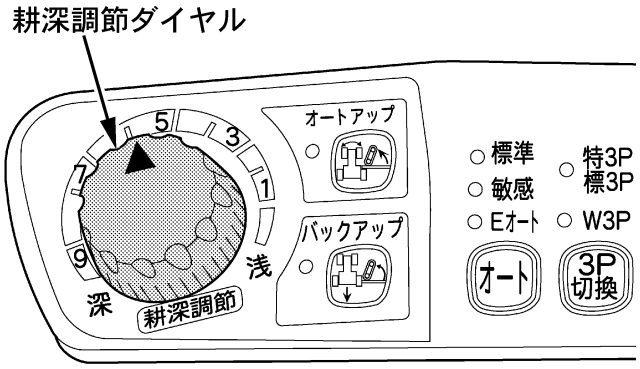
◆ Eオート
ロータリカバーを上げたまま荒起こしなどの作業を後2輪なしで行なうオート作業に使用します。

◆ 切
オートの自動制御が解除されます。

補　足

＊ ロータリカバーを上げて作業するときは，**【Eオート】**または**【切】**にしてください。
＊ **【標準】【敏感】**選択時でも，ロータリなどの作業機が付いていない場合は，オートランプは消灯します。

■耕深調節ダイヤル



1AGACCOAP029L

オートスイッチが，**［標準・敏感・E オート］**の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

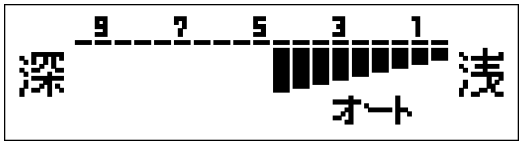
補　足

＊ **［浅］**から**［1］**付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田や代かき作業に利用してください。

＊ ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が変化する場合は，ダイヤルで調節してください。

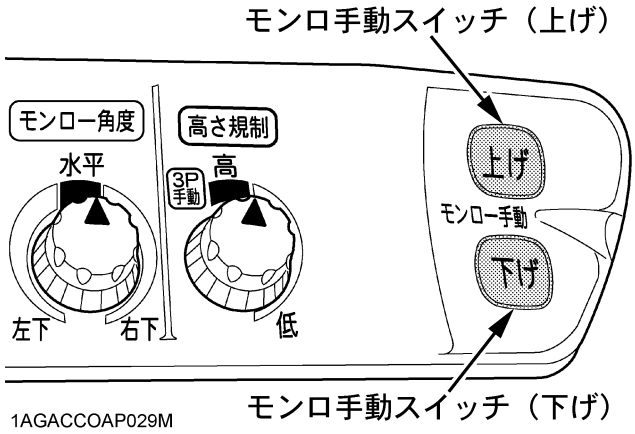
電子メータメッセージ

＊ 耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，ブザーが鳴りダイヤル調節に応じて下記メッセージが表示されます。操作終了後，約５秒間で元の表示にもどります。



■モンロ手動スイッチ

モンロスイッチが**［切（手動）］**の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



1AGACCOAP029M

1. **［上げ］**方向へスイッチを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **［下げ］**方向へスイッチを押している間，作業機の右側が下がります。

補　足

＊ モンロスイッチが**［傾斜地］**の場合，このスイッチにより斜面と作業機の傾きの差を補正できます。

■作業機の取扱い

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

購入先にご相談ください。

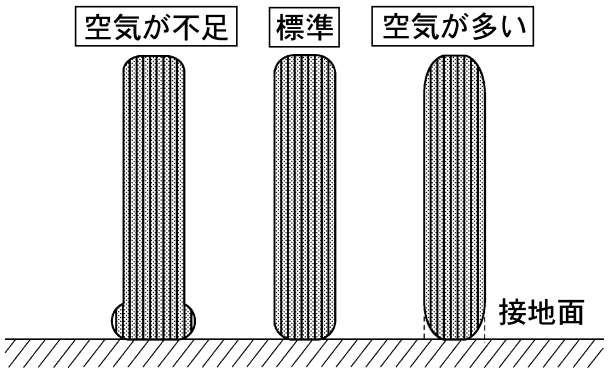
タイヤ・ウエイト

■タイヤの空気圧

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

［　］内はフロントローダ装着時

	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前　輪	157(1.6) ［196(2.0)］
	137(1.4) ［230/60-16 特殊広幅タイヤのみ］
後　輪	98(1.0)

■輪距の調整

注　意

＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

◆ 前輪

前輪の輪距は変更できません。

◆ 後輪

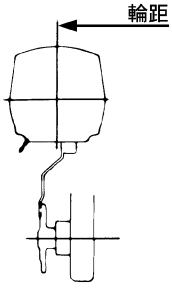
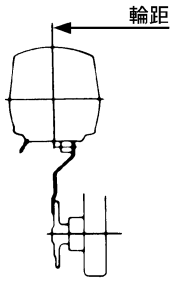
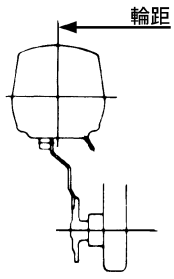
リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。
＊ 道路走行時は，出荷状態に戻してください。

補　足

＊ タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

型 式 (標準タイヤ)			
GTS266・316-M (9.5-24)	1115mm (出荷状態)	―	1235mm
GTS266・316-WM (320/60-26)	―	1140mm (出荷状態)	―

補　足

＊ 輪距によりディスクの組換えもあわせて行なってください。

■ウエイト（オプション）

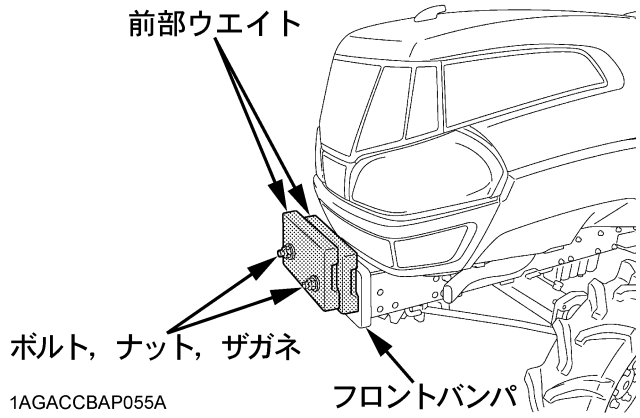
注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

ウエイトの必要枚数は使用する**インプルメント**の**［取扱説明書］**や購入先にご相談ください。

◆ 前部ウエイトの取付け方法

トラクタのフロントバンパにウエイトを付属のボルト，ナットで固定します。
ウエイト１枚の重量は 28kg で１～３枚取付けできます。



トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

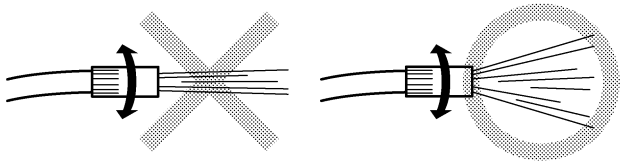
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

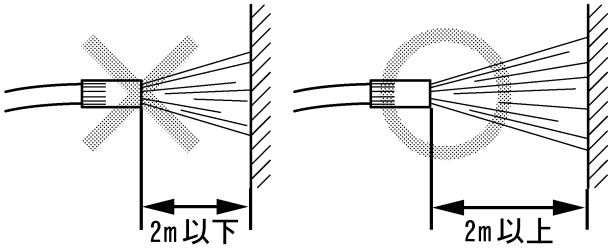
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

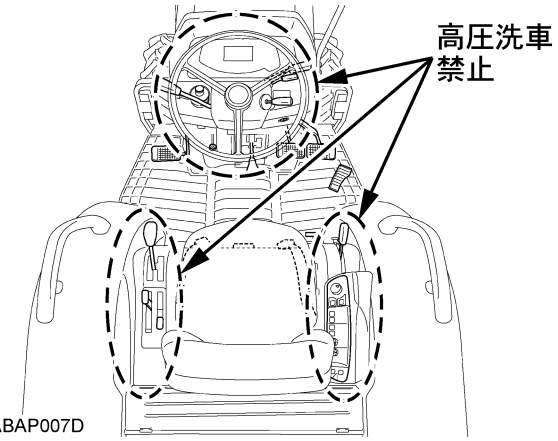
近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

重　要

＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。



1HCAAABAP007D

補　足

＊ 市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形，割れ，曇りが発生する場合があります。特に電子メータパネル，泥よけなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後又は 100 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参　照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	交換	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	78
2	エンジン排気の状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	79
3	エキゾーストパイプ及びマフラの状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	79
4	エンジンオイルフィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	83
5	油圧オイルフィルタ	交換		◎				○				○				○	200 時間ごと	84
6	ミッションオイル	交換		◎								○					400 時間ごと	86
7	前車軸ケースオイル	交換					○						○				300 時間ごと	86
8	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	76
9	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	76
10	タイヤ取付ボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	77
11	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	77
12	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	77
		交換															２年ごと	77
13	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	78
		交換															２年ごと	78
14	バッテリ電解液	点検	○		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	79
15	エアクリーナエレメント	清掃	○		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	81
		交換															１年ごと	81
16	燃料フィルタエレメント	交換							○								400 時間ごと	87
17	ファンベルト	調整	○		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	82
18	クラッチペダル	調整	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	82
19	ブレーキペダル	調整	○		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	82
20	ステアリングジョイント部	点検			○				○				○				200 時間ごと	85
21	ラジエータホース	点検			○				○				○				200 時間ごと	84
		交換															２年ごと	89
22	トーイン，タイロッド	点検			○				○				○				200 時間ごと	85
23	エンジンバルブクリアランス	点検															800 時間ごと	87
24	前部デフケース前後遊び	調整											○				600 時間ごと	87
25	ラジエータ(クーリングシステム)	洗浄															２年ごと	89
26	冷却水	交換															２年ごと	88
27	メインシリンダホース	交換															２年ごと	89
28	モンロシリンダホース	交換															２年ごと	89
29	燃料の空気抜きのしかた	－															必要に応じて	89
30	ヒューズ類	交換															必要に応じて	90
31	ランプ類	交換															必要に応じて	90

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

No.	給油（水）項目	容　　量（L） GTS266, GTS316	備　　考
1	燃　　料	27	ディーゼル軽油
2	冷　却　水	5.8	清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）
3	エンジンオイル	4.5［5.7］	ディーゼルエンジン用 D30 又は D10W-30 CD 級
4	ミッションオイル （油圧オイル）	32	三菱スーパー UDT
5	前車軸ケース	3.2［4.0］	
6	各操作レバー ・ペダル支点	注　　油	
7	三点リンク	注入・塗布	極圧（万能）グリース
8	バッテリターミナル	塗　　布	
9	油圧シリンダ	注　　入	

［　］内は分解・修理した場合の給油量です。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル
新日本石油	ディーゼルエンジン用 D30 又は D10W-30CD	三菱スーパー UDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	商品名	用　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス SR2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ PS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

注　意

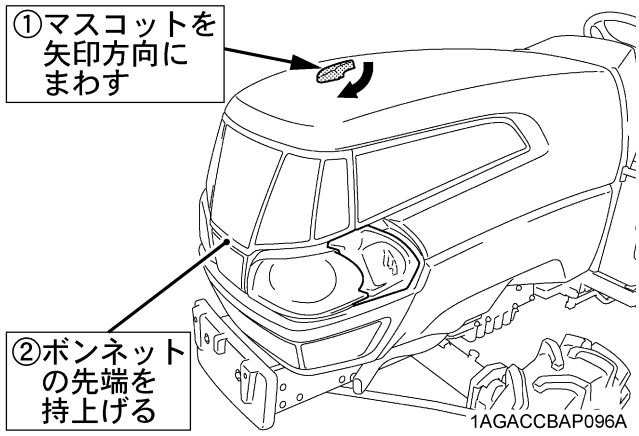
＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

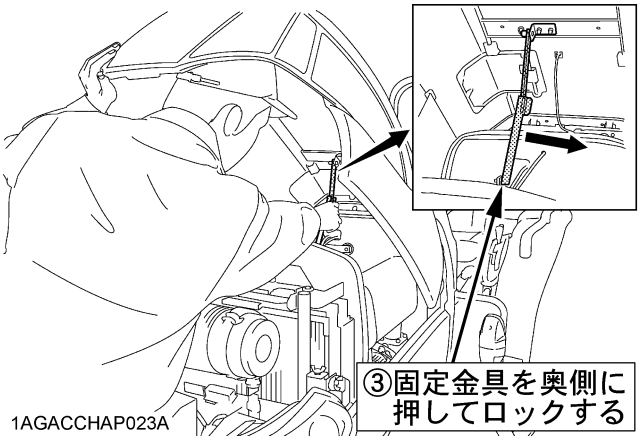
■ボンネットの開閉

注　意

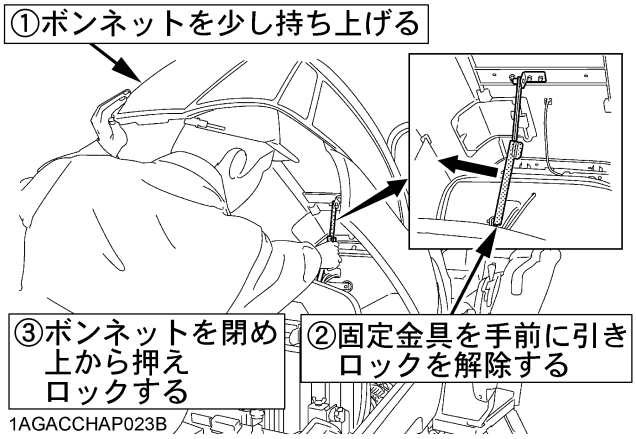
＊ ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

◆ ボンネットの開け方



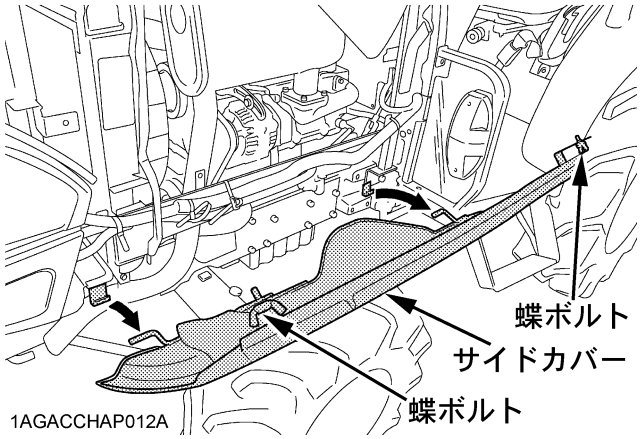


◆ ボンネットの閉め方



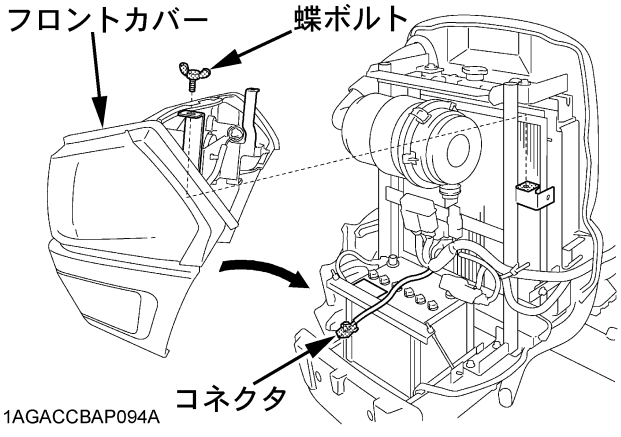
■サイドカバーの取り外し

両側のボルトを外し，上部へ引き上げてサイドカバーを外します。



■フロントカバーの取り外し

1. ヘッドライト用コネクタを外します。
2. 両側のボルトを外し，フロントカバーを外します。



日常点検

注　意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

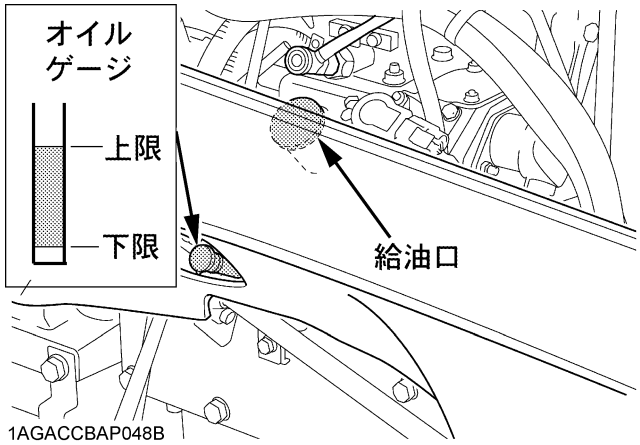
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



重　要

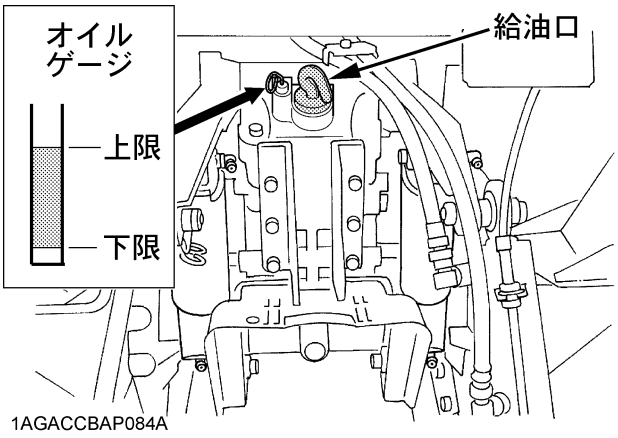
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。

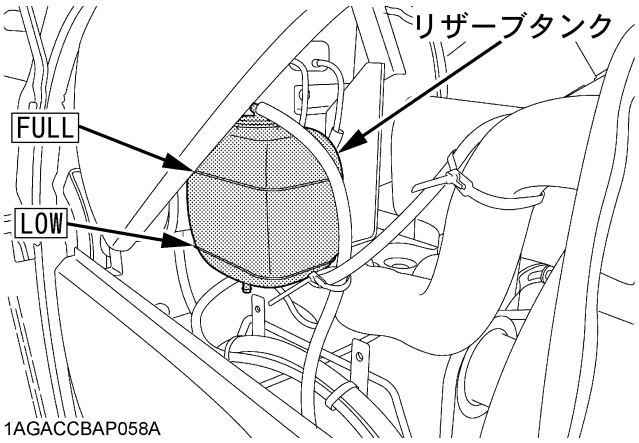


■冷却水の量

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。

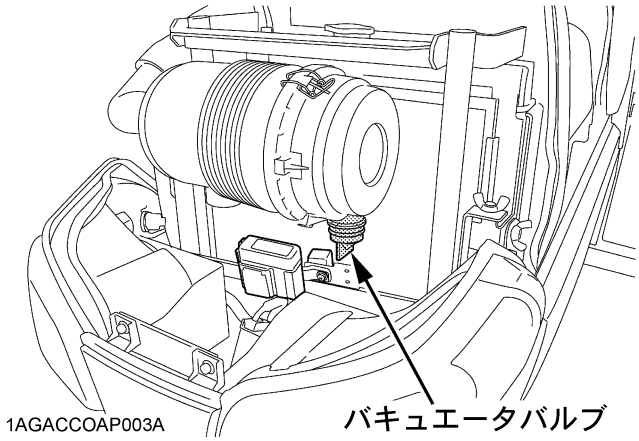


補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ごみを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

注　意

＊ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因になり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性など充分考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリおよび電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，わらくず・ゴミ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。

1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

重　要

＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
＊ １年に１回は，購入先で定期点検を受けてください。
＊ スローブローヒューズの点検，交換は必ず購入先で行なってください。

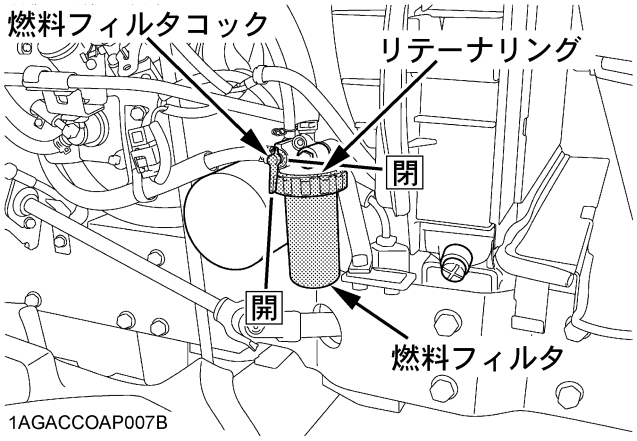
■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ごみがフィルタ内に沈殿します。水・ごみがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ごみを取除いてください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

1. 燃料フィルタコックを**[閉]**にしてください。
2. カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。（**[トラクタの簡単な手入れと処置]**の章の**[燃料の空気抜きのしかた]**の項を参照）

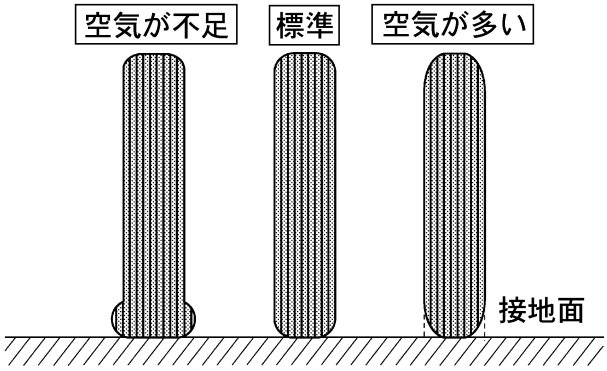


■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



◆ 標準空気圧

［　］内はフロントローダ装着時

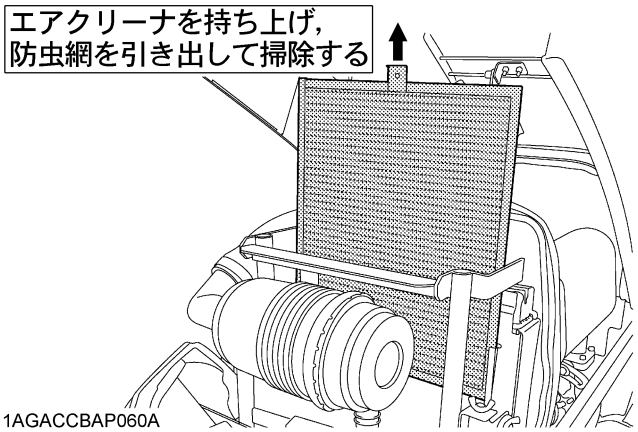
	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前　輪	157(1.6)［196(2.0)］
	137(1.4) ［230/60-16 特殊広幅タイヤのみ］
後　輪	98(1.0)

■防虫網の清掃

注　意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実や昆虫が付着し詰まることがあります。防虫網を引出し清掃してください。

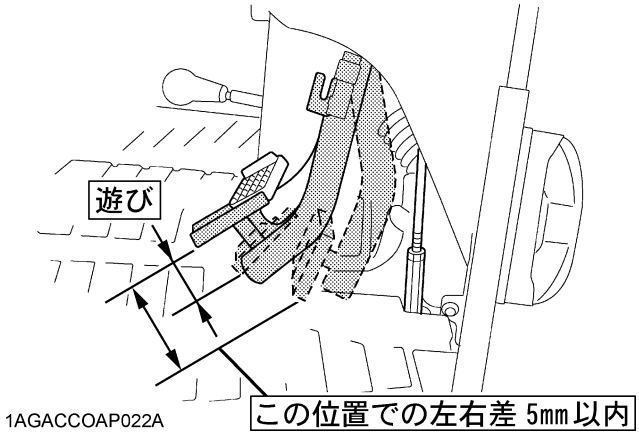


■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

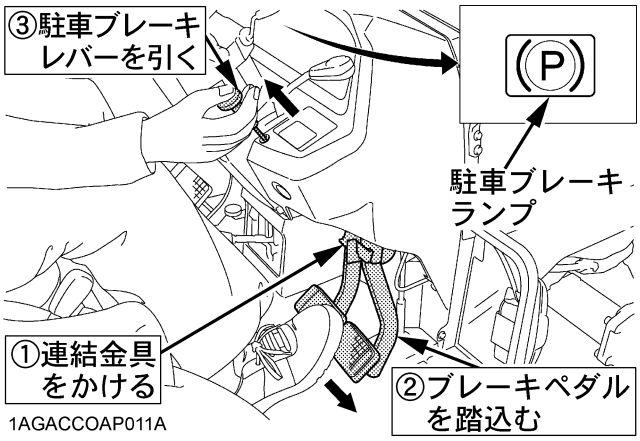
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ペダルを踏んで遊び量が**［15 ～ 20㎜］**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5㎜以内**かどうかを調べます。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照）



■駐車ブレーキの作動点検

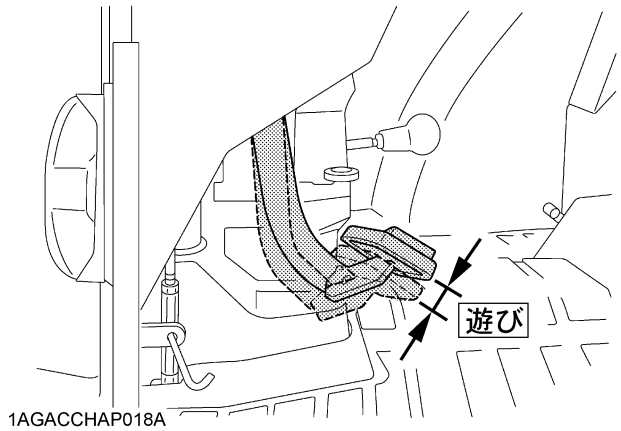
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**［引い］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。キースイッチ**［入］**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の（Ⓟ）ランプが点灯します。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



1AGACCOAP011A

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が**［20 ～ 30mm］**あるか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100時間ごとの点検・整備］**の**［クラッチペダルの点検・調整］**の項を参照）



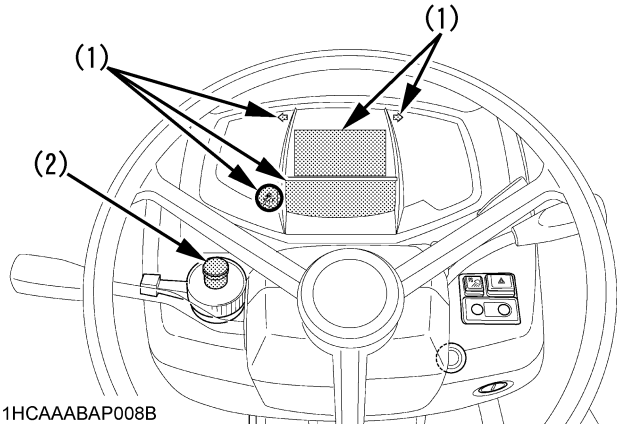
1AGACCHAP018A

重　要

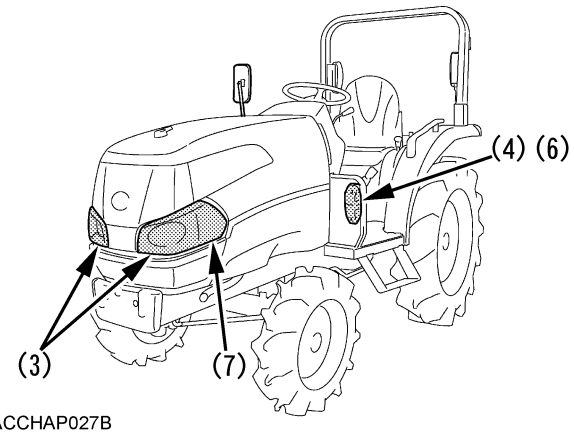
＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

■メータ・ランプ類の作動

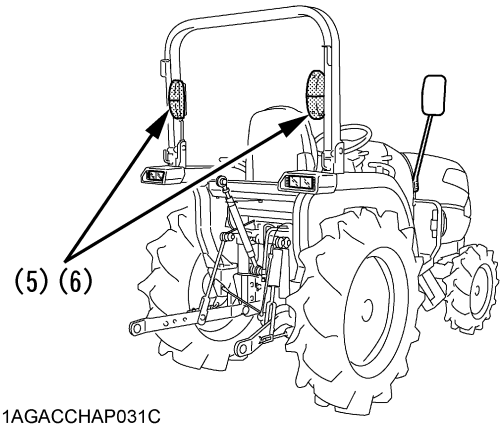
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。
(1) 電子メータ
(2) ホーン
(3) ヘッドライト
(4) ウインカ（前）
(5) ウインカ（後）
(6) ハザードランプ
(7) フロントサイド作業灯



1HCAAABAP008B



1AGACCHAP027B



1AGACCHAP031C

■燃料の補給

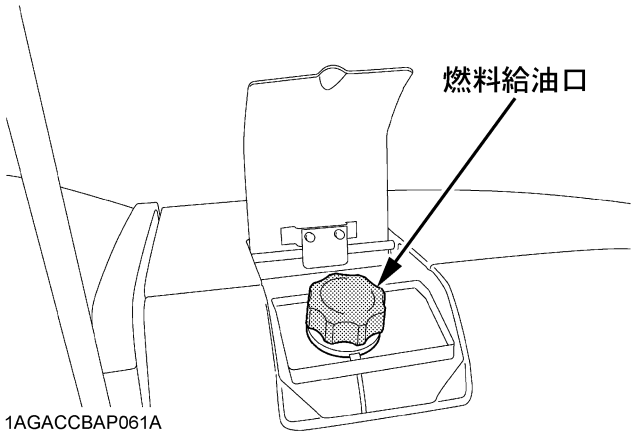
注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１　号	-2.5 以下
２　号	-7.5 以下
３　号	-20 以下
特３号	-30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



重　要

＊ 燃料中にごみや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

■エンジンの始動確認

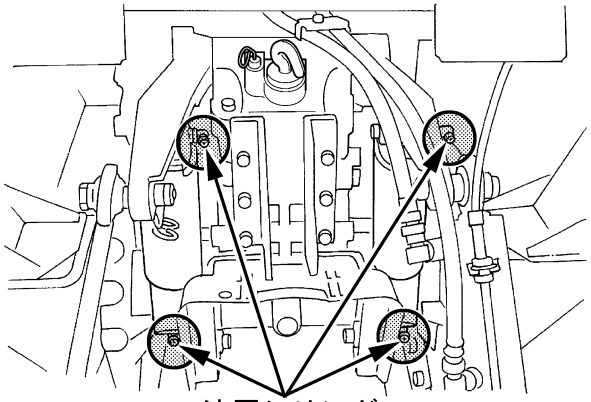
エンジンを始動し，かかり具合，異音がないかを確認してください。

アクセルペダルを操作し，加速・減速がスムーズか確認してください。

50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［推奨グリース］**を使用してください。



1AGACCBAP084B

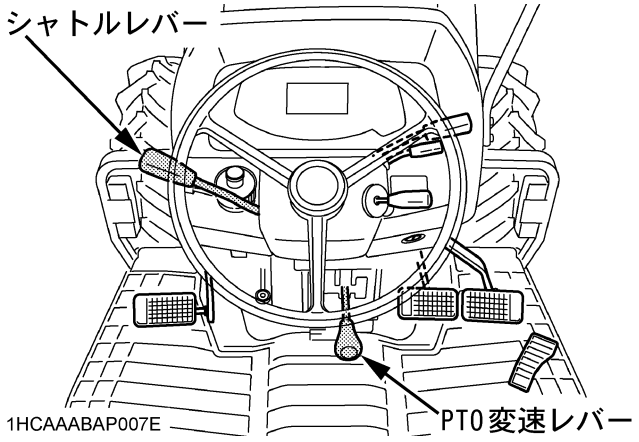
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

1. 運転席に座り，主変速，シャトル及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，クラッチペダルを一杯踏込んだままシャトルレバーを**［前進］**又は**［後進］**に入れ，PTO 変速レバーを**［各変速段］**（**一方が中立 (N) の場合も含む**）に入れ，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

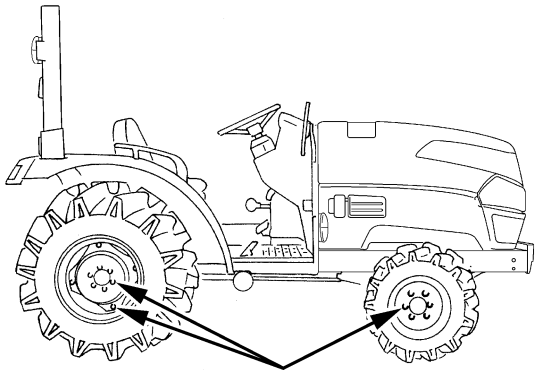


1HCAAABAP007E

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

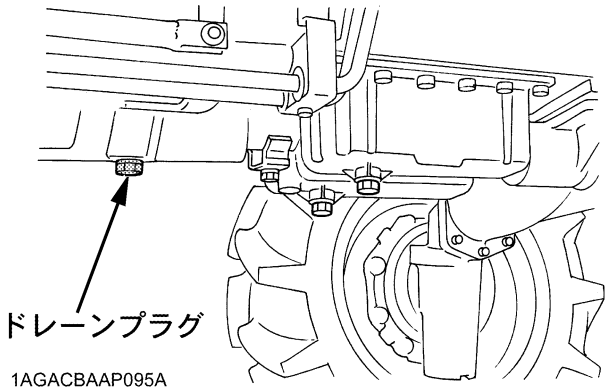
＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。



1AGACCHAP043A

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



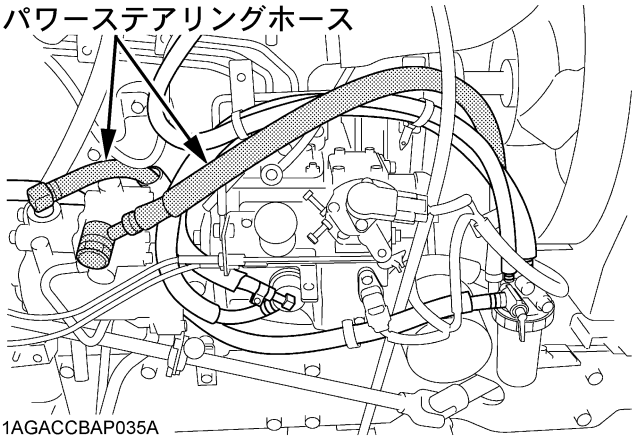
1AGACBAAP095A

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。
ホースがいたんでいないか常に注意してください。



1AGACCBAP035A

重　要

＊ 交換時にホースなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると作動不良の原因になります。

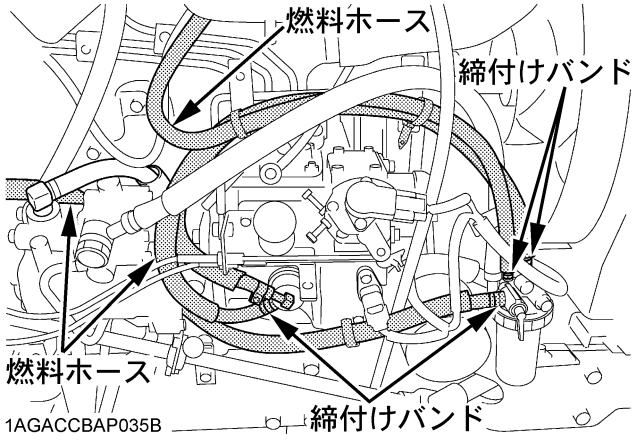
■燃料ホースの点検

注　意

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。

1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，いたんでいないか常に注意してください。
2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**[トラクタの簡単な手入れと処置]**の章の**[燃料の空気抜きのしかた]**の項を参照）



重　要

＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

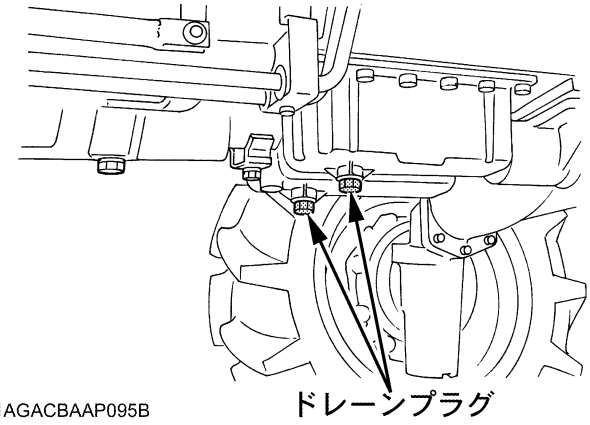
100 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

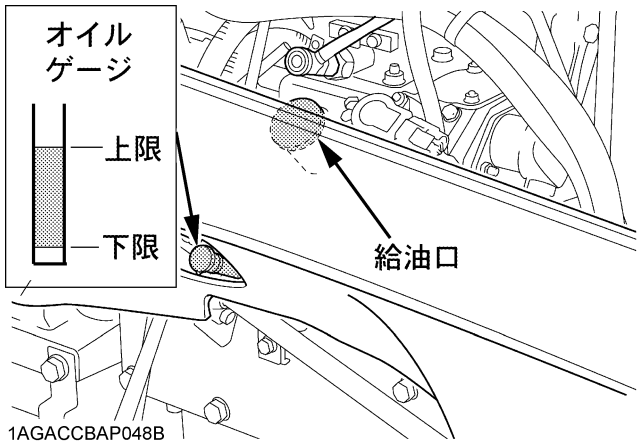
注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグ（左右共）を外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



2. ドレーンプラグ（左右共）を締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

15 ℃以下	D10W-30（オールシーズン用）
15 ℃以上	D30，又は D10W-30

＊ 冬期は必ず D10W-30 を使用してください。
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■エンジンの排気の状態

エンジンを始動し，排気色に異常がないか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の **［エンジンの不調と処置］**の項を参照）

■エキゾーストパイプ及びマフラの状態

エキゾーストパイプ，マフラに破損，取付ボルトのゆるみなどがないか確認してください。
排気音に異常がないか確認してください。

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水不要な MF（メンテナンスフリー）バッテリと補水が必要な開放型バッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因になることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

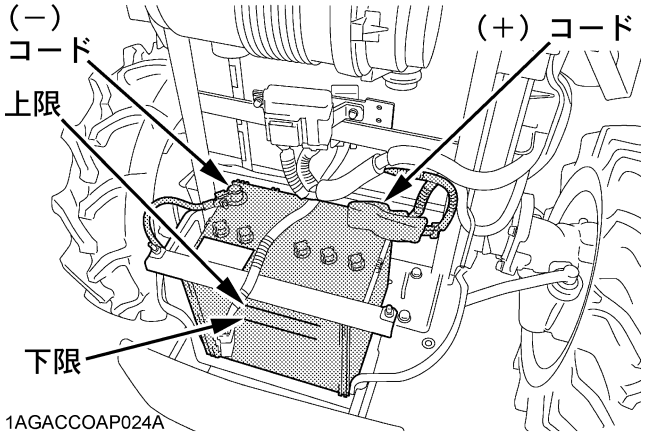
警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

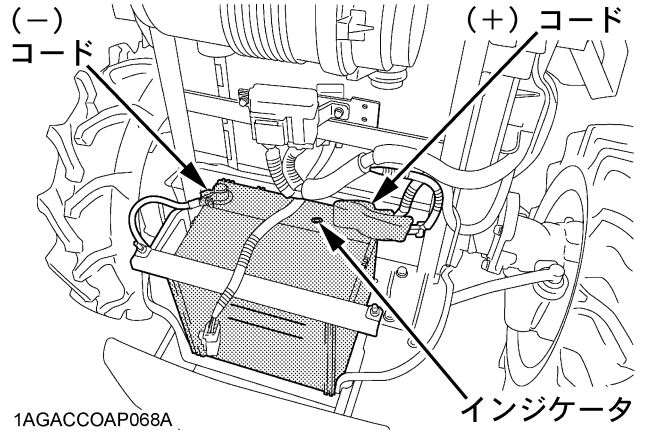
[開放型バッテリ]

バッテリ側面の２本線間（レベル）に液面があるか点検してください。少ないときは上限の線（レベル）まで蒸留水を補給してください。



[MF（メンテナンスフリー）バッテリ]

MF（メンテナンスフリー）バッテリは，開放型バッテリに比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっています。上面にインジケータがあり，その表示状態により補充電又は，交換してください。



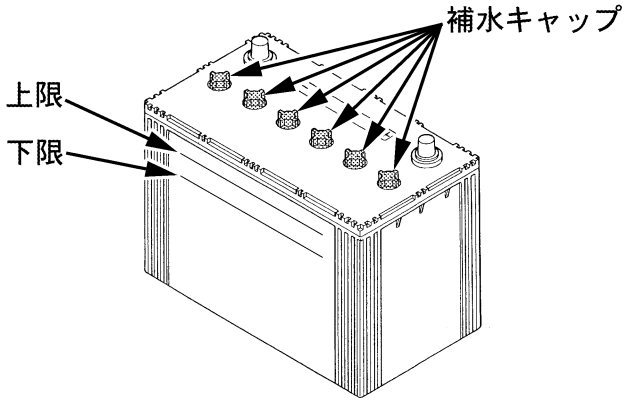
◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 6 ～ 7A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換が必要です。

◆ 補水のしかた

[開放型バッテリ]

1. バッテリ上ふたの補水キャップを外します。
2. ６個の補水穴から蒸留水を均一に上限の線（レベル）まで補水します。
3. キャップを元の穴にねじ込みます。



◆ バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（＋）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（＋）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（75D23R）のバッテリを使用してください。
＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），(−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線などをいためることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

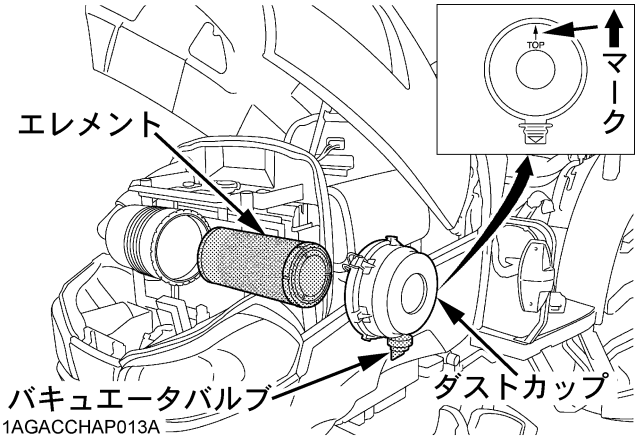
■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントをいためないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。



重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃

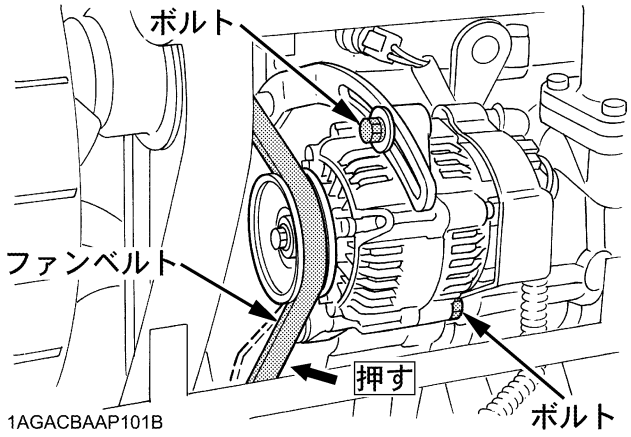
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約69N（7 kgf）の力で押さえて，約12mmたわむ程度

◆ 調整方法

1. オルタネータを取付けているボルトをゆるめて，オルタネータを動かして調整します。
2. 調整後はボルトを確実に締付けてください。



重　要

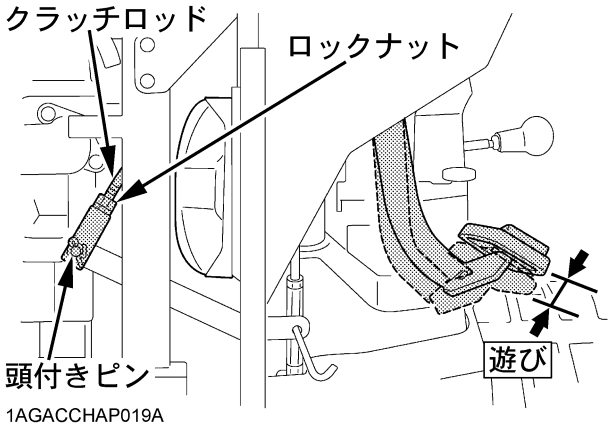
＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20 ～ 30mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げてください。



重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

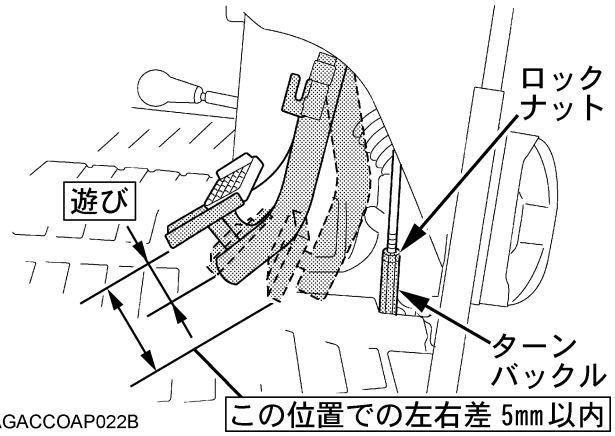
警　告

＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 15 ～ 20mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けてください。
3. ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



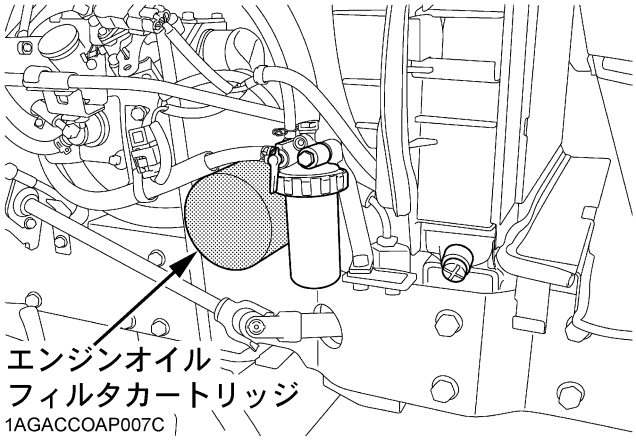
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油もれがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



補　足

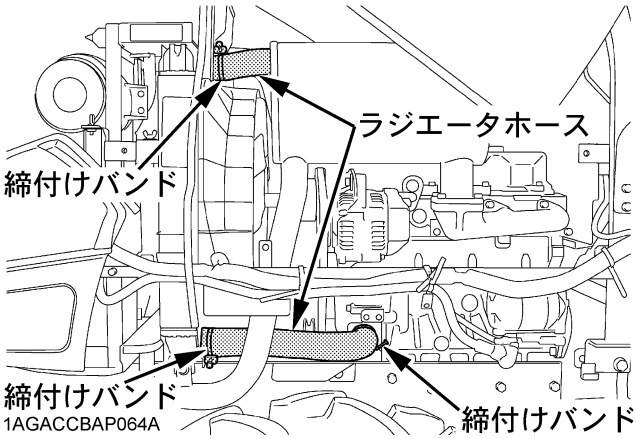
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■ラジエータホースの点検

注　意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。

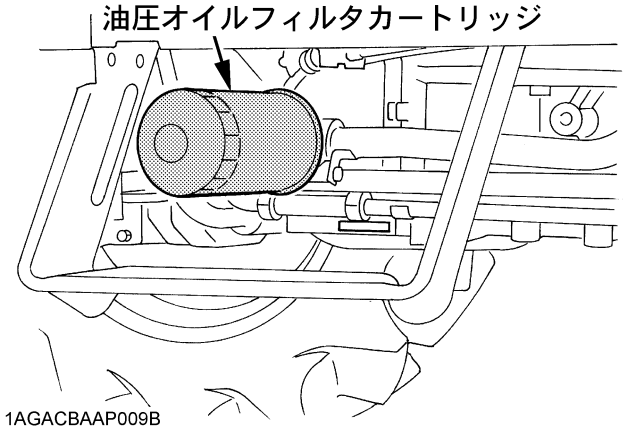


■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

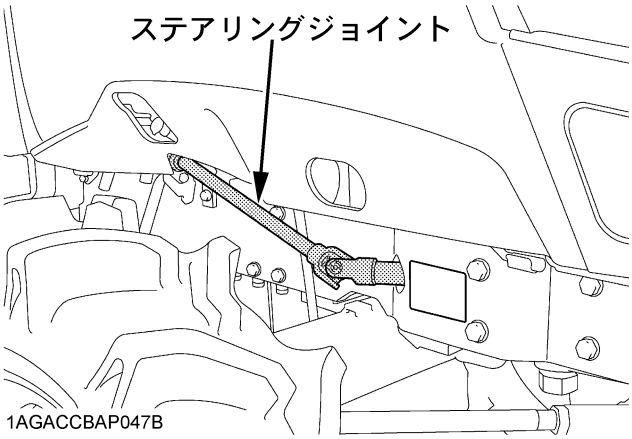
純正部品のカートリッジと交換してください。



1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認し，作業機（ロータリなど）を下げてからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［400 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

■ステアリングジョイント部の点検

エンジンを停止して，ステアリングジョイントを手でさわって，ステアリングジョイントにガタや変形がないか点検してください。
もし，異常があれば購入先へ点検整備依頼してください。



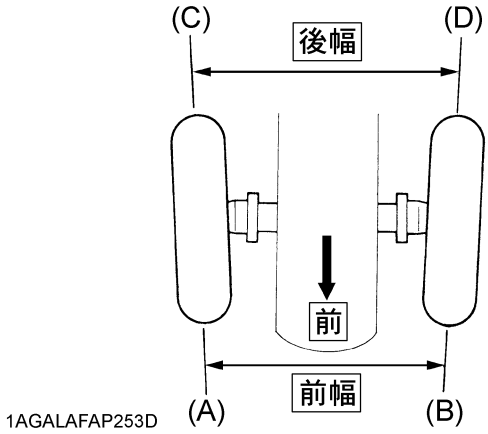
■トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

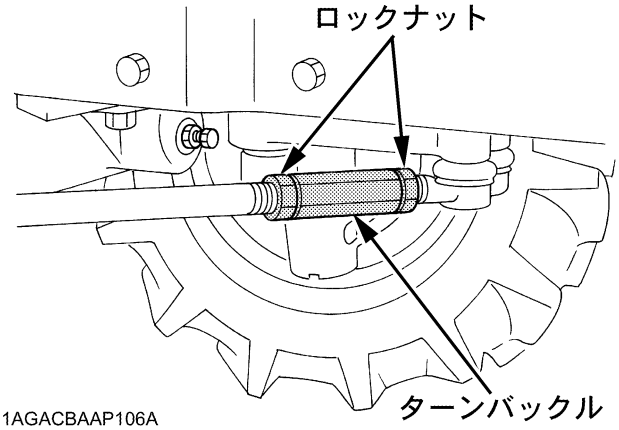
◆ 点検

前輪の前幅 (A)(B) と後幅 (C)(D) を測り，
(C)(D) － (A)(B) ＝２～８ ㎜
になっているかを調べます。



◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して (C)(D) － (A)(B) ＝２～８ ㎜
   になるように調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けてください。



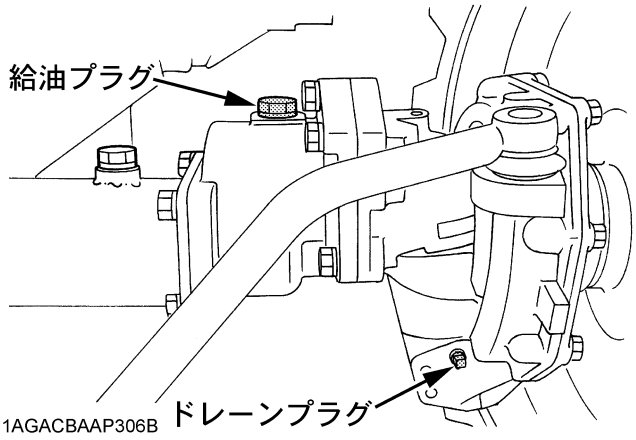
補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド (関接球) やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。

300 時間ごとの点検・整備

■前車軸ケースオイルの交換

1. 給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。



2. ドレーンプラグを締めます。
3. ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

補　足

＊ 給油プラグを外さないと空気が入らないので，オイルの排出に時間がかかります。

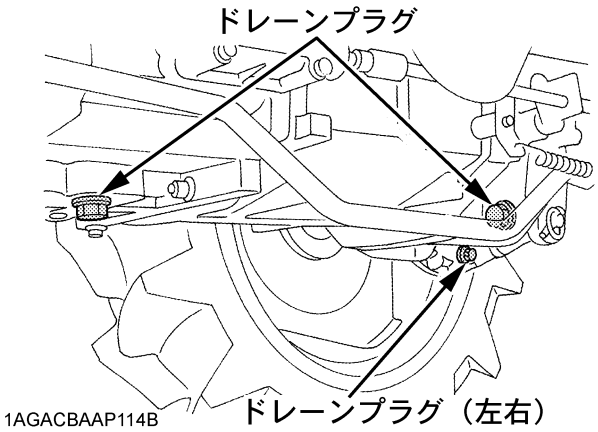
400 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

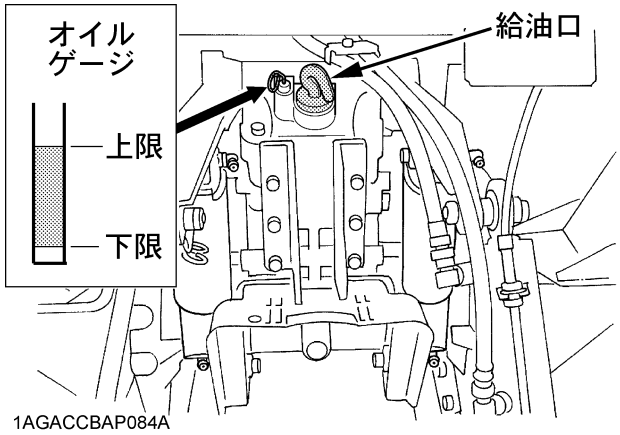
注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. 給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを抜きます。



2. ドレーンプラグを締めます。
3. ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。



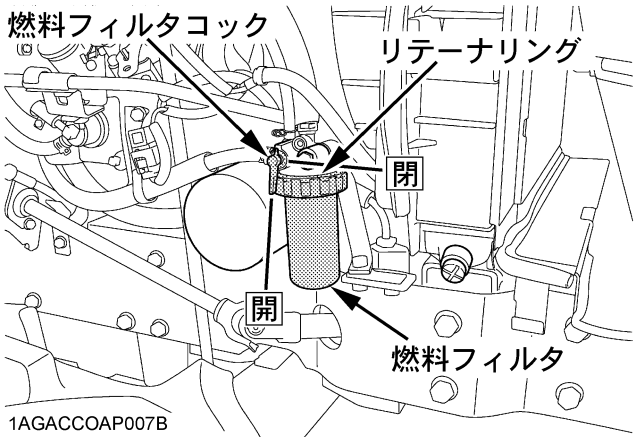
4. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。
5. 一度オイルゲージの油をふき取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

■燃料フィルタエレメントの清掃・交換

1. 燃料フィルタコックを**【閉】**にしてください。
2. カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
3. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



600 時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの調整

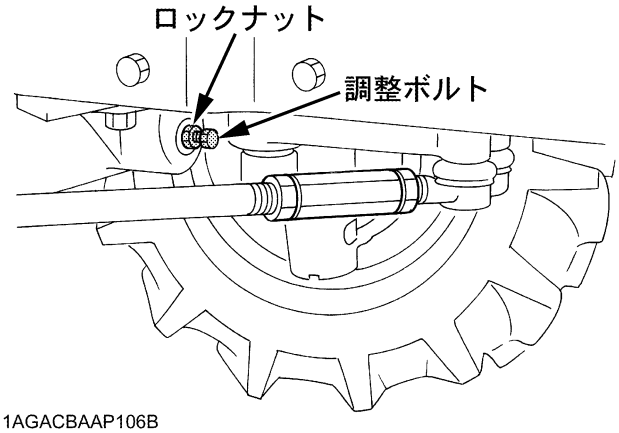
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。



800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。）

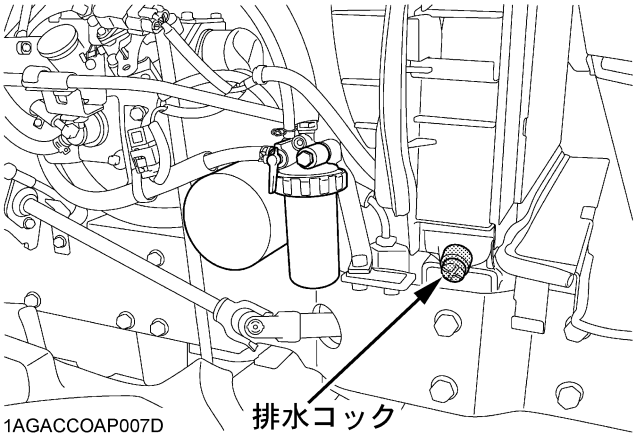
2年ごとの点検・整備

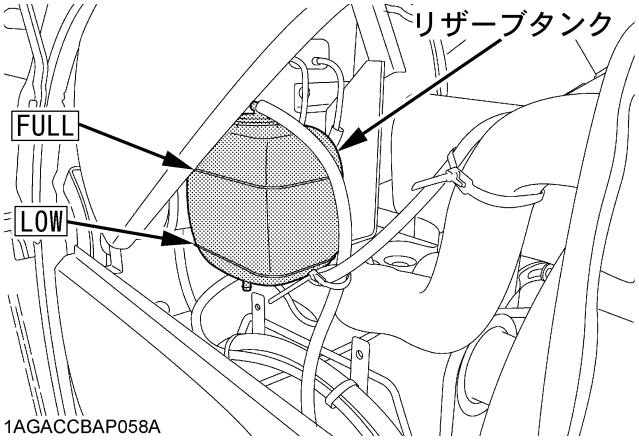
■冷却水の交換

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。





3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄
洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換

■パワーステアリングホースの交換

■燃料ホースの交換

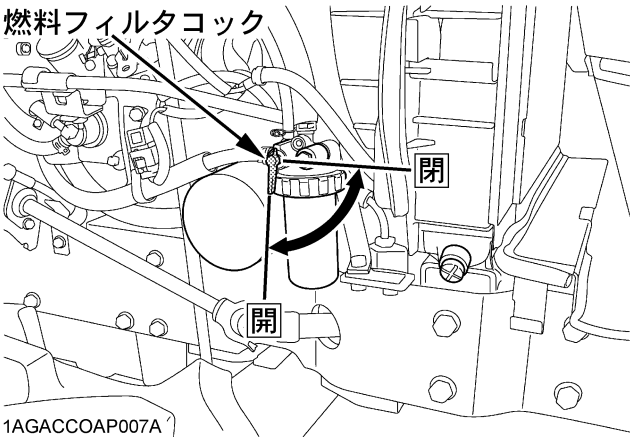
■メインシリンダホースの交換

■モンローシリンダホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

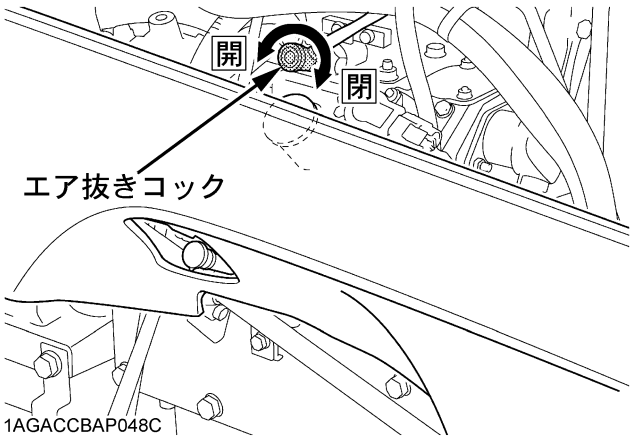
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1．燃料フィルタコックを**【開】**にする。



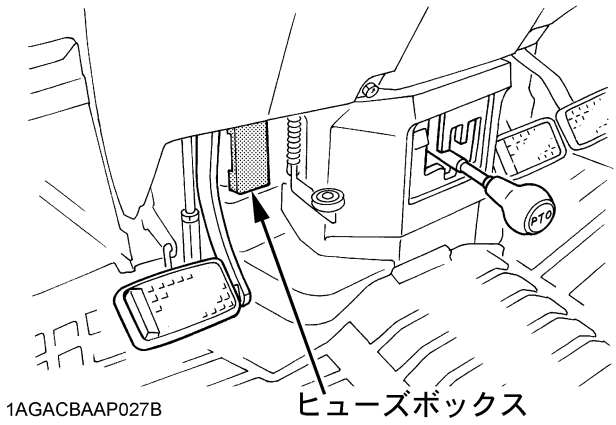
2．燃料噴射ポンプ上のコックを**【開】**く。



3．タンクに燃料を満たす。
4．エンジンを始動し，約１分間運転後停止する。
5．燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

補　足
＊ 空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは，必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

■ヒューズの交換



1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

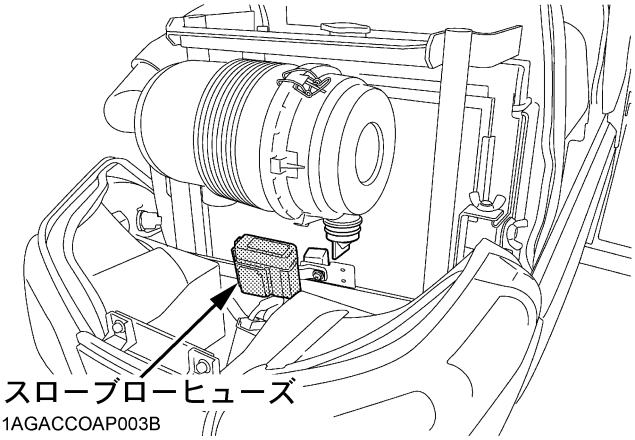
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，購入先で点検，修理してください。



■ランプ類の交換

1. ヘッドライトは，ライトのボディ後部からバルブを取出して交換します。
   交換後はゴムカバーを確実に取付けしてください。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

格納

■長期格納時の手入れ

注　意

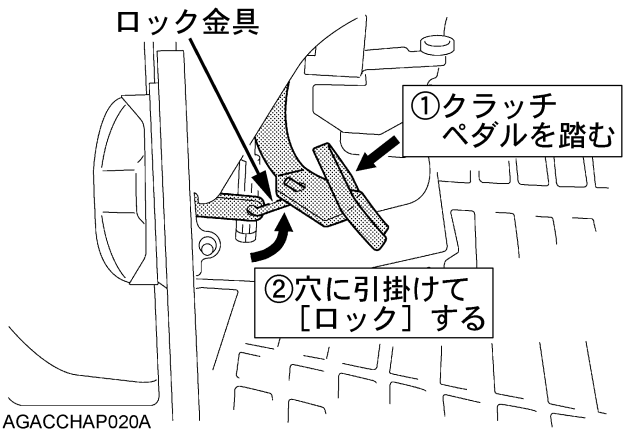
＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切り］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 燃料フィルタコックを**［閉］**にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆ クラッチ［切］保持の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込み，**［ロック］**します。
(2) ロックしたまま，クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは，**［切］**の状態で保持されます。
(3) 使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，**［ロック］**が外れ，**［切］**保持の状態が解除されます。



重　要

＊ クラッチペダルをロックせずに長期保管した場合，クラッチ板のさび付きにより，クラッチが切れなくなるだけでなくクラッチが損傷する場合があります。

8. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
9. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
10. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
11. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
12. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
13. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
14. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
15. 格納場所は，周囲にわらなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
16. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統の故障の原因になります。

重　要

* 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因になります。
* 灯火類は消灯した状態で洗車してください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
* 格納時は，必ず**【切】**の位置でキーを抜いておいてください。
* バッテリの取付けの際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタの電子機器類が破損する場合があります。

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。 ● 冬期は冬期用燃料に交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 燃料フィルタ内に沈殿した水・ごみなどを取除く。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● 気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は D10W-30 を使用） ● バッテリを充電，又は新品に交換する。 ● オイル量を点検し，上限を越えていれば正規のオイル量にする。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃，又は交換する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃，又は交換する。
水温計が H 付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合，又は上記対応で解決しない場合は，購入先にご相談ください。

■モンローオート・倍速仕様の故障と処置

モンローオート仕様に異常が生じた場合，電子メータに下記のメッセージが表示されます。故障箇所と，一部の使用を制限した緊急処置的な運転操作を表示します。「購入先に連絡して下さい」と表示した場合は，すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。

[モンローオート]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
スイッチボックス確認 購入先へ連絡して下さい	MAスイッチボックス信号の異常	購入先に連絡。
リフトアームセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	リフトアームセンサの異常	高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を操作する。
ポジションセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	ポジションセンサの異常	
ストロークセンサ確認 モンロー手動スイッチで操作できます	ストロークセンサの異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
ローリングセンサ確認 モンロー手動スイッチで操作できます	ローリングセンサの異常	
カバーセンサ確認 E オートで使用できます	カバーセンサの異常	オートスイッチを**[E オート]**に切換えて使用する。
オートソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	3P ソレノイドの異常	購入先に連絡。 (作業機が昇降できない)
モンローソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	モンローソレノイドの異常	モンロスイッチを**[切]**にして使用する。
耕深調節確認 油圧レバーで操作できます	耕深調節の異常	オートスイッチを**[切]**にし，油圧レバーで作業機を操作する。
モンロー角度調節確認 モンロー手動スイッチで操作できます	モンロ角度調節の異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
ST センサ確認 購入先へ連絡して下さい	ST センサの異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
高さ規制確認 購入先へ連絡して下さい	高さ規制の異常	購入先に連絡。
ポンパスイッチ確認 油圧レバーで操作できます	ポンパの異常	油圧レバーで作業機を操作する。
シャトルスイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	シャトルの異常	購入先に連絡。
PTO スイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	PTO スイッチの異常	購入先に連絡。

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
アクセルセンサ確認 オートで使用できます ＊1	アクセルセンサの異常	オートスイッチを**【標準又は敏感】**に切換えて使用する。
エンジン回転センサ確認 オートで使用できます ＊1	エンジン回転センサの異常	

＊1　E オート使用時

【倍速】

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
切れ角センサ確認 AD倍速･オートアップが使用できません	切れ角センサの異常	走行モード切換スイッチを**【2WD 又は 4WD】**に切換える。オートアップスイッチを**【切】**にする。
2WD ソレノイド確認 2WD・倍速が使用できません	2WD ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**【4WD】**に切換える。
倍速ソレノイド確認 倍速が使用できません	倍速ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**【2WD 又は 4WD】**に切換える。

【その他】

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
通信確認 購入先へ連絡して下さい	通信回線の異常	表示切換スイッチで表示モードを切換える。購入先に連絡。
スイッチボックス確認 購入先へ連絡して下さい	MA スイッチボックス信号の異常	購入先に連絡。
ハーネス（赤白線）確認 購入先へ連絡して下さい	センサ電源ラインの異常	
ECU 確認 購入先へ連絡して下さい	ECU の異常	

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名				GTS266-M	GTS266-WM	GTS316-M	GTS316-WM
駆動方式				４輪駆動			
機体寸法	全長		mm	3105			
	全幅		mm	1350	1515	1350	1515
	全高		mm	1860			
	軸距		mm	1610			
	輪距	前輪	mm	1095	1100	1095	1100
		後輪	mm	1115，1235	1140	1115，1235	1140
	最低地上高		mm	260			
質量（重量）			kg	1160	1220	1160	1220
エンジン	機関型式			D1703-M-E3-KL1		D1803-M-E3-KL3	
	形式			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル			
	総排気量		L	1.647		1.826	
	出力／回転速度		kW(PS)/rpm	19.1(26)/2600		22.8(31)/2600	
	使用燃料			ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		L	27			
	始動方式			セルモータ式（グロープラグ式）			
	バッテリ			75D23R		80D26R	
タイヤ	前輪			7-14-4PR	230/60-16-4PR	7-14-4PR	230/60-16-4PR
	後輪			9.5-24-4PR	320/60-26-4PR	9.5-24-4PR	320/60-26-4PR
車体	クラッチ方式			乾式単板			
	制動装置			一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）			
	かじ取り方式			ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）			
	差動方式			2 ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			
	変速方式			コンスタントメッシュ			
変速段数（段）	マニュアルシフト仕様			前進 16 段，後進 16 段			
走行速度（km/h）	マニュアルシフト仕様	前進		0.21 ～ 14.78			
		後進		0.19 ～ 13.14			
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			m	2.1			
PTO	回転速度／エンジン回転速度	正転	rpm	564，795，985，1313/2600			
		逆転		985/2600			
	軸寸法		mm	JIS 35			
作業機昇降装置	制御方式			ポジションコントロール			
	装着方式			三点リンク　　JIS　1 形			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

(km/h)

マニュアルシフト仕様			GTS266-M GTS266-WM		GTS316-M GTS316-WM	
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進
1	低	低	0.21	0.19	0.21	0.19
2			0.30	0.26	0.30	0.26
3			0.37	0.33	0.37	0.33
4			0.49	0.44	0.49	0.44
1	高		0.66	0.58	0.65	0.58
2			0.92	0.82	0.92	0.82
3			1.15	1.02	1.14	1.02
4			1.53	1.36	1.53	1.36
1	低	高	1.88	1.67	1.88	1.67
2			2.65	2.36	2.65	2.36
3			3.28	2.92	3.28	2.92
4			4.38	3.89	4.38	3.89
1	高		5.84	5.19	5.84	5.19
2			8.24	7.32	8.24	7.32
3			10.20	9.07	10.20	9.07
4			14.78	13.14	14.78	13.14

■標準付属品

品　　名	数量 / 台	備　　考
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証登録カード	1	
PTO 軸キャップ	1	
ボルト	1	PTO 軸キャップ用
省エネ運転ガイド	1	

索引

英数字

100 時間ごとの点検・整備 78
１年ごとの点検・整備 87
200 時間ごとの点検・整備 83
２年ごとの点検・整備 88
300 時間ごとの点検・整備 86
3P 切換スイッチ 54
400 時間ごとの点検・整備 86
50 時間ごとの点検・整備 76
600 時間ごとの点検・整備 87
800 時間ごとの点検・整備 87
PTO..... 50
PTO 軸カバー,PTO 軸キャップ 50
PTO 変速レバー 50

あ行

アクセルレバーとアクセルペダル 22
安全フレームとシートベルトについて 11
ウインカスイッチ 13
ウエイト（オプション） 62
運転席周りの調節 10
運転前の点検 3
エアクリーナエレメントの交換 87
エアクリーナエレメントの清掃 81
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 79
エンジンオイルの交換 78
エンジンオイルの量及び汚れ 69
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 83
エンジンオイル・ミッションオイル 67
エンジン回転数 29
エンジン始動システムの点検 76
エンジンの始動確認 75
エンジンの始動と停止 4
エンジンの排気の状態 79
エンジンの不調と処置 93
エンジンバルブクリアランスの点検 87
オートアップスイッチ 43
オートスイッチ 58
オートワイヤの収納 48

か行

外部電源・信号取出端子 14
格納 91
各部の名称 51
各変速レバーの取扱い 18
カンタン給油台の使い方 23
寒冷時の暖機運転 9
キースイッチ 7
機能選択表示 30
機能選択表示方法 31
給油（水）一覧表 66
切換スイッチ 57
クラッチハウジングの水抜き 77
クラッチペダル 18
クラッチペダルの遊び・点検 74
クラッチペダルの点検・調整 82
グリース 67
グリースの注入 76
クリープレバー 19
けん引ヒッチ（別売） 49
けん引フック 49
耕深調節ダイヤル 59
小型特殊自動車としての取扱い 2

さ行

サービスと保証 1
サイドカバーの取り外し 68
坂道での運転 35
作業機昇降装置 40
作業機の取扱い 59
作業機落下速度の調整 45
作業機を取付けないときの注意 48
作業条件メモ 32
三点リンク 46
三点リンク高さ規制ダイヤル 40
シート 10
シートベルトホルダ 11
時刻合わせ設定と表示・非表示 33
始動のしかた 4
主要諸元 96
状況に応じた操作 35
水温計 29
推奨オイル・グリース一覧表 67
ステアリングジョイント部の点検 85
スローブローヒューズの交換 90
旋回のしかた 35
前車軸ケースオイルの交換 86
洗車時の注意 63
前部デフケース前後遊びの調整 87
走行装置の取扱い 15
走行速度表 97
走行モード切換スイッチ 21

た行

タイヤ・ウエイト 60
タイヤ取付けボルトの点検 77
タイヤの空気圧 60
タイヤの空気圧, 及び摩耗, 損傷 72
チェックチェーン 48
駐車ブレーキ 22

駐車ブレーキの作動点検 74
長期格納時の手入れ 91
チルトステアリングハンドル 12
定期点検箇所一覧表 65
停止のしかた 7
停車・駐車 16
デフロックの使い方 35
電子メータ 24
電子メータパネルの取扱い 24
電子メータメッセージのリセット法 30
灯火類の操作 13
道路走行中の注意 36
トーイン調整・タイロッドの点検 85
トップリンク 47
トラクタの給油（水） 66
トラクタの主要諸元 96
トラクタの周りを歩いて 69
トラックへの積み・降ろし 37

な行

ならし運転(最初の約 50 時間)..... 10
日常点検 69
燃費表示 34
燃料給油時の便利な機能と装置 22
燃料計 29
燃料の空気抜きのしかた 89
燃料の補給 75
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 87
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 72
燃料ホースの交換 89
燃料ホースの点検 78

は行

廃棄物の処理について 63
バキュエータバルブの清掃 71
ハザードスイッチ 13
バックアップスイッチ 44
バックミラー 12
発進・走行 15
バッテリあがりの処置 9
バッテリ電解液の点検 79
パワーステアリングの取扱い 38
パワーステアリングホースの交換 89
パワーステアリングホースの点検 77
非常停止スイッチ 8
必要に応じた点検・整備 89
ヒューズの交換 90
表示の切換え（液晶表示部） 25
標準付属品 97
ファンベルトの点検・調整 82
不調と処置 93
ブレーキペダル 17
ブレーキペダルの遊び・点検 73
ブレーキペダルの点検・調整 83
フロントカバーの取り外し 68
フロントサイド作業灯 14
ヘッドライトスイッチ 13
防虫網の清掃 73
ホーンボタン 13
ほ場への出入り時の注意 36
ボンネットの開閉 68
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 68
ポンパレバー 41

ま行

満タンお知らせブザーの取扱い 22
ミッションオイルの交換 86
ミッションオイルの量及び汚れ 70
メインシリンダホースの交換 89
メータ・ランプ類の作動 74
メンテナンス表示 31
モンローオート・倍速仕様の故障と処置 94
モンローシリンダホースの交換 89
モンローマチックオートの取扱い 51
モンロ角度調節ダイヤル 58
モンロ手動スイッチ 59
モンロスイッチ 54

や行

油圧オイルフィルタカートリッジの交換 84
油圧（ポジションコントロール）レバー..... 40

ら行

ラジエータの洗浄 89
ラジエータホースの交換 89
ラジエータホースの点検 84
ランプ類の交換 90
輪距の調整 60
冷却水の交換 88
冷却水の量 70
レバーについて 20
ロアーリンク取付け穴の選択 47
ローダ作業 39

わ行

ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの
　点検・交換 71
ワンタッチ耕うんモードスイッチ 52